工 場 設 立 の 經 緯

宇部炭田は宇部市を中心に東西約30キロメートル 南北約20キロメートル に亘る陸地とその沿岸より南方緩かに瀬戸内海の海底に擴がる第三紀層に屬する炭田である。これから產出する石炭は褐炭類似の特異なもので、元來一般石炭の需給と甚だ異つた市場を有し、僅かに家庭用或は鹽田用としての特殊用途を主體としていた。

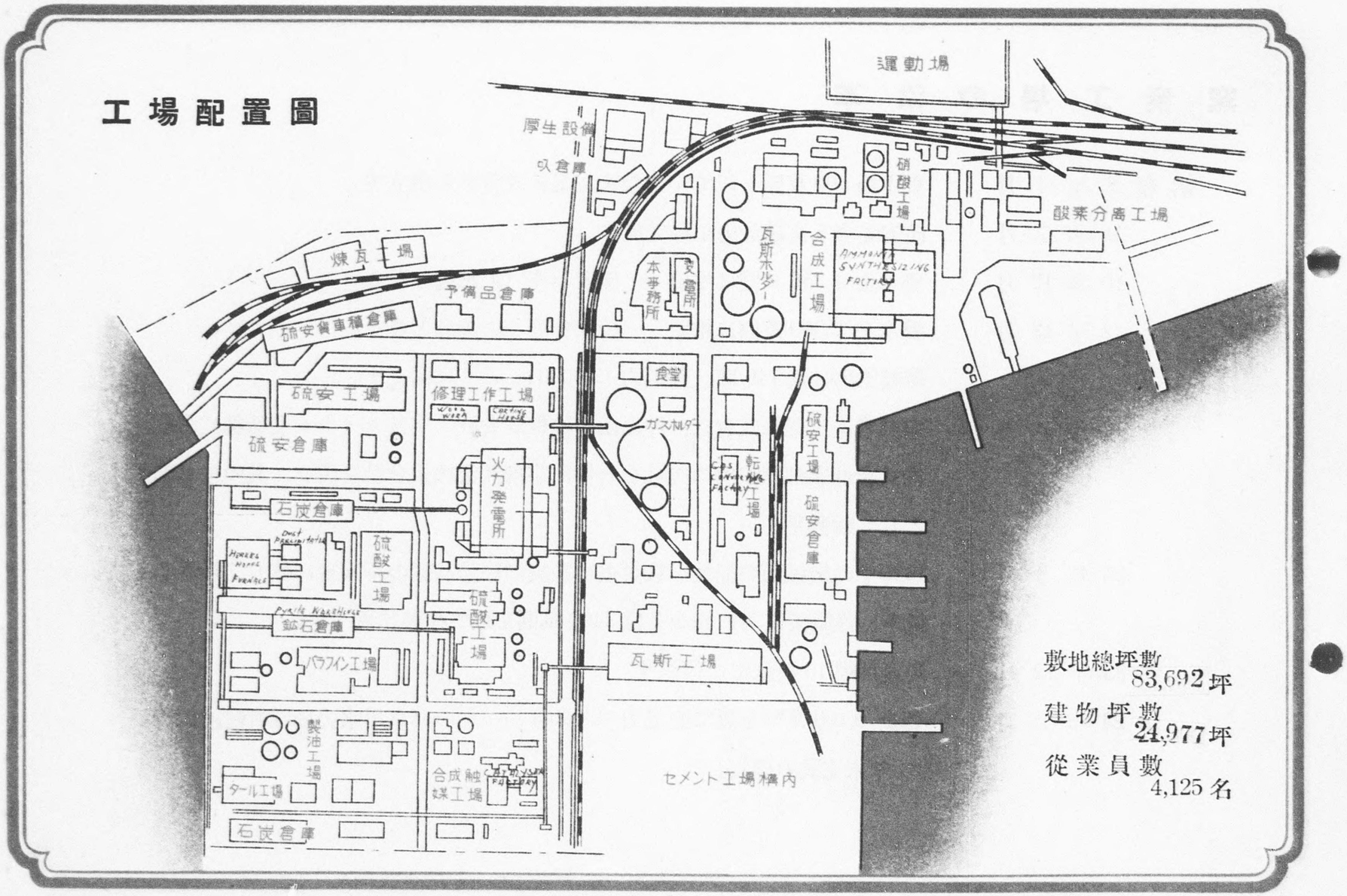
其後工業用としての宇部炭の低劣な條件を特殊な利用方法に依つて好轉せんとする研究が續けられ、其の結果先づ宇部低質炭（3,000～3,500 カロリー）を微粉としボイラーに焚燒せしめ發電用炭として有効的に利用することに成功した。

次で更に宇部上質炭（5,000～5,500 カロリー）に就ても工業的利用價値を高める研究が進められ、先づ宇部セメント製造株式會社に於てセメント製造燒成用としての利用を完成し、續いて「アンモニア」製造の水素源として利用することに著意し、宇部炭の完全瓦斯化の研究完成、その結果宇部窒素工業株式會社の創立を見るに到つた。

窒素工場の沿革

昭和 8 年 4 月	資本金 500 萬圓を以て宇部窒素工業株式會社を創立す。
9 年 7 月	硫安年產 5 萬瓲能力工場完成す。
10 年 12 月	資本金 1,250 萬圓に增資　硫安年產 10 萬瓲となる。
12 年 12 月	資本金 2,500 萬圓に增資　硫安年產 20 萬瓲となる。 硫酸工場日產 740 瓲　發電力 19,000キロワットに擴充す。
17 年 3 月	宇部窒素工業株式會社、沖之山炭鑛株式會社、宇部セメント製造株式會社、株式會社宇部鐵工所の四社を合併、宇部興產株式會社を設立、其の一事業所として新發足す。
20 年 8 月	戰時中の機械類の酷使、戰災並に戰後の經濟狀態の不安定に依り生產著しく低下、終戰後直ちに資金 2 億 2400 萬圓を以て復興に着手す。
23 年 12 月	年產目標 16 萬瓲迄に復舊す。
24 年 2 月	資金 9,100 萬圓を以て發電力 4,000 キロワット の厚東川水力發電所建設に着手 24 年末完成の豫定。

工場配置圖



敷地總坪數 83,692坪
建物坪數 24,977坪
從業員數 4,125名

工場の主要機械設備

アンモニア製造装置

石炭乾溜爐	(コッパース式)	68室
半水性瓦斯發生爐	(〃)	14基
脫硫裝置	(タイロックス式)	2基
〃	(シーボード式)	4基
〃	(乾式)	4基
一酸化炭素轉化裝置		6基
炭酸瓦斯水洗塔		8基
曹達塔		14基
窒素壓縮機		7基
空氣分離器	(リンデ式)	8基
水素分離器	(〃)	7基
空氣壓縮機		8基
復合壓縮機		7基
アンモニア合成塔	(フアウザー式)	5基

硫酸製造裝置

稀硫酸製造裝置	(ペテルゼン式)	2基
濃硫酸製造裝置	(ルルギ式)	1基

硫安製造裝置

飽和槽		12基
遠心分離器		9基

稀硝酸製造裝置 (A)

アンモニア酸化器	(フアウザー式)	2基
ターボ瓦斯壓縮機	(〃)	2基

稀硝酸製造裝置 (B)

アンモニア酸化器		4基
杭火石吸收塔		1基

濃硝酸製造裝置

濃縮塔		3基
硝安製造裝置		2基

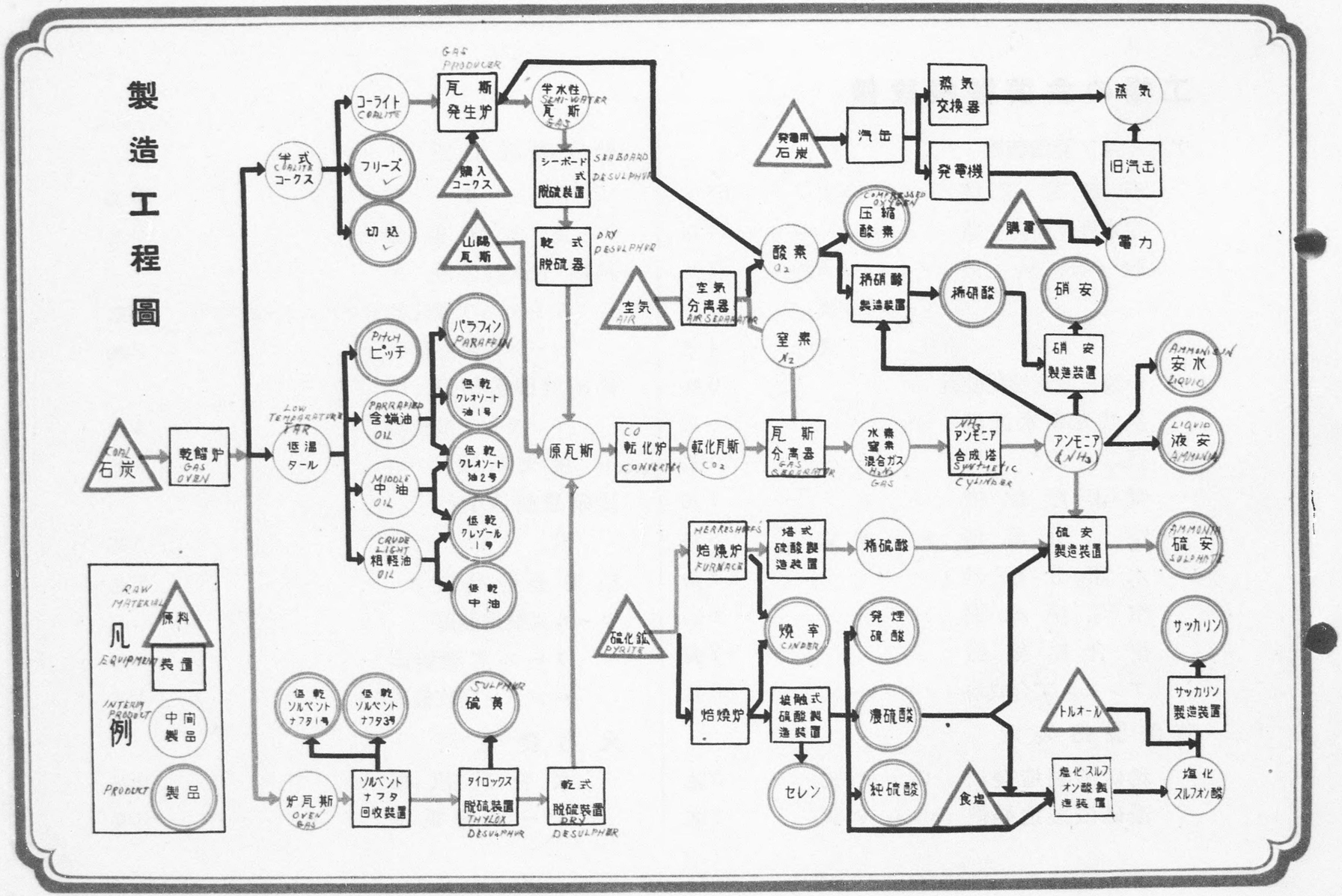
タール系製造裝置

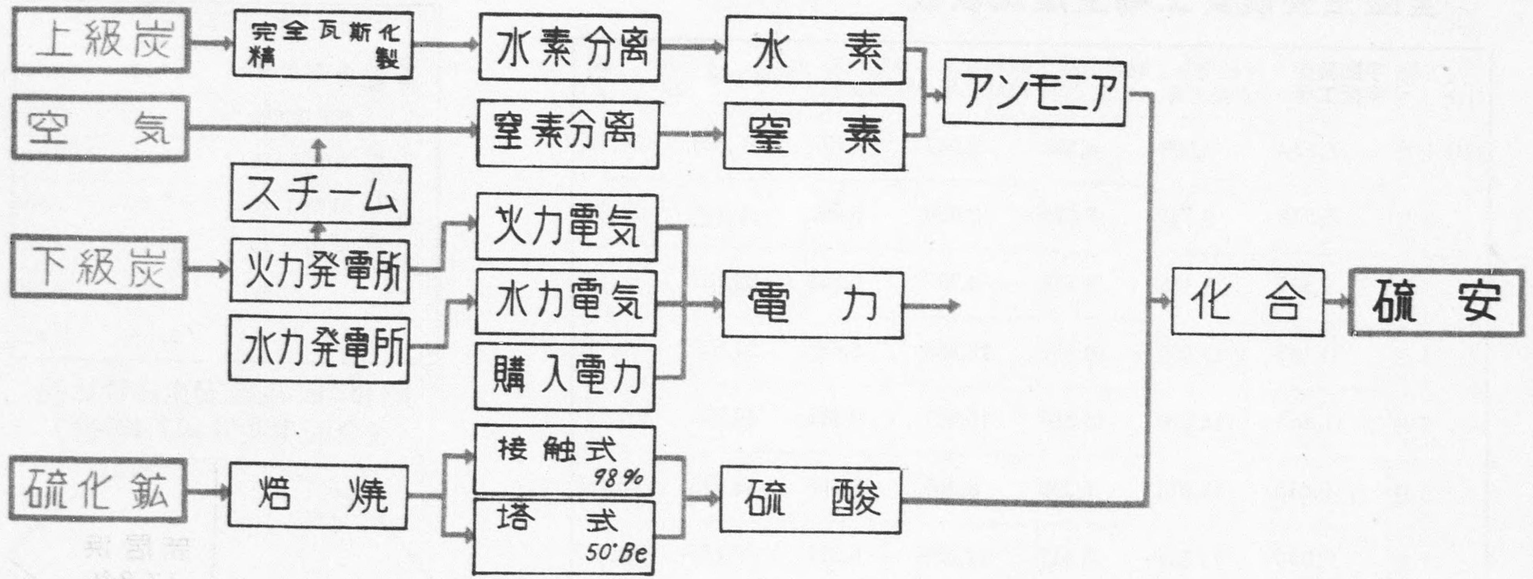
タール蒸溜裝置		6基
ベンヂン回收裝置		1基

火力發電所

水管式汽罐		6基
ターボ發電機		3臺

製造工程圖


GAS PRODUCER
瓦斯発生炉
半水性瓦斯 SEMI-WATER GAS
コーライト COALITE
フリーズ
切込
乾式 COALITE コークス
購入コークス
山陽瓦斯
シーボード式脱硫装置 SEABOARD DESULPHR
乾式脱硫器 DRY DESULPHR
空気 AIR
空気分離器 AIR SEPARATOR
酸素 O2
窒素 N2
発電用石炭
汽缶
蒸気交換器
発電機
蒸気
旧汽缶
購電
電力
COMPRESSED OXYGEN
圧縮酸素
稀硝酸製造装置
稀硝酸
硝安
硝安製造装置
AMMONIUM 安水 LIQUID
LIQUID 液安 AMMONIA
アンモニア (NH3)
NH3 アンモニア合成塔 SYNTHETIC CYLINDER
水素窒素混合ガス H2+N2 GAS
瓦斯分離器 GAS SEPARATOR
CO 転化炉 CONVERTER
転化瓦斯 CO2
原瓦斯
PITCH ピッチ
PARRAFIN パラフィン
LOW TEMPERATURE TAR 低温タール
PARRAFIND 含蝋油 OIL
MIDDLE 中油 OIL
CRUDE LIGHT 粗軽油 OIL
低乾クレオソート油1号
低乾クレオソート油2号
低乾クレゾール1号
低乾中油
COAL 石炭
乾餾炉 GAS OVEN
RAW MATERIAL 凡 EQUIPMENT 原料 装置
INTERM PRODUCT 例 中間製品
PRODUCT 製品
HERRESHOFFS 焙焼炉 FURNACE
塔式硫酸製造装置
稀硫酸
硫化鉱 PYRITE
焼宰 CINDER
発煙硫酸
焙焼炉
接触式硫酸製造装置
濃硫酸
セレン
純硫酸
硫安製造装置
AMMONIUM 硫安 SULPHATE
サッカリン
トルオール
サッカリン製造装置
食塩
塩化スルフォン酸製造装置
塩化スルフォン酸
低乾ソルベントナフタ1号
低乾ソルベントナフタ3号
SULPHUR 硫黄
炉瓦斯 OVEN GAS
ソルベントナフタ回収装置
タイロックス脱硫装置 THYLOX DESULPHR
乾式脱硫装置 DRY DESULPHR



硫安製造の概要

1. 上級炭並に下級炭は總て宇部市附近より產出する石炭を以て之に當てている。
2. 硫化鑛は棚原(岡山) 松尾(岩手) 花岡(秋田) 河山(山口) より入手している。
3. 自發電力と購入電力の割合は　自發 60％　購入 40％ である。
4. 硫安1瓲造るには上級瓦斯用炭1.2瓲、發電ボイラー用炭2.3瓲、硫化鑛0.6瓲、電力量 1,200キロワット時 を要する。

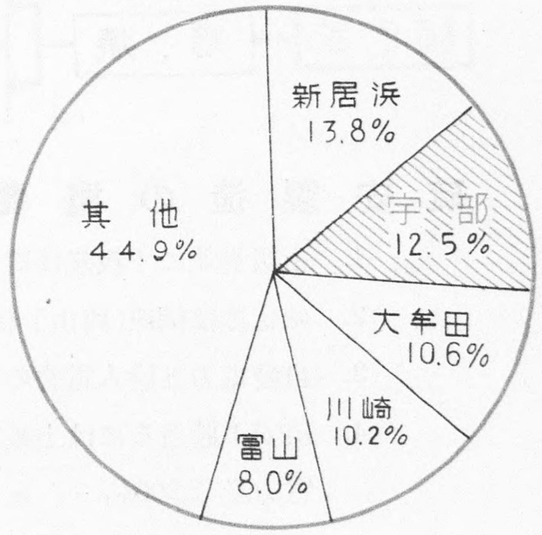
全國主要硫安工場生産比較表 （單位月産瓲）

工場 / 月次	宇部興産 宇部工場	日新化學 新居濱工場	東洋高壓 大牟田工場	昭和電工 川崎工場	日産化學 富山工場	其他工場	全國生産量
23年1月	7,534	9,523	6,502	2,047	4,874	26,395	56,875
2月	7,570	9,715	7,076	2,080	5,092	19,716	51,249
3月	9,519	8,138	8,522	4,757	5,543	29,707	66,186
4月	11,163	13,079	10,111	12,856	8,686	34,815	90,710
5月	11,867	14,229	10,510	15,017	9,818	40,310	101,751
6月	9,615	11,014	7,290	8,865	5,005	33,398	75,187
7月	9,030	11,148	8,417	11,060	6,374	36,788	82,817
8月	8,063	10,323	7,006	7,318	1,952	32,892	67,159
9月	9,504	7,671	8,560	7,729	5.427	41,459	80,351
10月	11,025	12,133	7,439	6,434	6,725	38,492	82,248
11月	11,063	10,392	7,557	8,115	7,413	38,956	83,496
12月	9,207	9,120	8,207	7,213	6,350	29,912	79,009
計	115,160	126,485	97,197	93,491	73,259	411,835	917,437

全國主要硫安工場最近の生産 （單位瓲）

工場名		24年1月	24年2月
宇部興産	宇部工場	9,309	9,958
日化新學	新井濱工場	9,548	8,121
東高洋壓	大牟田工場	8,671	7,428
昭電和工	川崎工場	7,533	4,659
日化産學	富山工場	5,985	6,323
其他		38,509	36,395
計		79,555	72,884

昭和23年度硫安生産量比較
（全國生産量 917,437瓲）

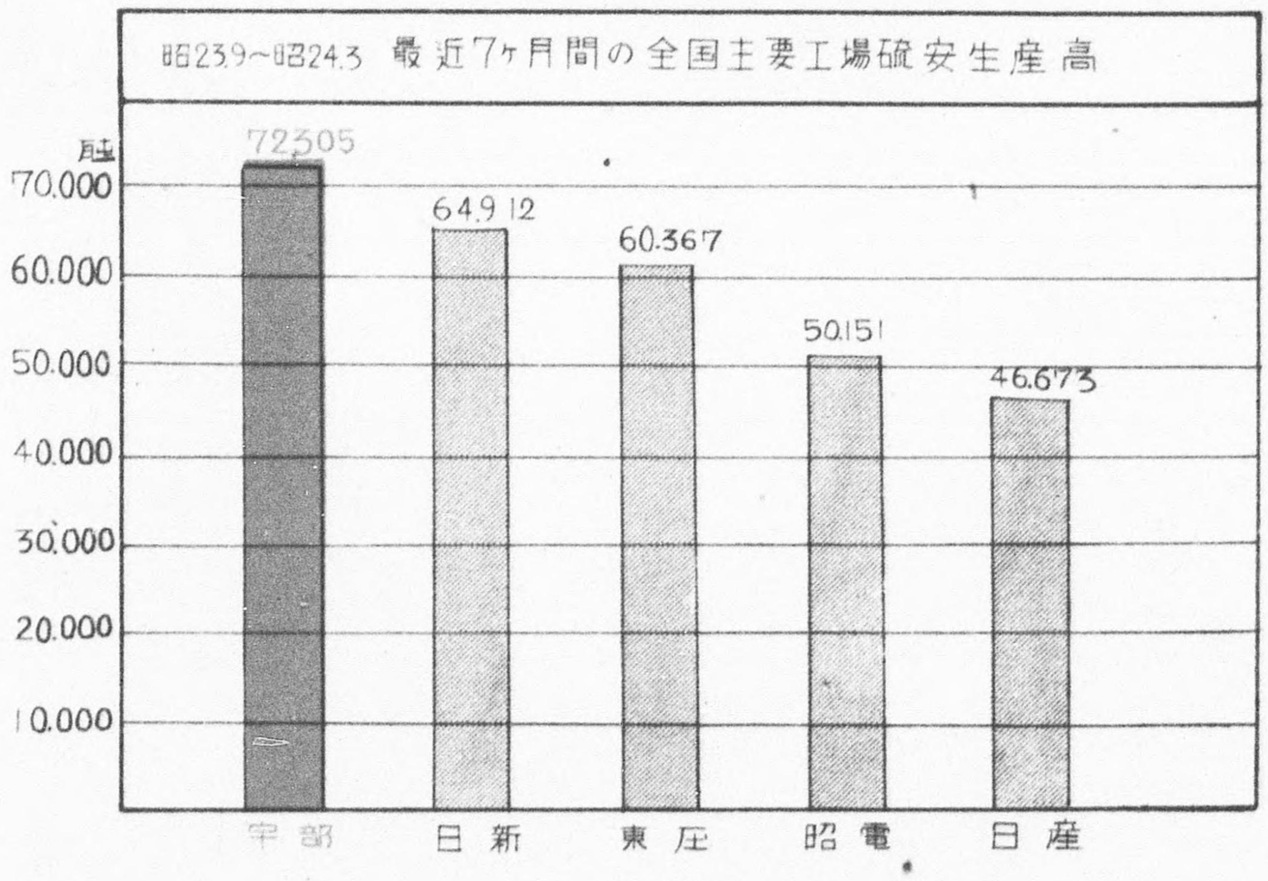


（追記）

昭２４.ろ月の主要工場の硫安生産実績は次の通りであつて

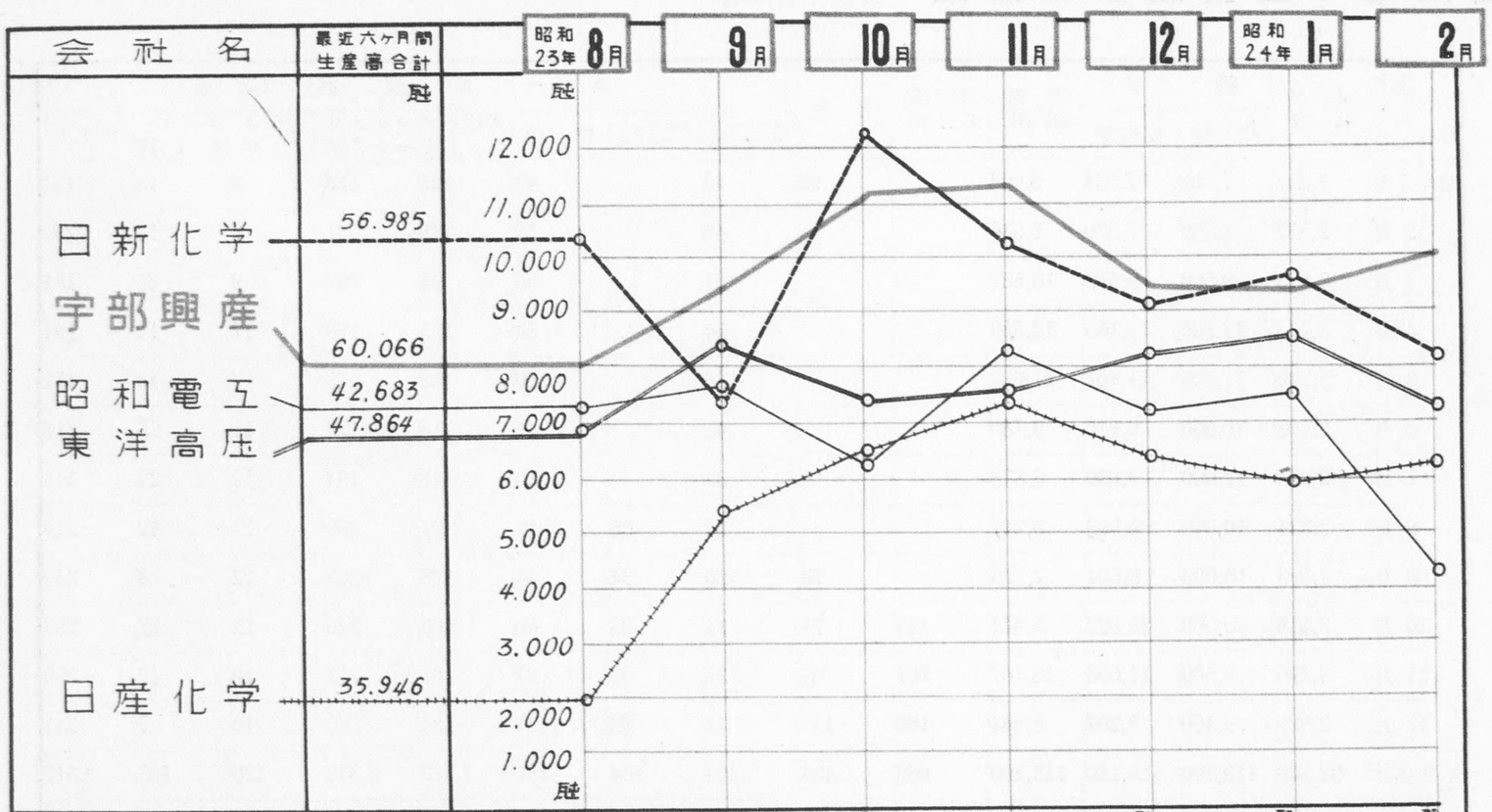
宇部	12.239
日新（新居浜）	8.131
東圧（大牟田）	11.712
昭電（川　崎）	8.468
日産（富　山）	8.350

過去７ヶ月間の生産累計を示せば



昭和23年全國主要硫安工場の生産量（單位瓲）

会社名	最近六ヶ月間生産高合計 瓲
日新化学	56.985
宇部興産	60.066
昭和電工	42.683
東洋高圧	47.864
日産化学	35.946



	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
全国総生産量	80.350瓲	82.248瓲	83.496瓲	79.009瓲	79.555瓲	72.884瓲	
宇部窒素工場の占める生産量	10%	13%	13%	12%	12%	13.7%	

當工場の重要製品生産量 (月産・單位瓲)

品目 / 月次	アンモニア	硫安		硫酸 50°BE	硝酸 62%	石硝安	タール製品(低乾)							
		指示量	生産量				ソルベントナフタ1號	ソルベントナフタ3號	中油	クレオソート1號	クレオソート2號	パラフイン	クレゾール1號	ピツチ
23年1月	2,245	7,500	7,534	6,995		95	46		42	125	128	8	18	131
2月	2,137	8,500	7,570	8,535			48		52	138	131	6	13	252
3月	2,673	9,500	9,519	10,557			51		53	94	203	9	21	181
4月	3,164	11,500	11,163	12,589			54		54	123	178	12	12	194
5月	3,300	11,500	11,867	11,682			38		50	102	178	7	13	171
6月	2,703	10,800	9,615	9,780			45		41	116	176	11	28	216
7月	2,523	11,000	9,030	8,818			33		30	148	194	10	22	145
8月	2,324	10,000	8,063	8,247			14	30	14	91	193	12	12	219
9月	2,699	10,000	9,504	7,770		78	20	34	44	178	203	12	8	245
10月	3,116	10,000	11,025	8,814	113	71	11	28	46	169	246	13	22	253
11月	3,296	9,500	11,063	10,767	201	95	26	33	37	167	217	10	17	269
12月	2,329	9,400	9,207	8,544	160	115	18	39	21	134	266	10	7	241
年間累計	32,509	119,200	115,160	113,100	665	454	404	164	484	1,585	2,313	120	193	2,517
24年1月	2,635	9,000	9,309	10,642	264	43	12	29	53	140	290	10	18	267
2月	2,701	9,500	9,958	11,017	165	43	17	36	48	130	274	8	19	248

現在建設中の厚東川水力發電所

堰　　堤　山口縣に於て宇部・小野田兩市の工業用水、飲料水並に灌漑用水の源水補給の目的で324平方キロメートルの集水面積と23,788,000立方メートルの貯水量をもつ堰堤は昭和16年9月着工昭和23年5月全工程の85%完了した儘工事を中止していたが、縣に於て工事續行を計畫し當局の許可を得て昭和24年5月を目標に工事完成を急いでいる。

水力發電所

計　　畫　上記堰堤工事完成に依る200個以上の水量と28.5メートルの落差を利用して最大4,000キロワット年間1,200萬キロワット時の電力發生が可能である。

着工完成月日　昭和24年2月着工　昭和24年末完成の豫定。

主要機械設備　フランシス型水車1臺、フランシス型發電機1臺、油入自冷屋外變壓器（發電所內3臺、工場內3臺）天井走行起重機1臺

建設資金　9,100萬圓

發電所建設による利益

1. 渇水期に於ける電力の補給に依り施設能力を100%に操業出來ることによる硫安增產2,300瓲
2. 工場內の安定電源を要する裝置に直結して獨立して使用することに依る年間4,000瓲程度の增產を期し得る。
3. 水力發電所建設に依つて年間20,000瓲以上の石炭が節約出來るのと同一效果を發揮する。
4. 發電原價が火力に比して低廉となる。

工場の復興と設備資金

硫安年產 160 萬瓲の國家計畫中當工場の分擔は20萬瓲である。一方工場に於ては戰時中の機械類の酷使に依る施設老朽と戰災に依り、直ちに20萬瓲の能力を發揮する事は困難であつたので、終戰と同時に復興整備計畫を樹立し、凡ゆる困難を排除しつゝ工場從業員協力一致して之が復舊に努め、當初計畫の 80% 迄の遂行を見、現在生產能力は 16萬瓲 にまで到達した。而して今尙營々として其の復興に當つている。

工場はこの復興整備に當つて下記

第一次借入金	日本肥料より借入、同機關閉鎖に伴ひ農林中央金庫に引繼がれたもの	¥ 63,937,000
	共同融資團より借入れ	63,000,000
第二次借入金	同	50,400,000
第三次借入金	同	47,000,000
合　計		¥224,337,000

の如く三次に涉つて借入を行つた

終戰前の帳簿價格と其後借入れた復興整備金額との總計を生產能力に比較するときはその瓲當りの建設費は 1,276 圓であり、全國硫安工場中最少である。

而も現在建設中の水力發電所の建設資金を合せても尙 1,580 圓程度のものであり、當工場と同程度の生產能力を有する他硫安工場の建設費と比較する時に當工場は約２分の１乃至４分の１の建設費であつて、これは全國 22 硫安工場中最優秀のものである。

工場の復興と設備資金

硫安年產160萬瓲の國家計畫中當工場の分擔は20萬瓲である。一方工場に於ては戰時中の機械類の酷使に依る施設老朽と戰災に依り、直ちに20萬瓲の能力を發揮する事は困難であつたので、終戰と同時に復興整備計畫を樹立し、凡ゆる困難を排除しつゝ工場從業員協力一致して之が復舊に努め、當初計畫の80%迄の遂行を見、現在生產能力は16萬瓲にまで到達した。而して今尙營々として其の復興に當つている。

工場はこの復興整備に當つて下記

第一次借入金	日本肥料より借入、同機關閉鎖に伴ひ農林中央金庫に引繼がれたもの	¥ 63,937,000
	共同融資團より借入れ	63,000,000
第二次借入金	同	50,400,000
第三次借入金	同	47,000,000
合　計		¥224,337,000

の如く三次に涉つて借入を行つた

終戰前の帳簿價格と其後借入れた復興整備金額との總計を生產能力に比較するときはその瓲當りの建設費は1,276圓であり、全國硫安工場中最少である。

而も現在建設中の水力發電所の建設資金を合せても尙1,580圓程度のものであり、當工場と同程度の生產能力を有する他硫安工場の建設費と比較する時に當工場は約2分の1乃至4分の1の建設費であつて、これは全國22硫安工場中最優秀のものである。

硫安各社瓲當り建設費一覧表

昭和23年第1・4半期末

（單位　千圓）

會社名		A 所要金額	B 終戰前の帳簿價格	A+B	C 生産能力	A+B / C 瓲當り建設費(圓)
日産化學	富山	153,203	24,256	177,459	132,000	1,344
日東化學	八戸	210,820	19,718	230,538	48,000	4,803
同	横濱	91,494	10,434	101,928	50,000	2,022
小計		302,314	30,152	332,466	98,400	3,379
日新化學	新居濱	274,900	37,856	312,756	189,600	1,650
昭和電工	川崎	1,840,655	20,024	1,860,679	247,500	7,518
日本窒素	水俣	201,322	20,430	221,752	66,000	3,360
三菱化成	黒崎	171,302	15,466	186,768	66,000	2,830
別府化學	別府	145,000	7,088	152,088	30,000	5,070
宇部興産	**宇部**	**202,507**	**8,091**	**210,598**	**165,000**	**1,276**
東亞合成	名古屋	128,641	17,911	146,552	72,000	2,035
旭化成	延岡	127,788	8,851	136,639	33,600	4,067
東北肥料	秋田	271,617	19,969	291,581	31,800	9,169
日本水素	小名濱	271,272	25,431	296,703	63,000	4,710
東洋合成	新潟	69,283	2,993	72,276	18,000	4,015
東洋高壓	大牟田	197,642	22,897	220,539	162,000	1,361
同	彦島	56,935	4,678	61,613	10,800	5,705
同	砂川	579,664	110,575	690,239	68,500	10,076
小計		834,241	138,150	972,391	241,300	4,030
計		4,994,040	376,668	5,370,708	1,454,200	3,693
參考 日本肥料	四日市	35,000	10,000	45,000	20,400	2,206
總計		5,029,040	386,668	5,415.708	1,474,600	3,673

註　1　東洋高壓（砂川）の場合は尿素工場の配分を 7：3 とし 94,500 千圓（135,000）を算入計算
　　2　日本肥料分は閉鎖機關指定中につき資料不明
　　3　此の所要額中には二・四半期以降に生ずる新規工事値上り額は之を含まず
　　4　本表は硫經連作成
　　5　生産能力は23年度價格決定の際物價廳の取まとめたる數字

當工場主成品の價格用途並販路

製品名	單位	販賣單價(圓/瓲)	用途	販路	年間生産能力(瓲)	製品名	單位	販賣單價(圓/瓲)	用途	販路	年間生産能力(瓲)
硫安	Ton	18,435	肥料	中國・近畿	200,000	低乾クレオソート油2號	Ton	7,840	木材防腐劑	中國・近畿・關東	3,700
液體アンモニア	〃	55,514	工業藥品	同上	1,080	低乾クレゾール1號	〃	114,340	合成樹脂	中國・近畿關東・九州	360
稀硝酸	〃	13,433	火藥藥品	同上	14,400	低乾高沸點タール酸	〃	70,540	〃	同上	180
硝安	〃	39,888	火藥肥料	同上	7,200	低乾中ピツチ	〃	6,720	煉炭粘結劑鋪裝劑其他	中國・近畿	3,800
炭安	〃	23,200	藥品	同上	720	130°パラフイン	〃	100,394	蠟燭・其他	中國・近畿・關東	240
50° Be 硫酸	〃	4,667	硫安・人絹・工業藥品其他	——	95,000	ヘビーナフサ	〃	28,000	溶劑・其他	中國	120
98% 硫酸	〃	7,377	〃	——	100,800	精製硫黃	〃	14,000	硫酸製造其他	中國・近畿四國・九州	180
クロールスルフオン酸	〃	58,100	化學藥品原料	近畿・九州	300	コロイド硫黃	〃	10,000	農藥・ゴム	同上	1,440
低乾ソンベントナフタ1號	〃	31,520	溶劑其他	中國・近畿・關東	960	壓縮酸素	1000 M³	18.96	鎔接	中國	200,000
低乾ソルベントナフタ3號	〃	24,470	〃	同上	900	コーライト粉	Ton	1,958	燃料・豆炭	中國・近畿四國・關東	43,200
低乾中油	〃	10,690	〃	同上	1,080	サツカリン	kg	10,100	甘味劑	同上	2
低乾クレオソート油3號	〃	9,550	木材防腐劑	同上	3,300						

備考 1. 其他製品　クレオゲン、チオテール、ロヂン
2. 販賣價格は現行、單位は圓　3. 生産能力單位は瓲

新 計 畫 概 要

復興整備計畫樹立と共に先づ硫安生產に主力を注いだ。其の結果硫安の生產能力は80%迄に復舊し此の面に於ては一應安定を得た。

次で化成品の增產に力を入れ總合化學工業としての妙味を發揮し、自立經濟に於ける安定性を保たせるよう努力している。而して各種製品は質的には改良すると共に、量的に增產し之に加へて新計畫として**磷酸**、**亞硝酸ソーダ**、**コンセルバン**、**ベークライトパウダー**、**ニス**、**ピツチコークス**の新製品の製造を行い賣上も下記の如く增加する見透しである。

その賣上を示せば次の如くである。

品　　目	硫安生產 11,000 瓲の場合	硫安生產 12,000 瓲の場合	硫安生產 13,000 瓲の場合
硫　　安	204,812,850圓	223,432,200圓	242,051,550圓
アンモニア系製品	14,712,590	14,712,590	14,712,590
タール系製品	17,391,316	18,629,210	19,464,414
硫酸系製品	1,181,000	1,181,000	1,181,000
石炭系製品	6,090,000	6,580,000	6,900,000
其他製品	5,639,400	5,759,400	5,939.400
新　製　品	9,444,818	9,444,818	9,444,818
計	**259,271,974**	**279,739,218**	**299,693,772**

工場の福利施設其他

社宅・社員寮

市の郊外宮の原、外の原、下の原、常盤臺其他に社宅及寮を設け色々の厚生施設を設置し、従業員の利用に充てている。

社　宅　　22ヶ所　481戸（收容世帶481世帶）

寮　　7ヶ所　11棟（收容人員402名）

食堂、浴場を設備す。

診　療　所

工場專屬診療所を設置し專任の醫師看護婦が診療に當り、工場內には診療所の分室を設け、健康保險組合と協力保健に從事している。

厚生施設

工場內には物品販賣所、物品配給所、精粉所、浴場等あり工場外には社員俱樂部、喫茶室、理髮所、被服厚生所、靴修理所、時計修理所、洗濯所等を設置し、從業員の便を計つている。

勞働組合

昭和21年全從業員で結成せられ總同盟に加入せる單一組合で極めて健全な發展過程を辿り、硫安工業の重要さを認識せる各組合員は生產意欲旺盛で工場復興に孜々として從事し、從業員相互の向上のため文化、體育、慰安、教育に留意、月刊機關紙を發行している。

將來の硫安生産計畫

當工場に於ける生產能力は、本年三月の操業狀況より見て、すでに硫安年產 160,000—170,000 瓲程度に恢復してをり、昭和二十五年末には、200,000瓲に到達の見込である。

從て、今後の生產は、原材料の入手如何にあり、當工場としては、石炭には何等の不安なく、電力も中國地區に於ける日發設備復舊と、當社厚東川水力發電所の完成と相俟つて、好轉の見込にてただ硫化鑛の入手如何によつて左右されることとなる。尙近く硫化鑛山を自營する計畫である。

以上の原材料事情を勘案する時、當工場今後の生產豫定は凡そ次の如きものと思はれる。

將　來　の　硫　安　生　產　計　畫

	復興生產能力	生產豫定量(A)	操業度	全國生產豫定量(B)	全國に對する比率(B/A)
昭和二十四年	170,000	147,500	87%	1,140,000	13.1%
〃 二十五年	200,000	160,000	80%	1,150,000	14.0%
〃 二十六年	220,000	200,000	87%	1,400,000	14.3%
〃 二十七年	220,000	210,000	95%	1,500,000	14.0%

最近に於ける工場の生産能率

終戰後の全面的復興工事の進捗と生産の安定化とにより、最近に於ける工場の生産能率は著しく向上した。

卽ち工場創立以來の最高生産を發揮した、昭和16年の製品硫安１瓲當りに使用せられた原材料の量を最近のそれと比較すれば次の通りである。

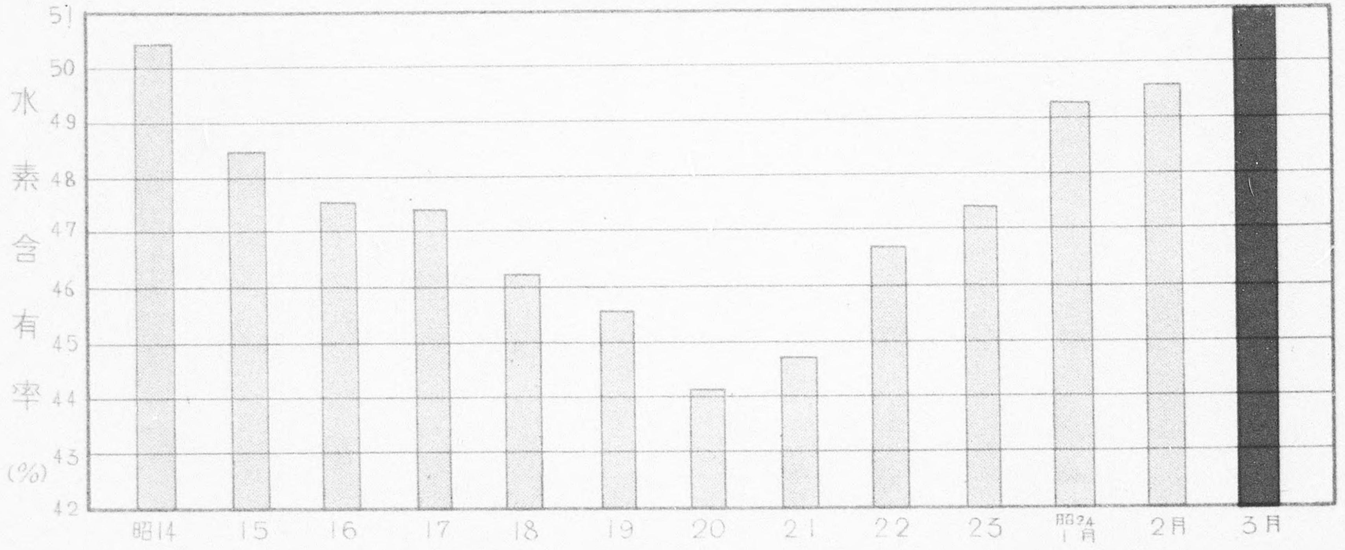
	昭１６年 (１ヶ月平均硫安生産 14,100瓲	昭24年３月 (硫安生産 12,239瓲	昭２２年 (１ヶ月平均硫安生産 7,180瓲
瓦斯用炭	1.１４瓲	1.１３瓲	1.４５瓲
電力	９９８KWH (自發777KWH　購入221KWH)	1.１４２KWH (自發524KWH 購入618KWH)	1.３００KWH (自發412KWH　購入888KWH)
ボイラー用炭	2.２８瓲	1.８０瓲 (自發火力を昭16年と同じにすれば2.23瓲となる)	2.３４瓲 (自發火力を昭16年と同じにすれば2.96瓲となる)

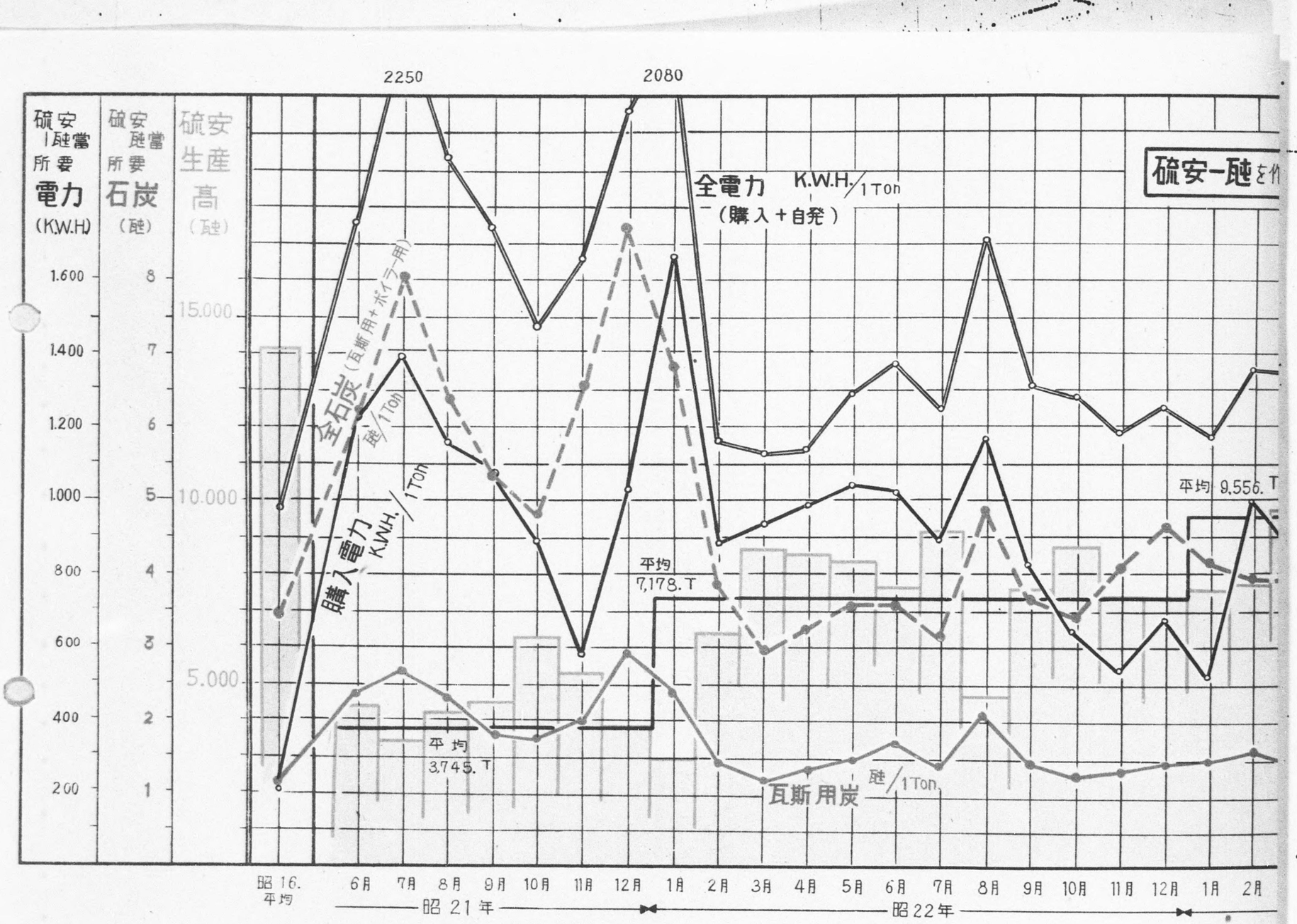
尙昭和21年６月以降の各原料原單位の推移を示せば別紙の通りである。

以上の如く各原料の原單位は最近著しく向上したが、特に瓦斯用炭の原單位に就いて見るに昭和16年當時5500カロリー程度の石炭を使用したのに對し最近は4800カロリー平均位であるにも拘らず、前記の成績を擧げてゐる。

因みに、瓦斯用炭の完全瓦斯化によつて得られる原料瓦斯中の有効成分たる水素の含有率が如何に最近に於て增大したかを示せば次の通りである。隨つて、硫安當りの所要原料瓦斯量はこれに比例して減少した。

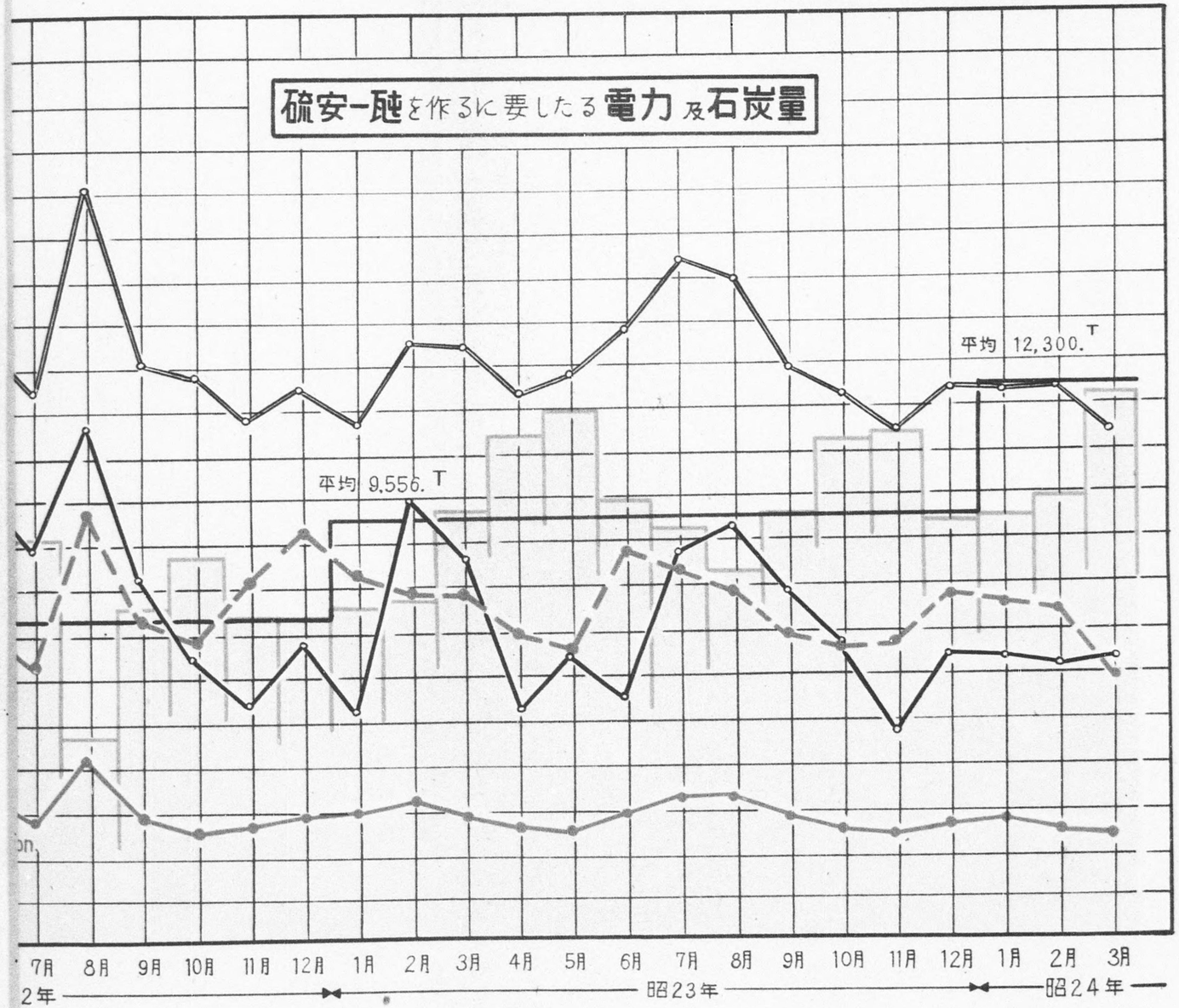
原料瓦斯中の水素含有率の推移




硫安1瓲當所要電力 (K.W.H)
硫安1瓲當所要石炭 (瓲)
硫安生産高 (瓲)
1.600
1.400
1.200
1.000
800
600
400
200
8
7
6
5
4
3
2
1
15.000
10.000
5.000
2250
2080
全電力 K.W.H./1Ton
(購入+自発)
全石炭 (瓦斯用+ボイラー用)
瓲/1Ton
購入電力 K.W.H./1Ton
平均 7,178.T
平均 3,745.T
平均 9,556.T
瓦斯用炭 瓲/1Ton
硫安一瓲を作
昭16. 平均
6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月
昭21年
昭22年

宇部興産　宇部窒素工場

硫安一噸を作るに要したる電力及石炭量



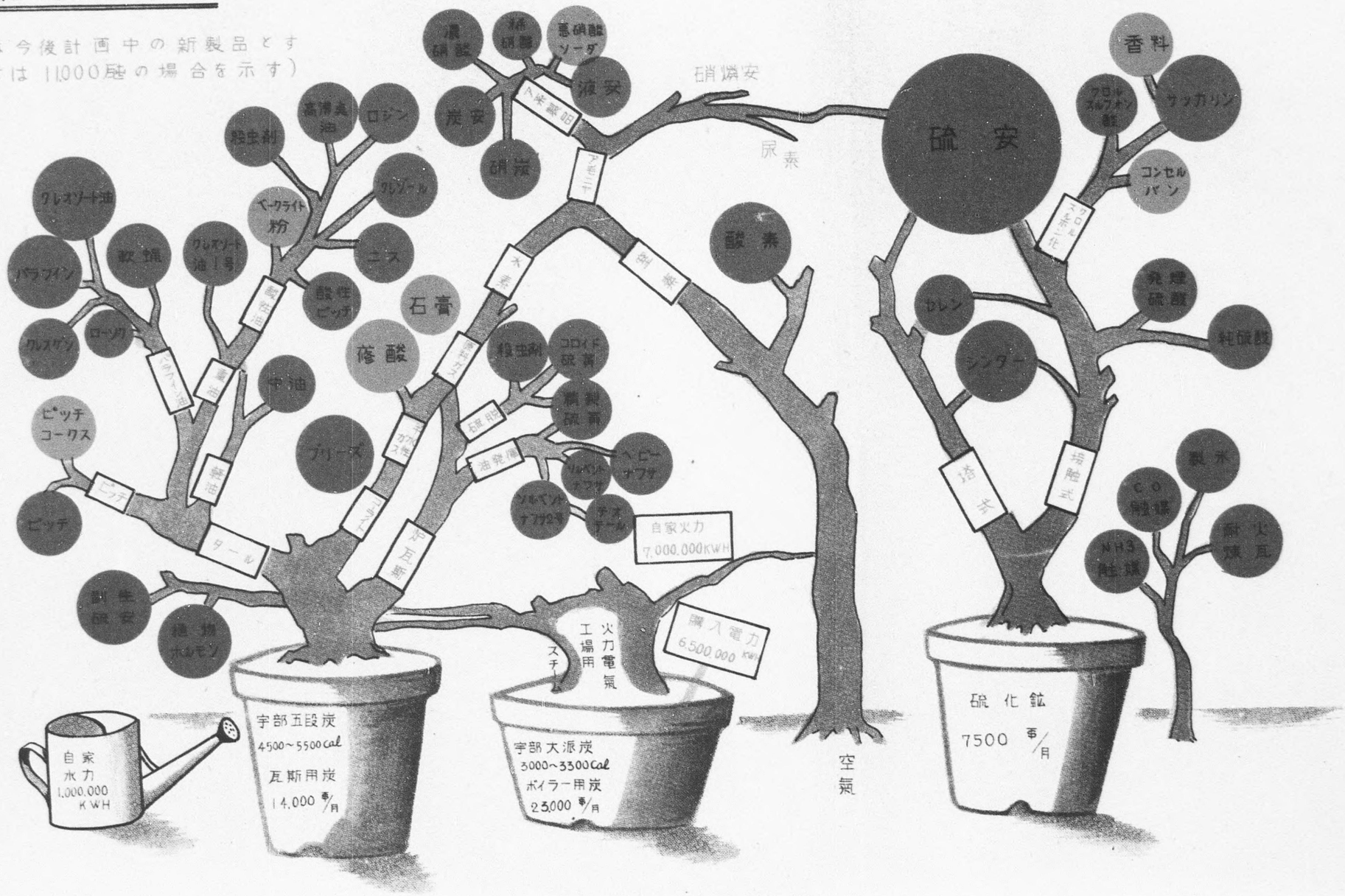
宇部窒素工場の製品及売上額

赤で示すは今後計画中の新製品とす
（数字を示すは 11,000瓲の場合を示す）

硫安月産
11,000瓲の時
硫安 19470 万円
副産 5600
計 25070 万円

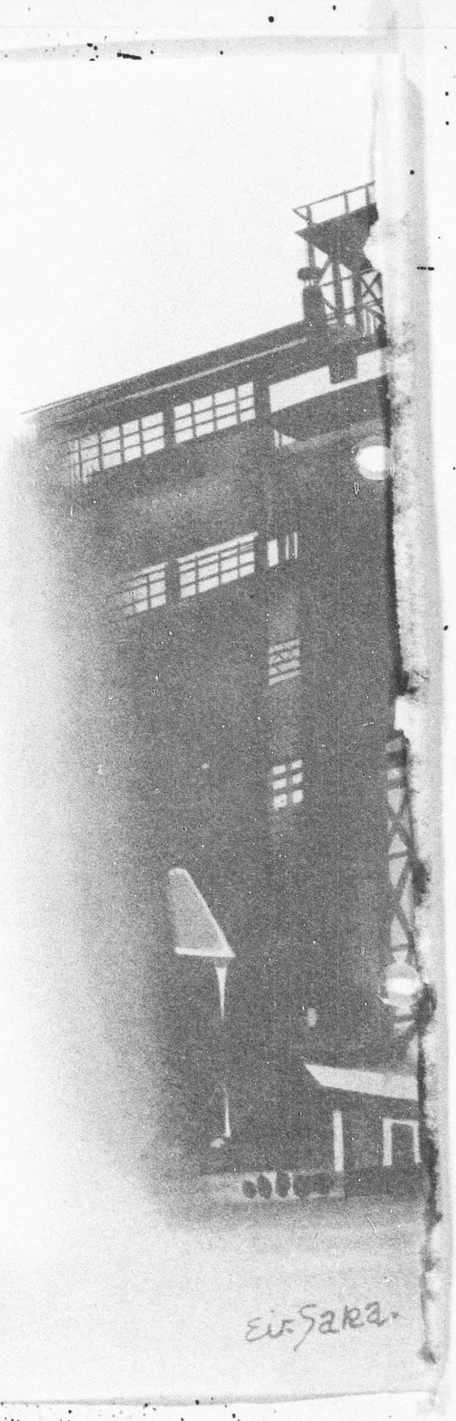
硫安月産
12,000瓲の時
硫安 21240 万円
副産 5700
計 26940 万円

硫安月産
13,000瓲の時
硫安 23010 万円
副産 5800
計 28810 万円



宇部興産株式會社

本　　社	宇部市大字小串1976の1 電話(代表)宇部890
東京支社	東京都千代田區有樂町1の4 電話銀座5018・6737-8
大阪出張所	大阪市北區中之島3　三井不動產ビル 電話(代表)土佐堀3731
廣島出張所	廣島市段原大畑町15 電話(中ノ二)1873
宇部窒素工場	宇部市大字小串1978の10 電話(代表)宇部1590



File
Plant file
Use Shiso

1. Actual condition from Jan. 1949 to Mar. 1949

			Jan. 1949	Feb. 1949	Mar. 1949
Ordered amount of Production of Amm. Salphate			9,000 ton (9,309 ton)	9,500 ton (9,958 ton)	10,000 ton (12,239 ton)
Consumed Power KWH (1,000)	Purchased Power	Allocation	8,547	8,586	8,017
		Comsumption	8,466	8,586	8,017
	Private Power		5,858	6,459	6,476
	Total Power		12,324	13,045	14,493
Unit Comsumption of power per ton of Amm. Sulphate (KWH)			1,231	1,271	1,172

ow the actual production.

File
Plant file
Ube Chiso

1. Actual condition from Jan. 1949 to Mar. 1949

			Jan. 1949	Feb. 1949	Mar. 1949
Ordered amount of Production of Amm. Salphate			9,000 ton (9,309 ton)	9,500 ton (9,958 ton)	10,000 ton (12,239 ton)
Consumed Power KWH (1,000)	Purchased Power	Allocation	6,547	6,586	8,017
		Comsumption	6,466	6,586	8,017
	Private Power		5,858	6,459	6,476
	Total Power		12,324	13,045	14,493
Unit Comsumption of power per ton of Amm. Sulphate (KWH)			1,231	1,271	1,172

Note ( ) show the actual production.

2. Estimated condition from Jan. 1950 to Mar. 1950

			Jan. 1950	Feb. 1950	Mar. 1950
Ordered amount of Production of Amm. Salphate			12,900 ton	11,400 ton	14,600 ton
Consumed power KWH (1,000)	Purchased power	Allocation	8,315	4,643	7,142
		Excess	1,363	1,301	1,016
		Total purchased power	6,678	5,944	8,158
	Private Power		8,000	7,400	8,000
	Total power		14,678	13,344	16,158
Unit consumption of power per ton of Amm. Sulphate			1,080	1,100	1,060

3 Comparision of new and old perchased power rate

	Old rate (A)			New rate (B)			(B)-(A)=Increased rate	
		Total purchased power rate	.Power rate per ton of Amm.Sulphate		Total purchased power rate	Power rate per ton of Amm.Sulphate	Total parchased power rate	Power rate per ton of Amm.Sulphate
Purchased power rate	Jan. 1949	6,466,000 KWH x0.98=6,345,544.00	681.00	Jan. 1950	1.Allocation 5,315,000KWHx1.52 = 8,071,040.00 2.Excess 1,363,000KWHx.830 =11,312,900.00 3.Total (1+2) =19,383,940.00	1,503.00	13,038,396.00	822.00
	Feb. 1949	6,586,000 KWH x0.98=6,440,164.00	646.00	Feb. 1950	1.Allocation 4,643,000KWHx1.60 = 7,437,730.00 2.Excess 1,301,000KWHx.830 =10,798,300.00 3.Total (1+2) =18,236,030.00	1,600.00	11,795,866.00	954.00
	Mar. 1949	8,017,000 KWH x0.95=7,568,507.00	618.00	Mar. 1950	1.Allocation 7,142,000KWHx1.31 = 9,332,960.00 2.Excess 1,016,000KWHx.830 = 8,432,080.00 3.Total (1+2) =17,765,046.00	1,217.00	10,196,539.00	599.00

DECLASSIFIED E.O. 11652 SECTION 3 (E)(1), (3) or (4)

UBE CHISSO FACTORY
UBE KOSAN CO., LTD.
Feb 20, '49.

RE. KOTO RIVER HYDRO-ELECTRIC POWER PLANT

I. Dam:-

1. Purposes and Date of Commencement of Works;

In September 1941, Yamaguchi Prefectural Government began to construct this dam for the purpose of supply of industrial, civil, and irrigation water to both the cities of Ube and Onoda.

2. Date of completion;

In May 1948, this construction was stopped temporarily having completed its 80 %. Thereafter, the Prefectural Government planned to continue it and was permitted by the concerned authorities. It is to be completed by the end of May 1949.

3. Type;

Overflow system.

4. Capacity;

Area of water resource is 324 sq. Km. (21 sq. 'ri'). Maximum capacity of pondage is 23,788,130 cubic meter which is the second largest in Chugoku district.

II. Hydro-electric Power Plant:-

1. By more than 5.6 cubic meter per second of water and 28.5 meter of maximum effective head, it can generate 4,000 KW (maximum capacity), and 12,000,000 KWH per year. Two penstocks for discharge of water are already put in the dam. So the construction of this hydro-electric power station was taken up a part of the link of electric resources development program. The plan in which this power station is owned by Ube Chisso Factory of Ube Kosan Co.,Ltd. was sent to the concerned authorities to have their permission since May 1948. G. H. Q. gave Japanese Government an approval for this plan in December 1948.

2. Date of beginning of work; Feb 20, 1949.

3. Date of Completion; Nov 30, 1949.

4. Equipments;

i) Turbine:- No. 1
Type Francis' Vertical Single Spiral Turbine
Maximum capacity 4,200 KW

ii) Generator:-

No.	1
Type	Vertical 3 Phase Alternative Synchronous, coupling directly with Francis' turbine.
Capacity	4,500 KVA

iii) Main Transformer at the Power Station:-

No.	3
Type	Oil-cooled outdoor
Capacity	4,500 KVA
Primary voltage	3,150 V
Secondary "	23 KV, 22 KV, 21 KV.

iv) Main Transformer at the Factory:-

No.	3
Type	Oil-cooled outdoor
Capacity	4,500 KVA
Primary voltage	22 KV, 21 KV, 20 KV.
Secondary "	3,300 V

v) Crane:-

Type	Motor-driven ceiling crane
Load	
Main Lift	40 tons
Auxiliary Lift	5 "

5. Construction Fund;

91,000,000 Yen

III. Profits from the Hydro-electric Power Plant:-

1. Prevention of Decreased Production in Dry Season;

Amount of electric supply in dry season in Yamaguchi pref. drops down to half of that in wet season. Even if we can operate our thermal power plant in full capacity, we can operate at only 85 % of factory's capacity. After completion of this power plant, we shall be able to operate at 100 % and to increase 2,300 tons of ammonium sulphate per year.

2. Prevention of Decreased Production Caused by Electric Troubles:-

Influenced not only by deficit of supply but also by low voltage in this pref., we have had considerable decrease of production. However, after the completion of this power plant, and when we can use electric power from this plant to operate such plants that require after more stabilized supply of electric power, we can increase about 4,000 tons of ammon. sul. per year.

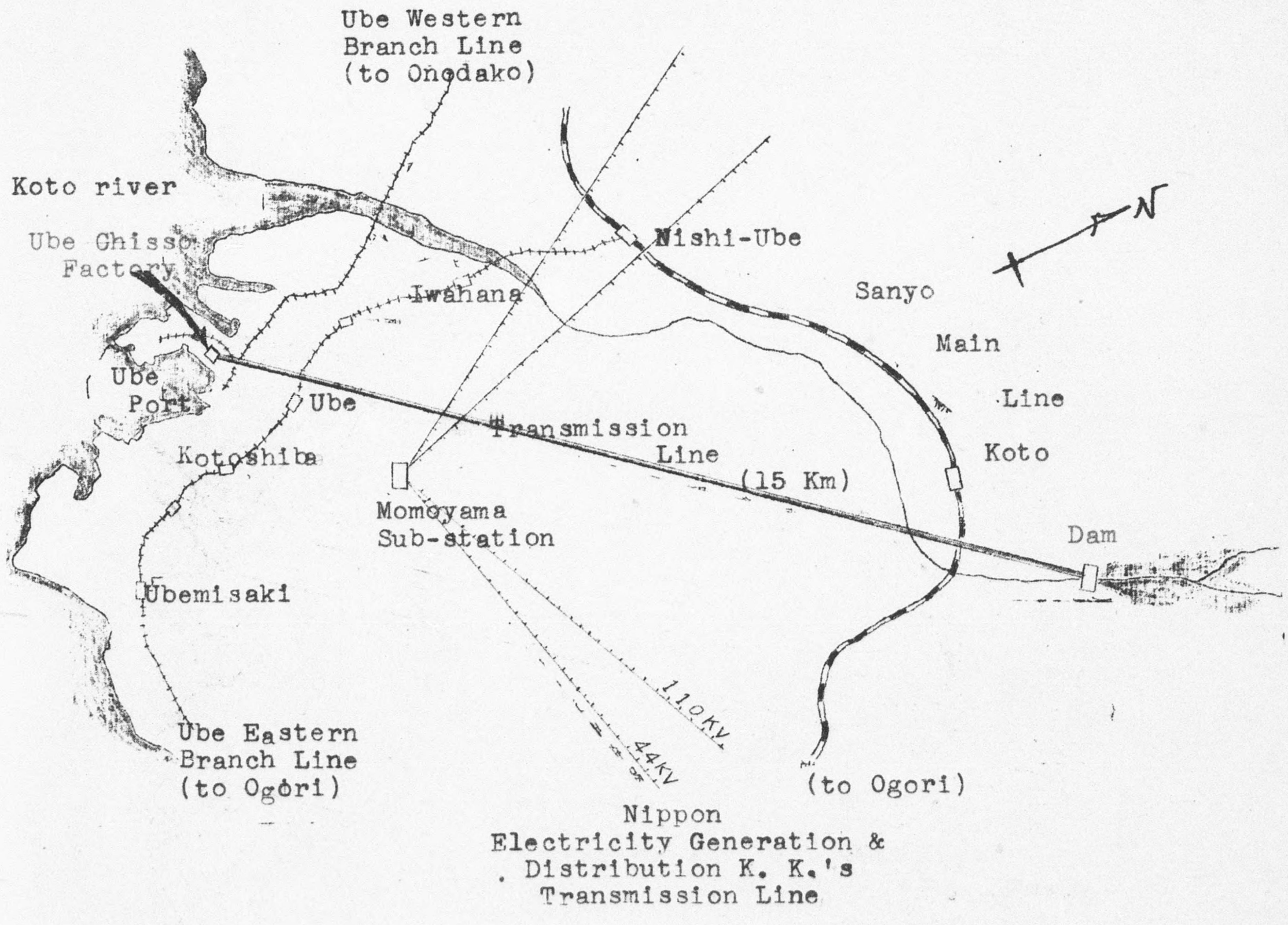
3. Curtailment of Consumed Coal by Improved Consumption Unit of Raw Materials and Power per 1 Ton of Ammon.Sul.;

Even when operation of factory is stopped by above electric troubles, our factory can not stop production of raw gas concurrently with such electric troubles, as we adopt gas method, so that waste of coal amounts to great quantity. After completion of this power plant, however, we can have the same effect as economizing over 2,000 tons of coal per year.

4. Low Cost of Generated Power;

Cost of power generated by our private thermal power plant at present is about 2.50 Yen per 1 KWH. On the other hand, cost of it from the hydro-electric power plant when it can generate 12,000,000 KWH per year will be 1.77 Yen.

DECLASSIFIED E.O. 12065 SECTION 3 (b)(1) NND 969



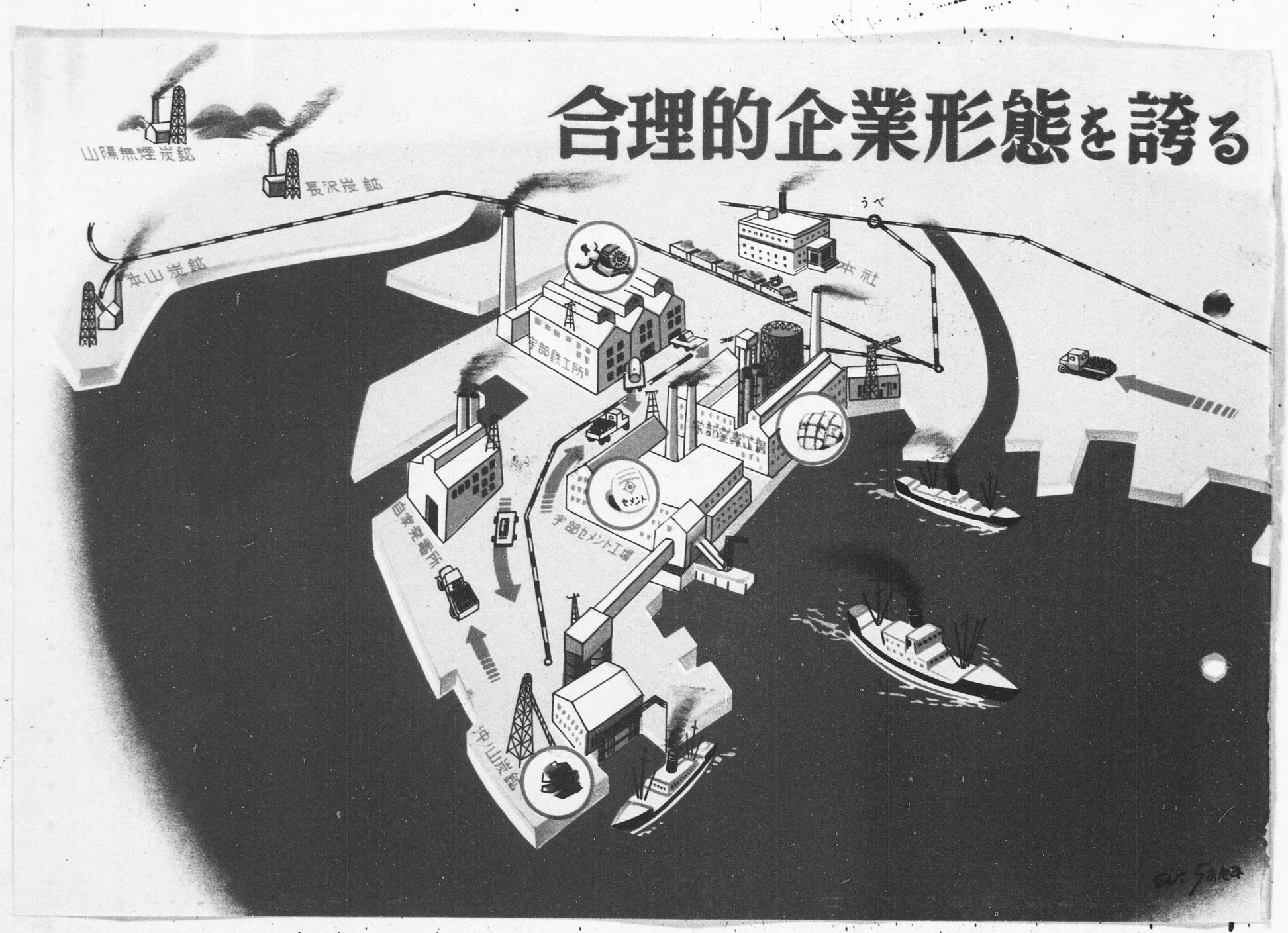
Nippon
Electricity Generation &
Distribution K. K.'s
Transmission Line

宇部興産株式會社

—事業案内—

1949

合理的企業形態を誇る


山陽無煙炭鉱
長沢炭鉱
本山炭鉱
うべ
本社
宇部鉄工所
宇部窒素工業
セメント
宇部セメント工場
自家発電所
沖山炭鉱

宇部興産株式會社

創業　明治30年

資本金　~~31.637.500~~圓
3億圓

本社・宇部市大字小串一、九七六ノ一　電話宇部(代表)八九〇

東京支社・東京都千代田區有樂町一ノ四　電話銀座(五、〇一八 六、七三七—八)

大阪出張所・大阪市北區中ノ島三　三井不動産ビル　電話土佐堀(代表)三、七三一

廣島出張所・廣島市段原大畑町一五　電話(中ノ二)一、八七三

硫安・宇部窒素工場　宇部市

セメント・宇部セメント工場　宇部市

炭鑛・化學工業・發電用諸機械・宇部鉄工所　宇部市

石炭・沖ノ山炭鑛々業所　宇部市

東見初炭鑛々業所　宇部市

長澤炭鑛々業所　宇部市

本山炭鑛々業所　小野田市

山陽無煙鑛業所　山口縣大嶺町

取締役會長　渡邊剛二

取締役社長　俵田明

專務取締役　笠原四男藏

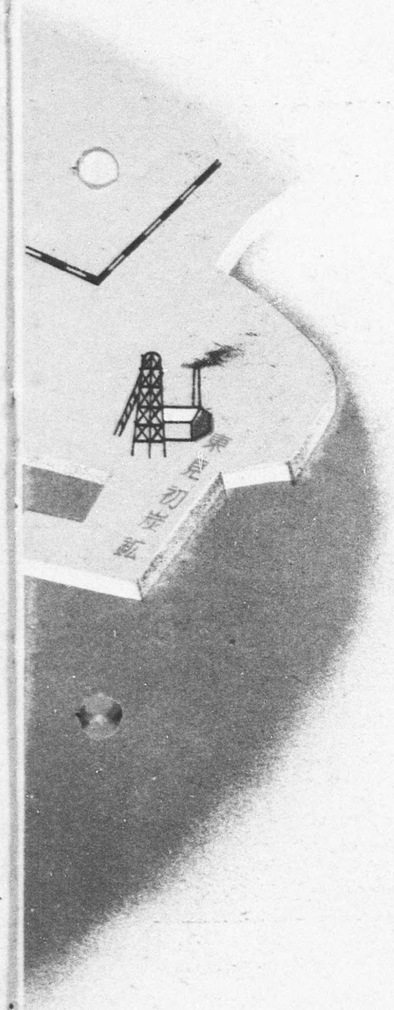
同　中安閑一

常務取締役　藤本豐三

同　水野數衛

同　岡田完二郎

常任監査役　的野權太郎

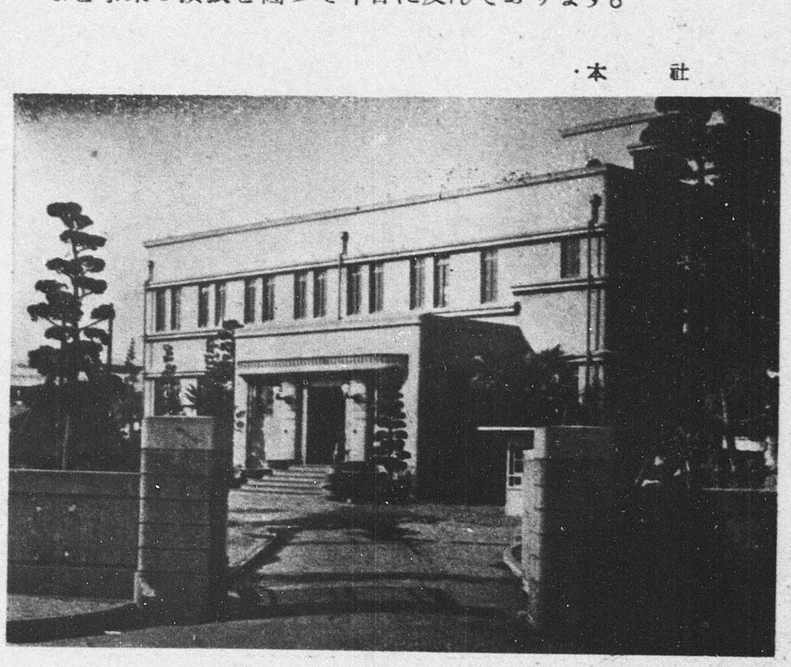


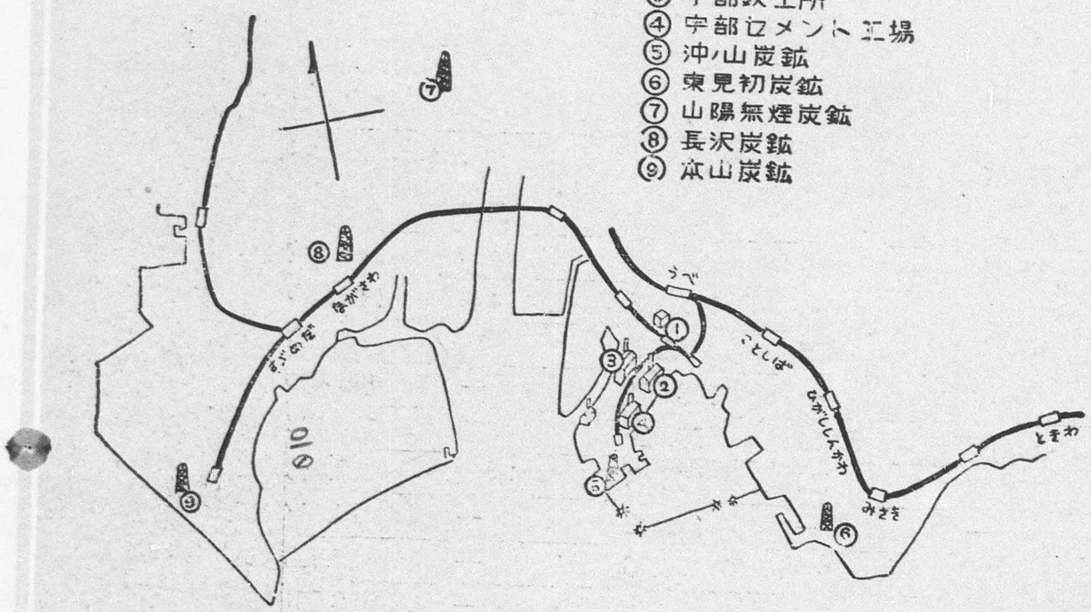
沿　　革

當社は昭和十七年三月沖ノ山炭鑛株式會社、宇部窒素工業株式會社、宇部**セメント**製造株式會社及び株式會社宇部鉄工所の四社合併によつて設立されました。創業は明治三十年にさかのぼり宇部炭田開發のためまづ沖ノ山炭鑛が設立せられ、その發展にともなひ炭鑛用機械器具の製作修理を目的として宇部鉄工所を設立し、ついで同鑛の石炭、粘土と附近に産出する石灰石を利用して**セメント**工業を起し、さらに宇部炭の特質を利用してその完全瓦斯化による硫安製造を始めましたが、これら四事業は同一資本系統で相互不可分の關係にあるため、經營を合理化して事業の飛躍的發展を目指し合併して**宇部興産株式會社**を設立したのであります。

爾來いよいよ設備の充實と技術の研鑽に努め業界に確固たる地盤を築き、さらに隣接石炭鑛區の綜合的開發のため東見初炭鑛株式會社、本山炭鑛、山陽無煙炭鑛を合併又は買收するなど事業の擴張を圖つて今日に及んでおります。

·本　　社





特　色

1、立地條件に恵まれておること

工業用水、電力が豊富であり主要な原材料が地元に産出される。事業所は何れも岸壁と臨港線を持つてゐて海陸共運輸至便であります。

2、炭鑛工場が互に隣接しておること

各炭鑛が隣接してゐるため綜合的開發と集約的經營が可能であり、また炭鑛の廢土により形成された百萬坪に及ぶ埋立地は各工場が相接して建設され恰も同一工場の如き觀を呈し事業經營上多大な利益を有してゐります。

3、事業が相互に助け合つておること

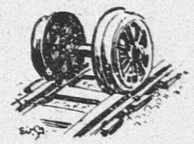
石炭を基にして硫安、**セメント**工業が成り立ち、傘下各炭鑛工場用機械の製作修理は鉄工所で行ふことが出來ます。低品位炭は微粉燃燒により自家發電をなし動力の自給を行つてゐります。

4、事業が基礎産業であること

石炭、硫安肥料、**セメント**は經濟復興の先驅でありいかなる時に於ても産業の原動力であります。

勞　働　事　情

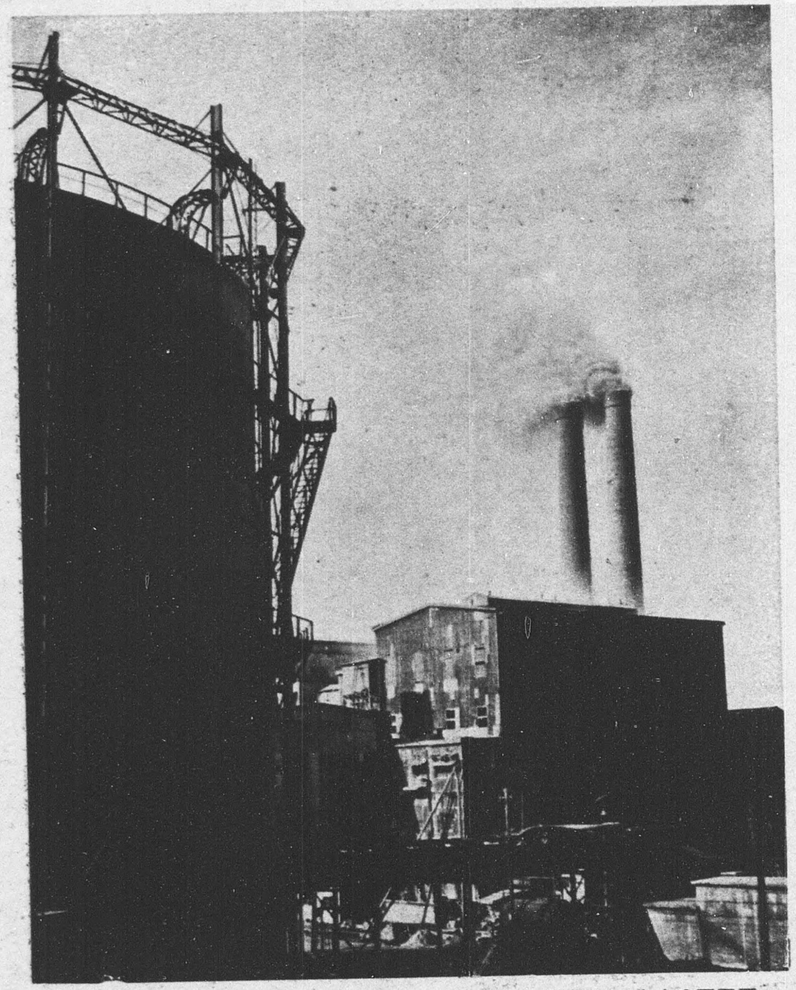
當社の從業員は全部で二萬二千名、組合數十五で組合結成以來健實な發展を遂げ、よく勞資協力して生產復興に努め石炭、肥料、**セメント**等夫々全國の水準を拔いて別記の如き實績を擧げております。なほ經濟九原則の實施を前にして高賃銀高能率を目標に能率と業績の一段の向上に邁進しております。



當社固定資產表

昭和二十三年十月末現在(單位千圓)

科目＼箇所	宇部窒素工場	宇部**セメント**工場	宇部鐵工所	炭業部門	本社	合計
有形固定資產	**139.407**	**54.038**	**17.838**	**471.223**	**2.702**	**685.208**
土地、埋立	916	1.092	468	29.991	428	42.895
建物	37.116	22.919	8.454	197.047	422	265.958
構築物	585	5.761	477	47.276	11	54.110
主要坑道	—	—	—	108.424	—	108.424
機械、裝置	92.727	12.800	5.969	58.517	420	170.433
船舶、車輛、運搬具工具、器具、備品	8.063	11.466	2.470	29.968	1.421	52.388
無形固定資產	**2.955**	—	—	**22.012**	—	**24.967**
鑛業權	—	—	—	16.306	—	16.306
水利權	2.955	—	—	5.706	—	8.661
合計	**142.362**	**54.038**	**17.838**	**493.235**	**2.702**	**710.175**



宇部窒素工場火力自家發電所

工業部門

宇部窒素工場

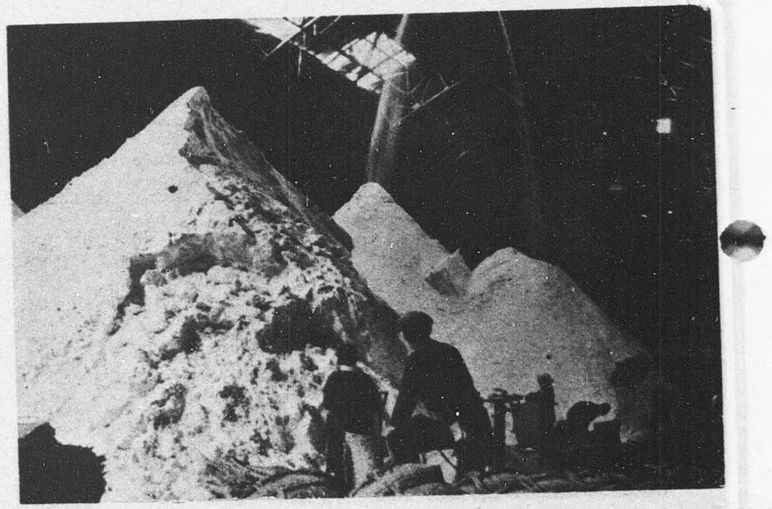
主なる製品

- 硫安
- アンモニア酸
- 硫酸
- 硝酸
- 硝安
- ソルベントナフサ
- タール油
- パラフィン
- クレゾール
- ピッチ
- コーライト
- サッカリン

生産能力硫安年産	200.000瓲
工場敷地	83.692坪
建物坪數	24.977坪
從業員數	4.125名

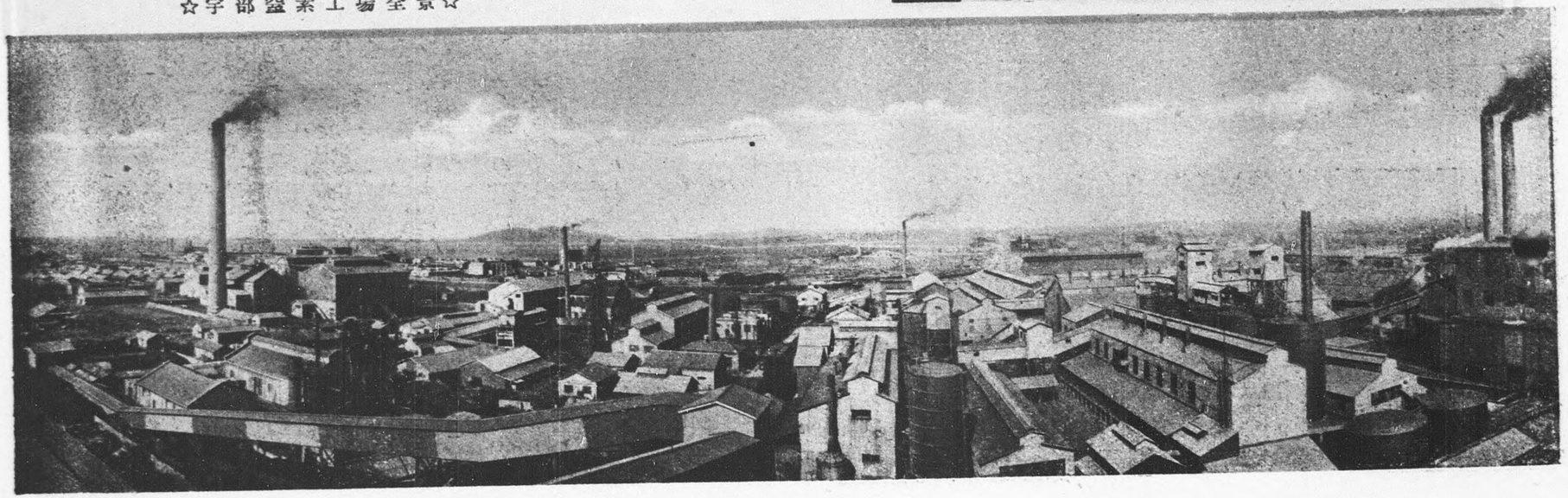
當工場に於ける硫安用**アンモニア**の製造方式は所謂瓦斯法で、戰後經濟復興に應へて、萬難を排して逸早く復舊並に一部の增設工事を完成しました結果、生產量は向上の一途を辿り昭和二十三年に於ては**全國二十二の硫安工場中第二位の生產高**を擧げました。

原料炭、燃料炭は傘下各炭鑛より供給を受けておりますから常に必要量を確保することが出來ます。

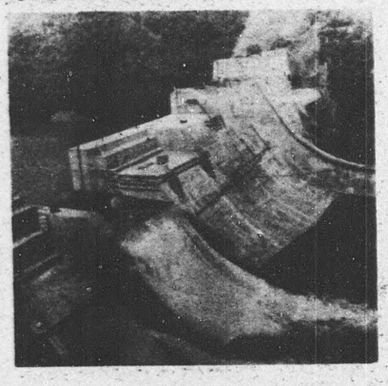


・硫安倉庫・

☆宇部窒素工場全景☆



火力自家發電所(既　設)‥‥出力19.000**キロワット**
水力自家發電所(建設中)‥‥出力 4.000**キロワット**

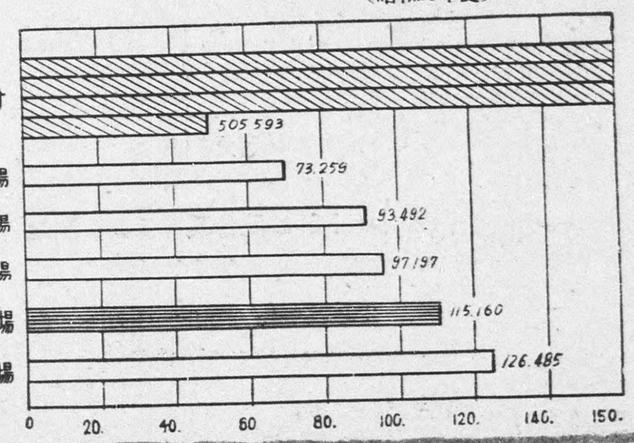


・水力發電所建設現場・

山口縣營厚東川利水事業既設**ダム**の利用による水力發電所の建設に着手し、今年末には完成の豫定であります。發電容量四千**キロワット**總工費一億圓でありまして建設費も低廉であり、硫安增產の鍵たる電力の確保により劃期的增產が出來ます。

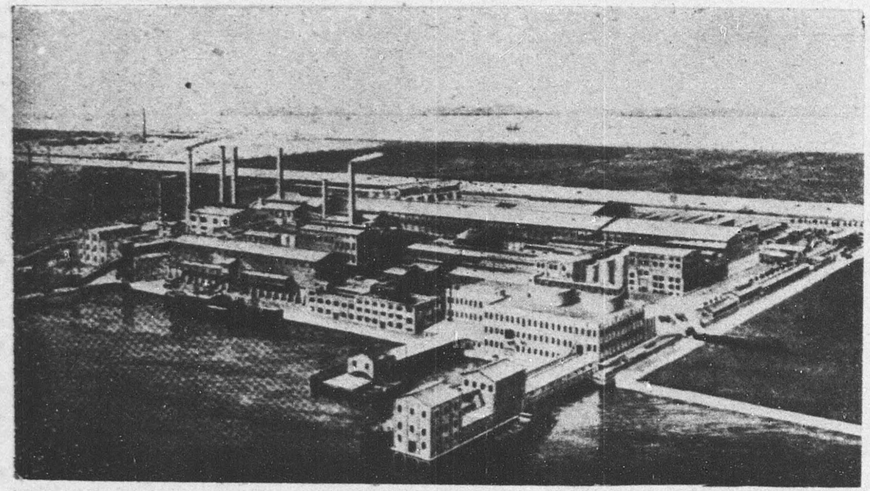
全國硫安工場別生產實績比較表

(昭和23年度)



宇部セメント工場

製品	ポルトランドセメント 雑用セメント スレート其の他各種セメント製品	
生産能力	年産	342.000瓲
工場敷地		25.100坪
建物坪數		10.486坪
從業員數		1.005名



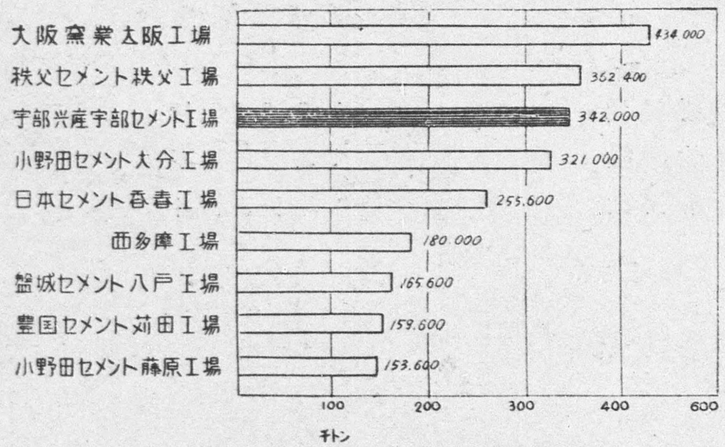
●宇部セメント工場全景●

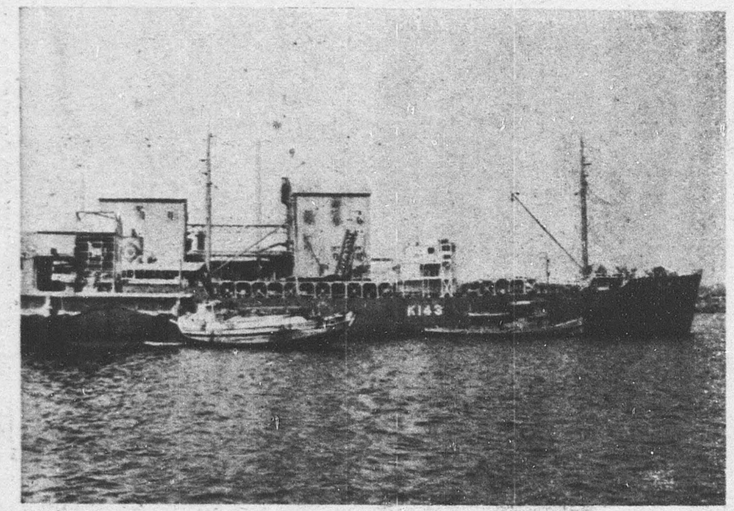
當工場は創立以來優良なる製品を以つて名聲を博し特に超高級**セメント**の生産については本邦特異の存在であります。**立地的強味**は原料たる石灰石を極めて近距離にある原料採取地より入手し、石炭の供給を傘下各炭鑛より受け、又沖ノ山、東見初兩鑛において採炭の際得られる良質粘土を原料として利用しておることです。

セメントの輸出……輸出には殊に重點を置き昨年以來毎月生産量の50**パーセント**を**フィリッピン**、香港其の他東南洋各地に向け輸出しております。當工場は宇部港に臨み且つ門司港に近接しておるため輸出には絕對有利な位置に立つております。

セメントタンカー清忠丸と包裝工場……當工場が業界に誇るもの丶中我國唯一の**セメントタンカー**清忠丸(總噸數3.600噸)とこの關連設備たる包裝工場があります。**セメント**の生産は西日本に、需要は東日本に偏しておるためこれが調節は業界多年の懸案でありますが、當工場はこの點に鑑み昭和十一年**セメント**バラ輸送船清忠丸を建造すると共に、需要の中心地たる東京、大阪、名古屋(建設中)、清水港(計畫中)に荷揚並に包裝設備を建設し大量の**セメント**バラ輸送を行つております。

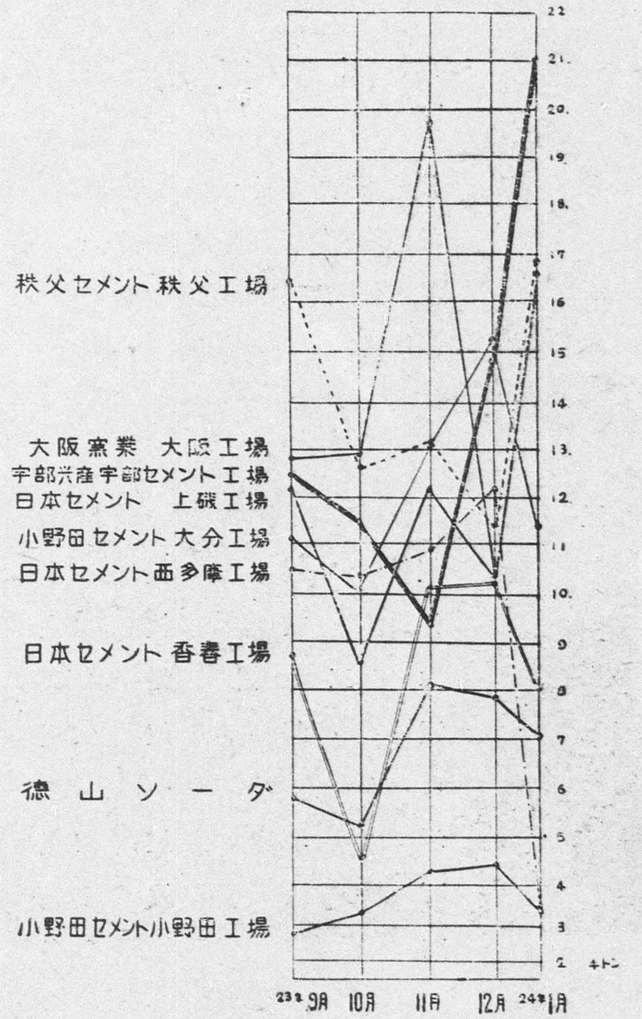
全國セメント工場年產能力比較表





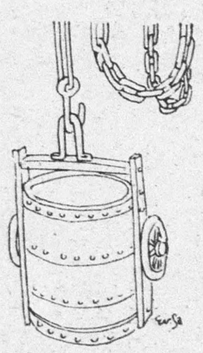
・積込中のセメントタンカー清忠丸・

全國セメント工場生產實績比較表



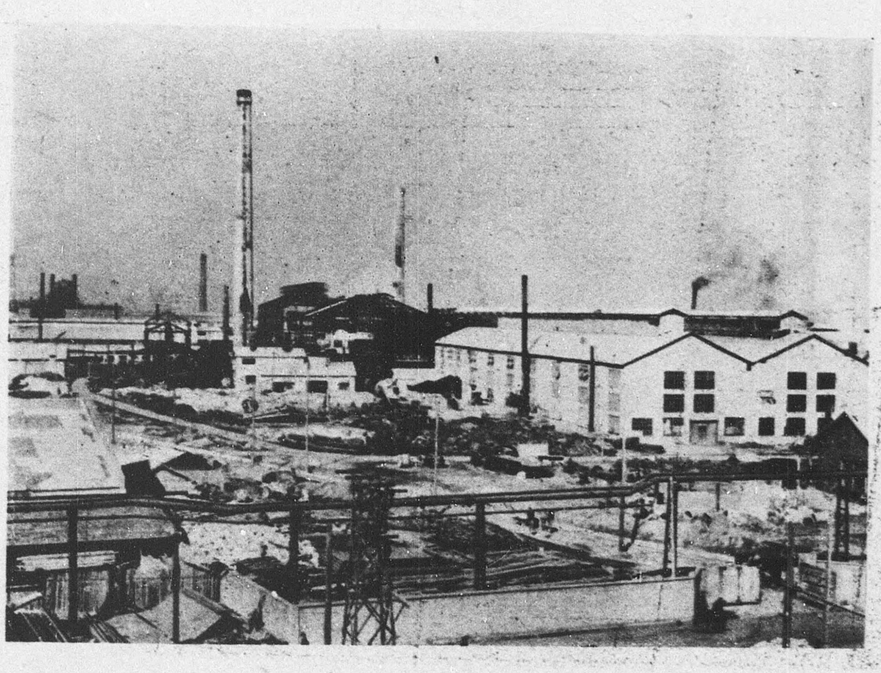
宇部鉄工所

製　品　**炭鑛用機械器具・發電用械械器具・化學工業用機械器具・微粉炭燃燒裝置・搬送用機器・スチールボール・鑄鐵管其の他**



設　備	金屬加工機械(旋盤ほか)	185臺
	鍛　壓　機	13臺
	打　貫　機	3臺
	木　工　機　械	26臺
	電　氣　爐	5臺
	キ ユ ー ポ ラ ー	5臺
	坩　堝　爐	2臺
	石　炭　爐	12臺
	其　の　他　機　械	22臺

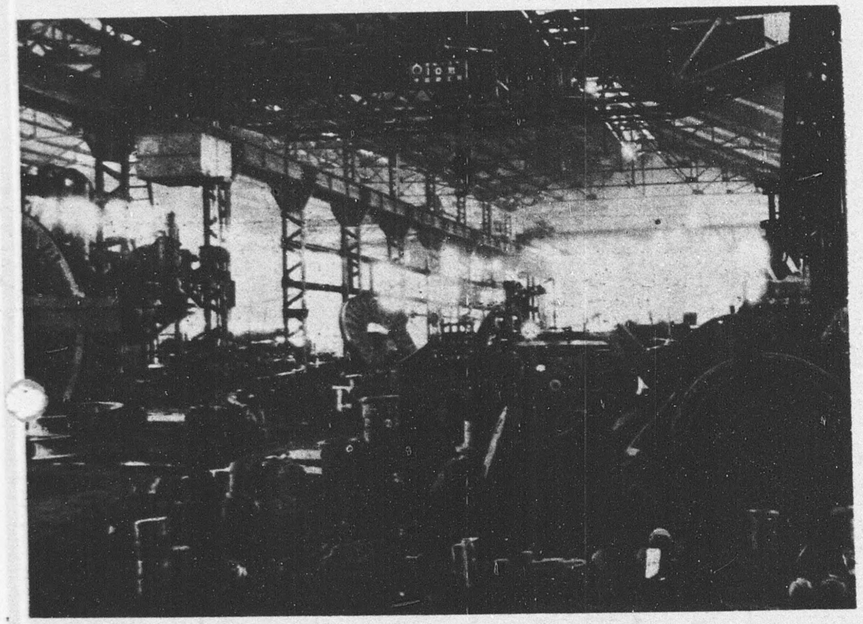
工場敷地	75.549坪
建物坪數	13.889坪
從業員數	751名



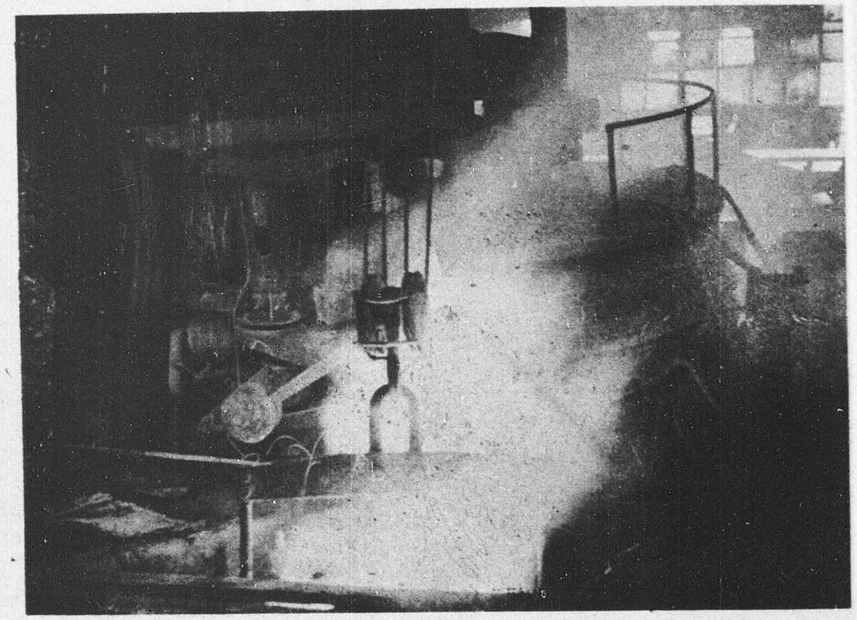
・宇部鉄工所全景・

當工場の生產品は當社內自家用機器の製作修理のみに止まらず、近くに中國北九州鑛工業地帶を擁し無限の需要を控へております。同種工場中規模と生產能力は**關西第一**であります。

・機　械　工　場・

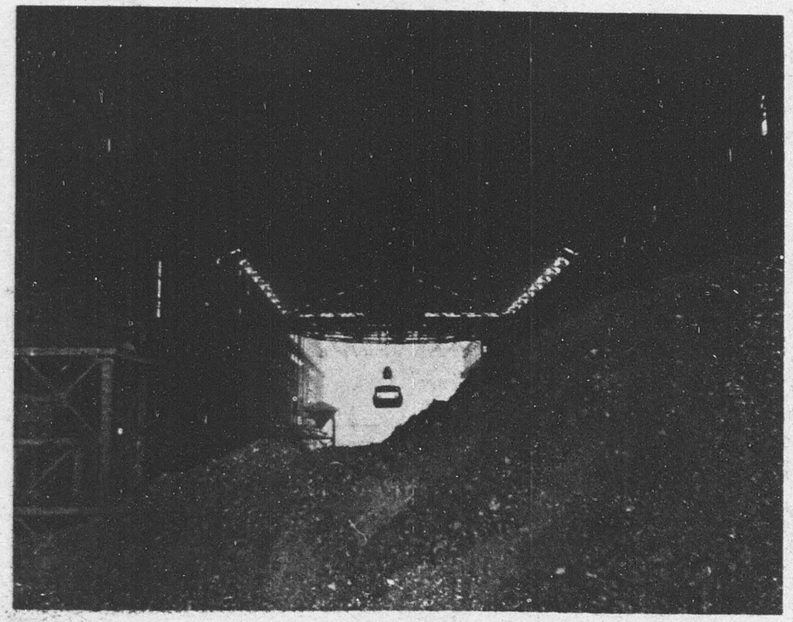


・電　氣　爐・



最近の生產高は一ケ月二千萬圓を超へ過去三ケ月の實績を見ても一人當り月平均生產金額は三萬圓以上で優秀な成績を擧げております。

炭業部門



・沖ノ山炭鑛貯炭場・

炭　質　と　用　途

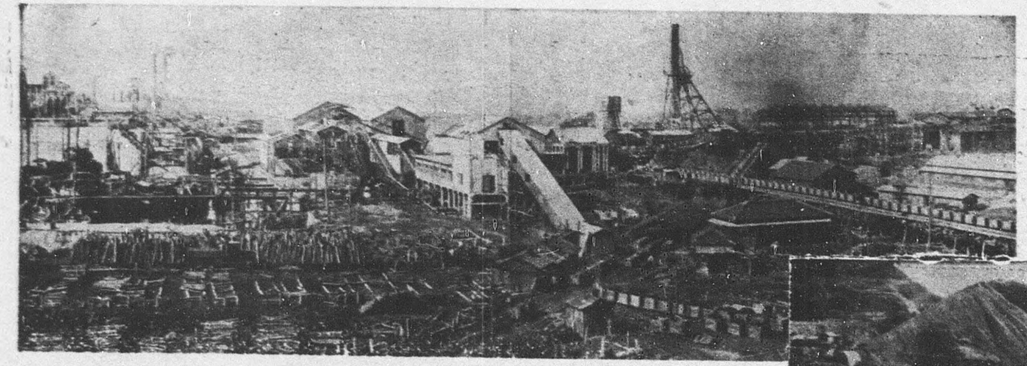
宇部炭は不粘結性で特に反應性強く且つ揮發分が多い。

上級炭は主として硫安製造、**セメント**燒成用に、下級炭は發電用炭として利用されております。**山陽無煙炭**は硫黄分少く無煙無臭で火度強く火持ちが良いので工場用に又煉炭製造用に適しております。

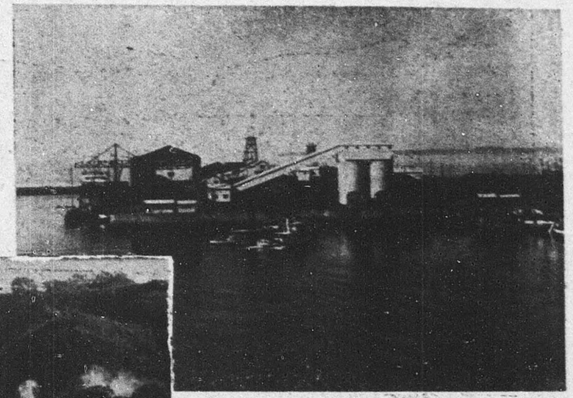
當社の山口田炭における地位

當社傘下五炭鑛の全出炭量は年產百三十萬**瓲**で山口炭田に於ける約八十鑛の全出炭量の四十五**パーセント**を占めております。その內有煙炭鑛は四鑛で山口炭田有煙炭の四十四**パーセント**、無煙炭鑛は一鑛（山陽無煙）で山口無煙炭田の四十六**パーセント**を出炭しております。尙山陽無煙炭鑛は全國第一の無煙炭鑛であつて全國出炭量の三十**パーセント**を出しております。

科目 / 炭鑛	鑛區面積	埋藏炭量	出炭能力(年)	從業員數
沖ノ山炭鑛	21.432.700 坪	41.540.000 瓲	600.000 瓲	4.179 人
東見初炭鑛	13.988.170 〃	37.810.000 〃	480.000 〃	4.969 〃
長澤炭鑛	2.444.500 〃	4.270.000 〃	150.000 〃	1.489 〃
本山炭鑛	11.586.952 〃	31.780.000 〃	120.000 〃	1.654 〃
山陽無煙	11.138.370 〃	108.060.000 〃	480.000 〃	3.495 〃
合計	60.640.692 〃	223.460.000 〃	1.830.000 〃	15.786 〃

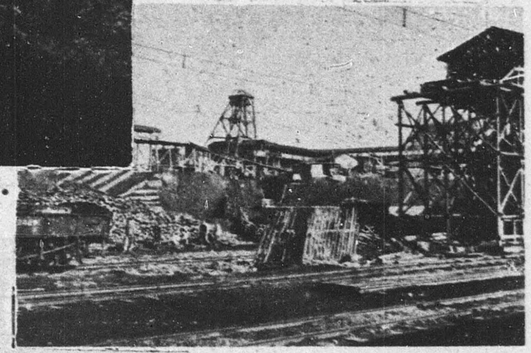


・東見初炭鑛・



・沖ノ山炭鑛・

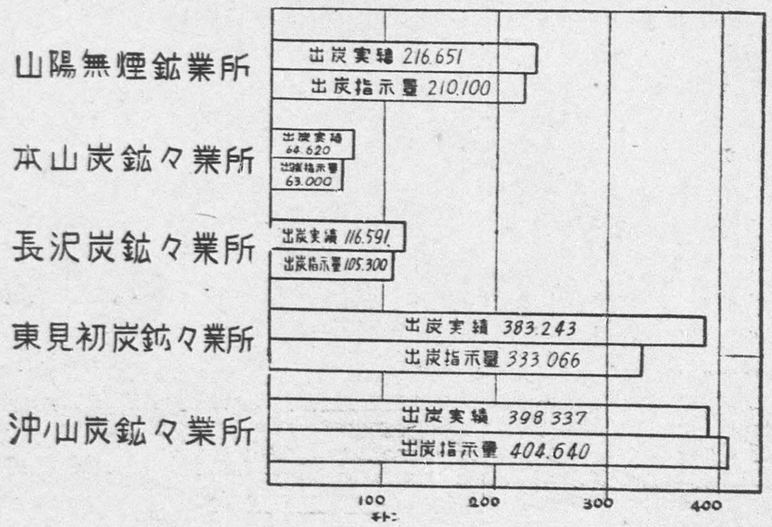
・山陽無煙炭鑛・

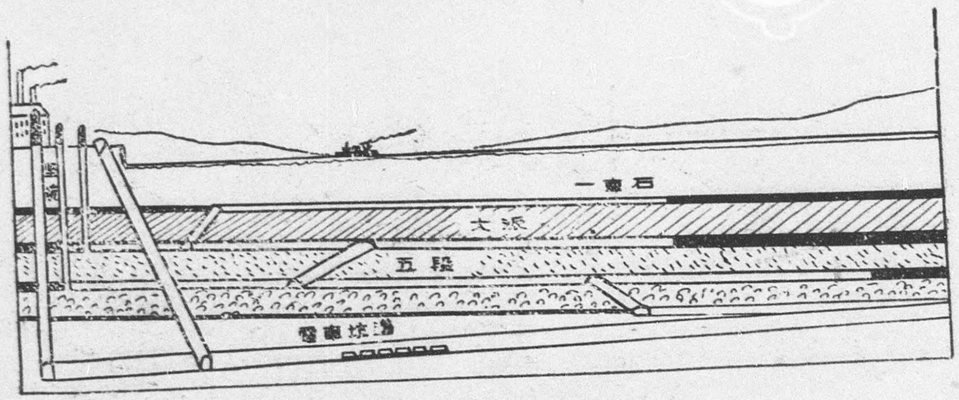


・長澤炭鑛・

・本山炭鑛・

當社五炭鑛出炭高 （昭和23年度）

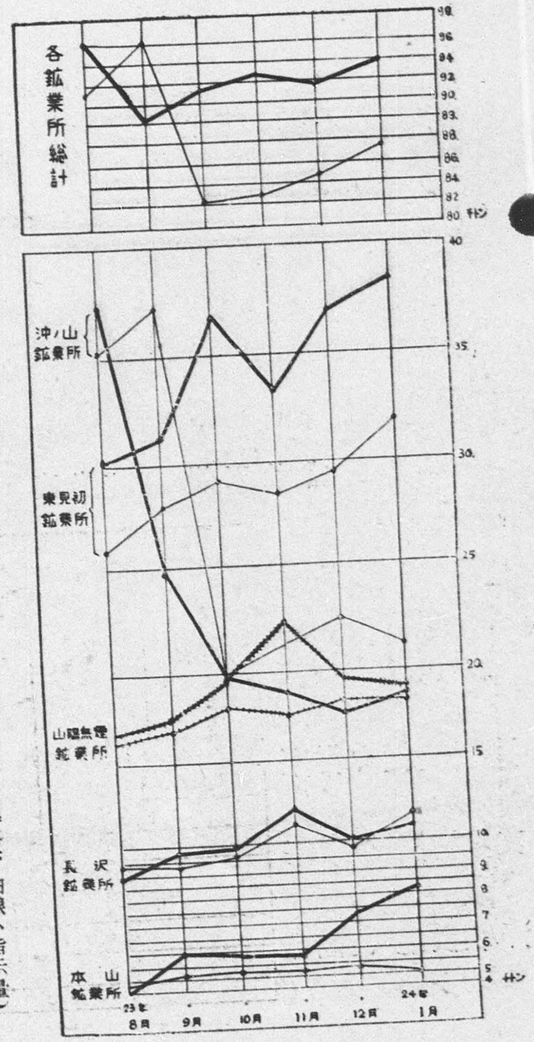




全國著名炭鑛出炭高比較表（昭和23年10月）

會社名	生産數量	順位	全國比
三井鑛山	424.797 瓲	1	17.7%
三菱鑛業	346.630 〃	2	11.9〃
北海道炭鑛汽船	220.500 〃	3	7.6〃
井華鑛業	136.800 〃	4	4.7〃
明治鑛業	98.000 〃	5	3.4〃
日鐵鑛業	94.659 〃	6	3.3〃
宇部興産	91.181 〃	7	3.2〃
貝島炭鑛業	80.300 〃	8	2.8〃
麻生鑛業	74.950 〃	9	2.6〃
日本炭鑛	71.503 〃	10	2.5〃
古河鑛業	67.358 〃	11	2.3〃
雄別炭鑛鐵道	52.620 〃	12	1.8〃
杵島炭鑛	47.560 〃	13	1.6〃
其の他	1.084.342 〃		37.6〃
合計	2.891.200 〃		100〃

出炭指示量と出炭實績比較表



備考（太線ハ出炭實數、細線ハ指示量）

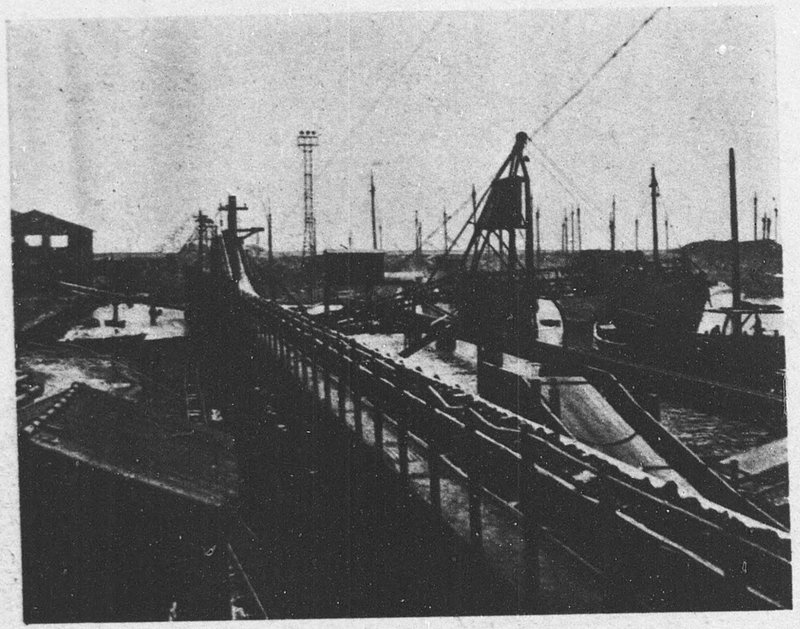
當社炭鑛の特色

1、 內海沿岸にあつて鑛區は海陸に跨つておること

2、 海底炭鑛として全國第一で海底に無限の處女鑛區を有しておること

3、 山陽無煙炭鑛は全國第一であること

4、 各炭鑛が近接しておるため綜合的經營をなし得ること



・東見初炭鑛石炭積出現場・

5、 炭鑛、工場が相接して一大鑛工業地帶を形造つておること

6、 炭鑛より排出する廢土により海面を埋立て、ひとりでに土地が出來ること

7、 坑內から出た石炭をそのまゝ船積みでも貨車積みでも出來ること

赤字の解消

炭鑛の赤字は全國で二百億圓と云はれておりますがこれは政府が補償することになりますので、當社における炭業部門の赤字は解消する計算となります。

沖ノ山炭鑛の復舊

昨年九月の災害は幸に極めて順調に復舊し、殊に排水は豫想以上急速に行はれ八月迄には完全に復舊致します。現在の出炭量は災害前の半分即ち二萬瓲(月)でありまして尙月を追ふて增加の一途を辿つております。

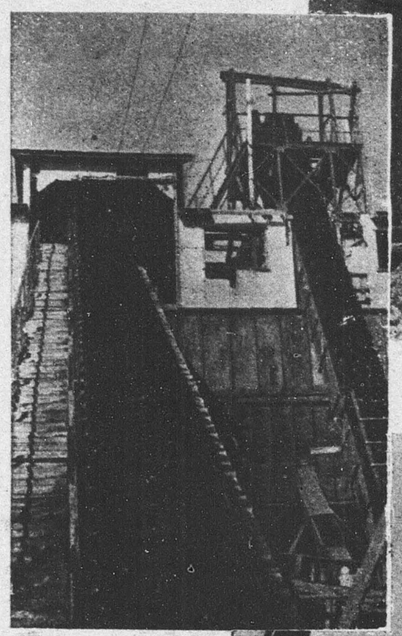
大干拓の完成と新鑛開發

宇部市西部沖海面下に賦存する**優良炭の寶庫**は海底下淺部に在るため、海面を埋立てゝ採炭する計畫を樹て、昭和十四年百五十萬坪に及ぶ一大干拓事業を起し戰時中一時中止したが戰後工事を再開し來る五月竣工の豫定であります。

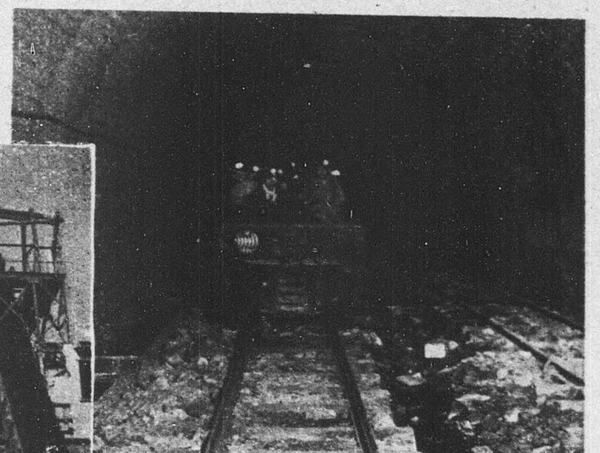
これにより百五十萬坪の土地が造成されると共に一千萬瓲近い優良炭の採掘に取り掛ることが出來るのでありまして、當社の前途は極めて明るい希望に輝いております。

電車坑道と沖鑛區の開發

宇部炭田の將來發展の鍵は一に**沖鑛區開發**にかゝつております。これが開發のためには通氣、排水並に勞務者の輸送に劃期的改善を必要としますので電車坑道堀鑿を計畫し、さきに沖ノ山炭鑛に於てはその完成を見たのでありますが、東見初炭鑛に於ても同樣工事進捗中にして昭和二十六年三月完成の豫定であります。

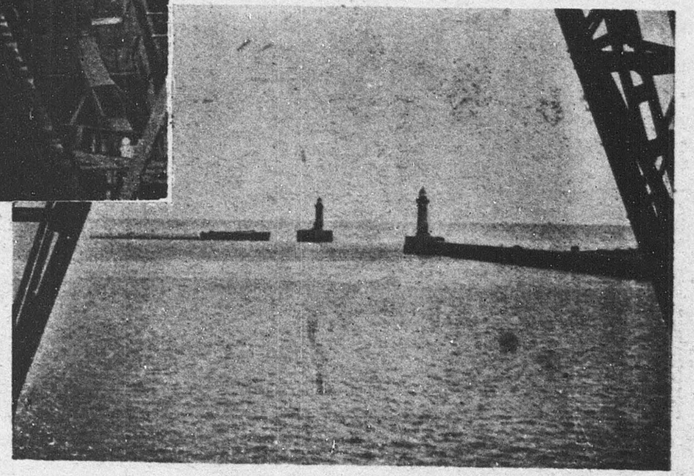


・本山炭鑛運炭設備・



・沖ノ山炭鑛電車坑道・

・宇 部 內 港・



當 社 の 將 來

1、當社石炭の埋藏量が無盡藏であること

現在判明してゐる埋藏量だけでも百年以上掘り續けることが出來ます。

2、傘下の工業は重要基礎産業であること

硫安肥料、**セメント**等人間の生活に缺くことの出來ない物資の生産に當つてゐり、孰れも他の追隨を許さぬ優秀な條件に惠まれてゐります。

3、比類のない組合せの綜合經營

地下資源を持つ地上工業・地上工業を持つ地下産業。
運賃のかゝらない石炭が使へる。
炭鑛と工場が同じ所に在つて統一した經營が出來ます。
收益力が安定してゐります。
綜合經營は經濟が安定に向ふに從つて愈々威力を發揮します。

4、資産再評價と當社の含み

當社は七億圓の固定資産を有し、これを時價に換算すれば、低目に計算しても七十億圓以上となり非常に大きな含みを持つてゐります。

5、增資と收益力

當社は近く三億圓に增資致しますが、年間の賣上高は七十億圓に達し各事業の成績も良好でありますから、賣上高に對する一**パーセント**の利益を擧げても資本に對しては二割三分三厘の利益率に相當するので業績は極めて安定してゐります。

DECLASSIFIED - E.O. 12065 SECTION 3.5(b), NARA Date 7/31/2012

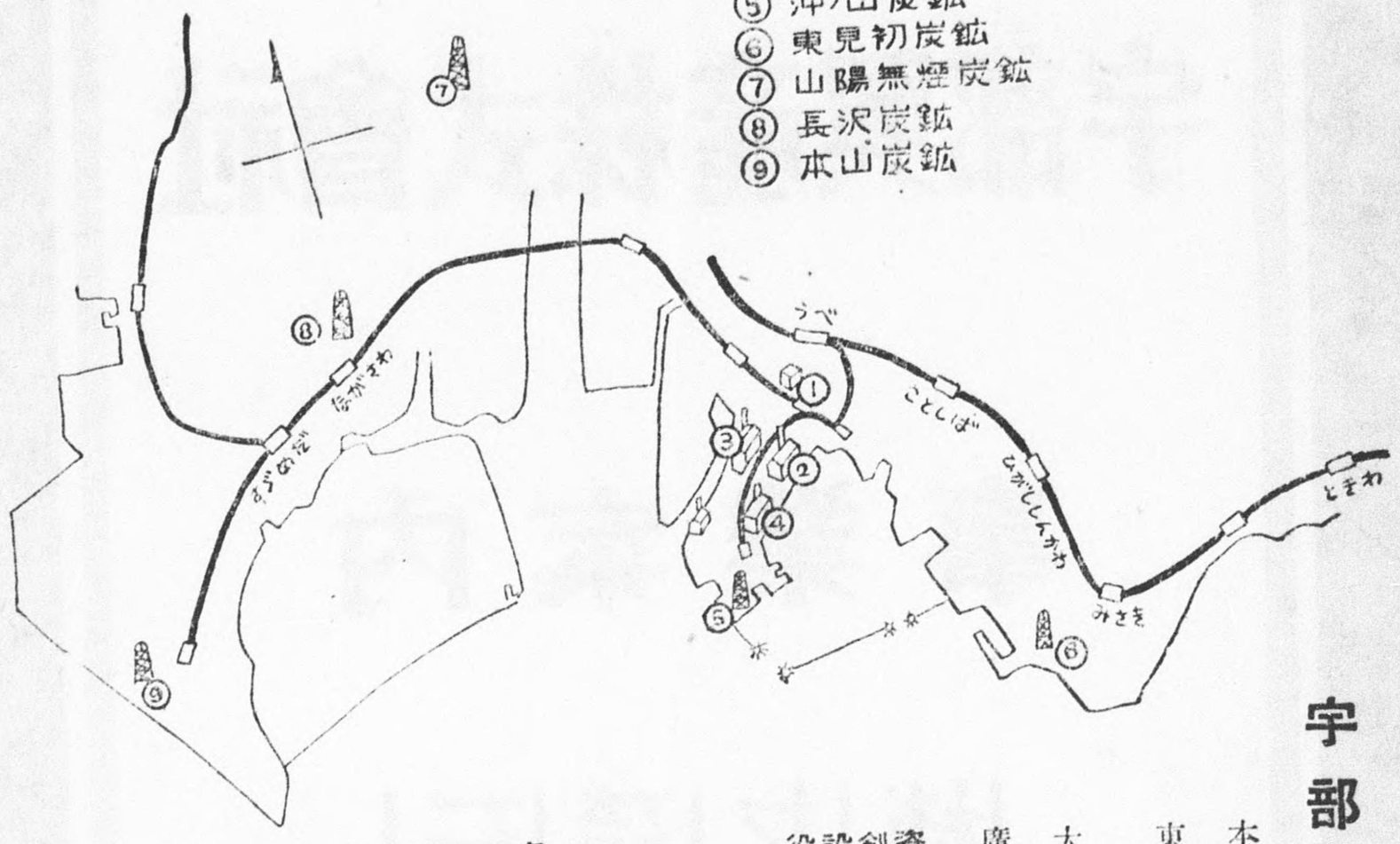
宇部興産株式會社

事業案内

石炭
硫安
セメント
機器

1949

DECLASSIFIED - Per NND Project Number 10-78



宇部興産株式會社

本　社　宇部市大字小串一、九七六ノ一　電話宇部（代表）八九〇番
東京支社　東京都千代田區有樂町一ノ四　電話銀座五、〇一八八、六、七三七—八
大阪出張所　大阪市北區中ノ島三井不動産ビル四階　電話土佐堀（代表）三、七三一番
廣島出張所　廣島市段原大畑町一五　電話（中ノ二）一、八七三番

資本金　金三億円
創業　明治三十年
設立年月日　昭和十七年三月十日
役員

取締役會長	渡邊剛二
取締役社長	俵田明
專務取締役	笠原四男藏
同	中安閑一
常務取締役	藤本豊三
同	水野數衛
常任監査役	岡田完二
同	的野權太郎

事業所及所長

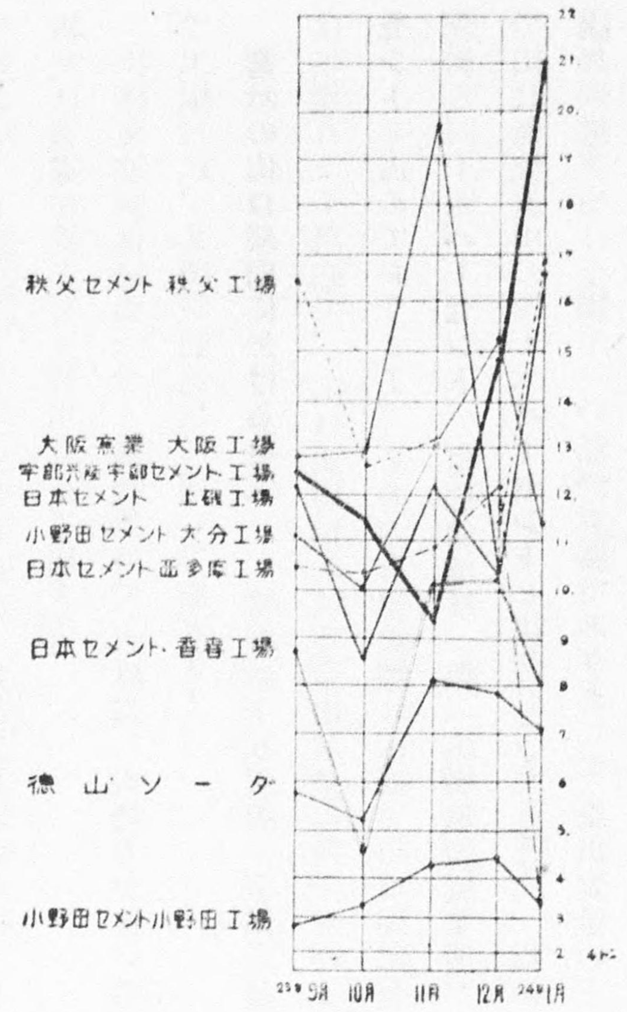
炭業部	部長	笠原四男藏（兼務）
沖ノ山炭鑛々業所	所長	濱野善一
東見初炭鑛々業所	所長	藤本豊三（兼務）
山陽無煙鑛業所	所長	早田義孝（取締役）
本山炭鑛々業所	所長	村田義夫（〃）
長澤炭鑛々業所	所長	前出朝光（〃）
工業部	部長	中安閑一（兼務）
宇部窒素工場	所長	中安閑一（〃）
宇部セメント工場	所長	美安利一（取締役）
宇部鉄工所	所長	磯邊助一（〃）
研究所	所長	大山剛吉（〃）
東京支社	支社長	岡田完二郎（兼務）
大阪出張所	所長	都筑喜三

セメントの輸出……昨年以來毎月生産量の五〇**パーセント**を**フィリッピン**、香港其の他東南洋各地に向け輸出しております。

當工場は宇部港に臨み且つ門司港に近接しておるため輸出には絶對有利な位置に立つております。

セメントタンカー清忠丸と包裝工場……當工場が業界に誇るものゝ中に、我國唯一の**セメントタンカー**清忠丸（總噸數三、六〇〇噸）との關連設備たる包裝工場があります。元來**セメント**の生産は西日本に、需要は東日本に偏しておるため、之が調節は業界多年の懸案でありますが、當工場は昭和十一年**セメント**バラ輸送船清忠丸を建造すると共に、需要の中心地たる**東京、大阪、名古屋**（建設中）、**清水港**（計畫中）に荷揚並に包裝設備を建設し、大量の**セメント**バラ輸送を行つております。

全國セメント工場生産高比較表



宇部鉄工所

製品　**炭鑛用機械器具、發電用機械器具、化學工業用機械器具、微粉炭燃燒裝置、搬送用機器、スチールボール、鑄鉄管、其の他**

設備　金屬加工機械（旋盤外）一八五臺
鍛壓機　一三臺　打貫機　三臺
木工機械　二六臺　電氣爐　五臺
キューポラー　五臺　坩堝爐　二臺
石炭爐　一二臺　其の他機械　二二臺

工場敷地　七五、五四九坪
工場建物　一三、八八九坪
從業員數　七五一名

當工場の生産品は當社内自家用機器の製作修理のみに止まらず、近くに中國、北九州鑛工業地帯を擁し無限の需要を控えております。同種工場中規模と生産能力は關西第一であります。最近の生産高は一ヶ月二千萬圓を超へ、過去三ヶ月の實績にみても一人當り月平均生産金額は三萬圓以上で優秀な成績を擧げております。

DECLASSIFIED E.O. 12065 SECTION 3 (E)/NARS NO.

炭業部門

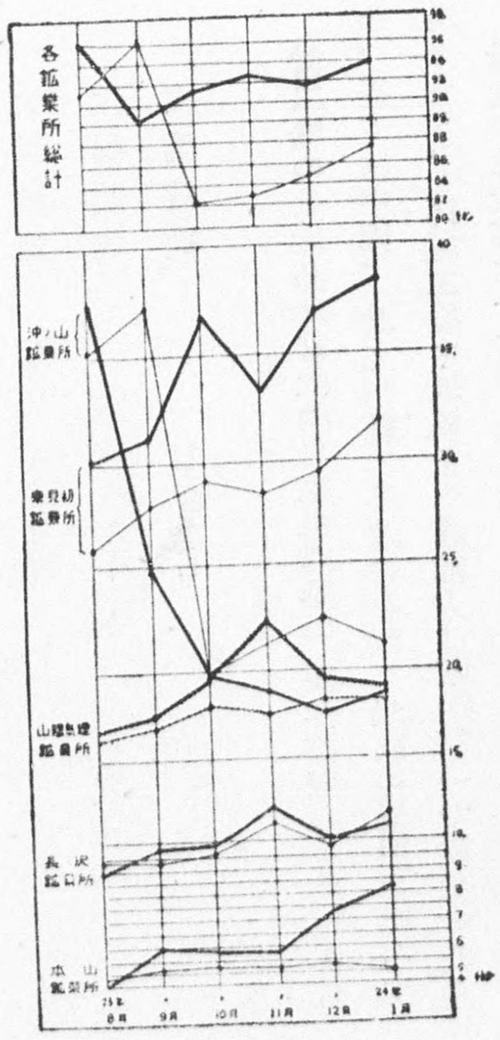
炭鑛別＼科目	出炭能力	鑛區面積	埋藏炭量	從業員數
沖ノ山炭鑛	六〇〇、〇〇〇瓲	二一、四八二、七〇〇坪	四一、五四〇、〇〇〇瓲	四、一七九名
東見初炭鑛	四八〇、〇〇〇〃	一三、九八八、一七〇〃	三七、八一〇、〇〇〇〃	四、九六九〃
長澤炭鑛	一五〇、〇〇〇〃	二、四四四、五〇〇〃	四、二七〇、〇〇〇〃	一、四八九〃
本山炭鑛	一二〇、〇〇〇〃	一一、五八六、九五二〃	三一、七八〇、〇〇〇〃	一、六五四〃
山陽無煙炭鑛	四八〇、〇〇〇〃	一一、一三八、三七〇〃	一〇八、〇六〇、〇〇〇〃	三、四九五〃
計	一、八三〇、〇〇〇〃	六〇、六四〇、六九二〃	二二三、四六〇、〇〇〇〃	一五、七八六〃

炭質及用途……宇部炭は不粘結性で特に反應性強く且つ揮發分が多い。上級炭は主として硫安製造、**セメント**燒成用に、下級炭は發電用炭として利用されて居ます。

山陽無煙炭は硫黄分少く無煙無臭で火度強く火持ちが良いので工場用に、又煉炭製造用に適して居ります。

當社の山口炭田に於ける地位　當社傘下五炭鑛の全出炭量は年産百三十萬瓲で、山口炭田に於ける全出炭量の四十五**パーセント**を占めております。その内有煙炭鑛は四鑛で山口炭田有煙炭の四十四**パーセント**、無煙炭鑛は一鑛（山陽無煙鑛業所）で山口無煙炭田の四十六**パーセント**を出炭しております。尙山陽無煙鑛業所は全國第一の無煙炭鑛でありまして全出炭量の三十**パーセント**を出しております。

當社五炭鑛生産實績と生産指示量比較表（太線 生産實績　細線 生産指示量）



特色

一、内海沿岸にあつて鑛區は海陸に跨つておること。

二、海底炭鑛として全國第一で海底に無限の處女鑛區を有しておること。

三、山陽無煙炭鑛は全國第一であること。

四、各炭鑛が近接しておるため綜合的經營をなし得ること。

五、炭鑛、工場が相接して一大鑛工業地帶を形造つておること。

六、炭鑛より排出する廢土により海面を埋立て、ひとりでに土地が出來ること。

七　坑内から出た石炭をその儘船積でも、貨車積でも出來ること。

DECLASSIFIED E.O. 12065 SECTION 3 102/NARS NO.

當社の將來

1、當社石炭の埋藏量が無盡藏であること
現在判明しておる埋藏量だけでも百年以上掘り續けることが出來ます。

2、傘下の工業は重要基礎産業であること
硫安肥料、**セメント**等人間の生活に缺くことの出來ない物資の生産に當つており、何れも他に群を拔く優秀な條件に惠まれております。

3、比類のない組合せの綜合經營
地下資源を持つ地上工業。
地上工業を持つ地下産業。
運賃の掛らない石炭が使へる。
炭鑛と工場とが同じ所にあつて統一した經營が出來ます。
收益力が安定しております。
綜合經營は經濟が安定に向ふに從つて愈々威力を發揮します。

4、資産再評價と當社の含み
當社は七億圓の固定資産を有し、これを時價に換算すれば低目に計算しても七十億圓以上となり、非常に大きな含みを持つております。

5、增資と收益力
當社は近く三億圓增資を致しますが、年間の賣上高は七十億圓に達し、各事業の成績も良好でありますから賣上高に對する一**パーセント**の利益を擧げても資本に對しては二割三分三厘の利益率に相當するので業績は極めて安定しております。

當社固定資産表（昭和二十三年十月末現在）

（單位千圓）

科目＼箇所	宇部窒素工場	宇部セメント工場	宇部鉄工所	炭業部門	本社	合計
有形固定資産	**139,407**	**54,038**	**17,838**	**471,223**	**2,702**	**685,208**
土地、埋立	916	1,092	468	29,901	428	32,895
建物	37,116	22,919	8,454	197,047	422	265,958
構築物	585	5,761	477	47,276	11	54,110
主要坑道	—	—	—	108,424	—	108,424
機械、裝置	92,727	12,800	5,969	58,517	420	170,433
船舶、車輛、運搬具、器具、備品	8,063	11,466	2,470	29,968	1,421	53,388
無形固定資産	**2,955**	—	—	**22,012**	—	**24,967**
鑛業權	—	—	—	16,306	—	16,306
水利權	2,955	—	—	5,706	—	8,661
合計	**142,362**	**54,038**	**17,838**	**493,235**	**2,702**	**710,175**

沿革

當社の創業は明治三十年に遡り宇部炭田開發のため先づ沖ノ山炭鑛が設立せられ、その發展に伴ひ炭鑛用機器の製作修理を目的として宇部鉄工所が建設され、次で同鑛の石炭、粘土と附近に產出する石灰石を利用して**セメント**工業が起され、更に宇部炭の完全瓦斯化による硫安製造が始められたのでありますが、之等四事業は、同一資本系統で相互不可分の關係にあるため、經營を合理化して事業の飛躍的發展を目指し昭和十七年三月、沖ノ山炭鑛株式會社、宇部窒素工業株式會社、宇部**セメント**製造株式會社及び株式會社宇部鉄工所の合併によりて**宇部興產株式會社**が發足したのであります。その後更に隣接石炭鑛區の綜合的開發のため東見初炭鑛株式會社、本山炭鑛、山陽無煙炭鑛を合併又は買收するなど事業の擴張を圖つて今日に及んでおります。

特色

一、立地條件に惠まれておること。

工業用水並に電力が豊富であり主要原材料が地元に產出される。事業所は何れも岸壁と臨港線を持つてゐて海陸共運輸至便であります。

二、炭鑛、工場が互に隣接しておること。

各炭鑛が隣接しておるため綜合的開發と集約的經營が可能であり、又炭鑛の廢土により形成された百萬坪に及ぶ埋立地に各工場が相接して建設され恰も同一工場の如き觀を呈し事業經營上多大な利益を有しております。

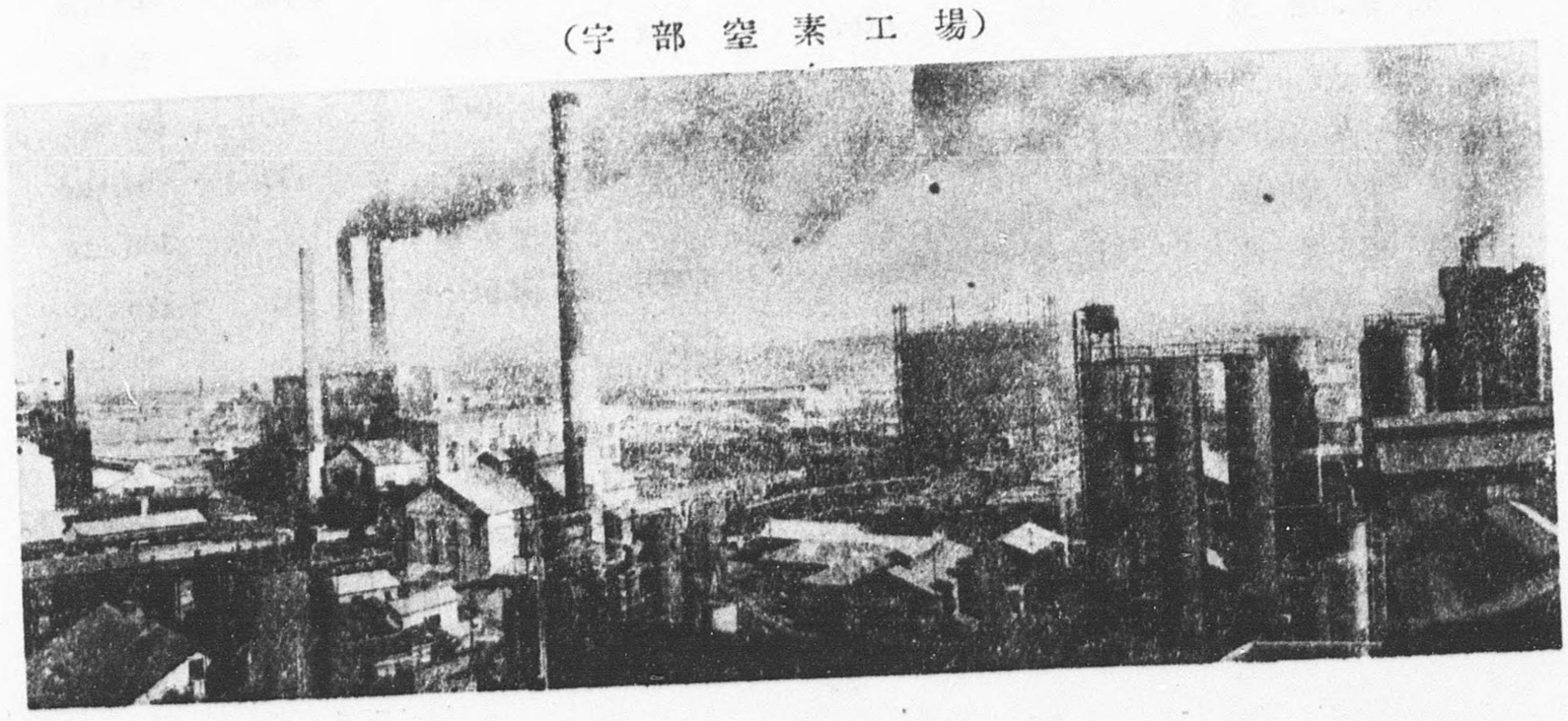
三、事業が相互に助け合つておること。

石炭を基にして硫安、**セメント**工業が成り立ち、傘下各炭鑛、工場用機械の製作修理は鉄工所で行ふことが出來ます。低品位炭は微粉燃燒により自家發電をなし動力の自給を行つております。

四、各事業が基礎的產業であること。

石炭、硫安肥料、**セメント**は經濟復興の先驅であり、いかなる時に於ても產業の原動力であります。

（宇部窒素工場）



工業部門

宇部窒素工場

主なる製品　硫安、アンモニア、硫酸、硝酸、硝安、ソルベントナフサ、タール油、パラフィン、クレゾール、ピッチ、コーライト、サッカリン

生産能力　硫安年産二〇萬瓲

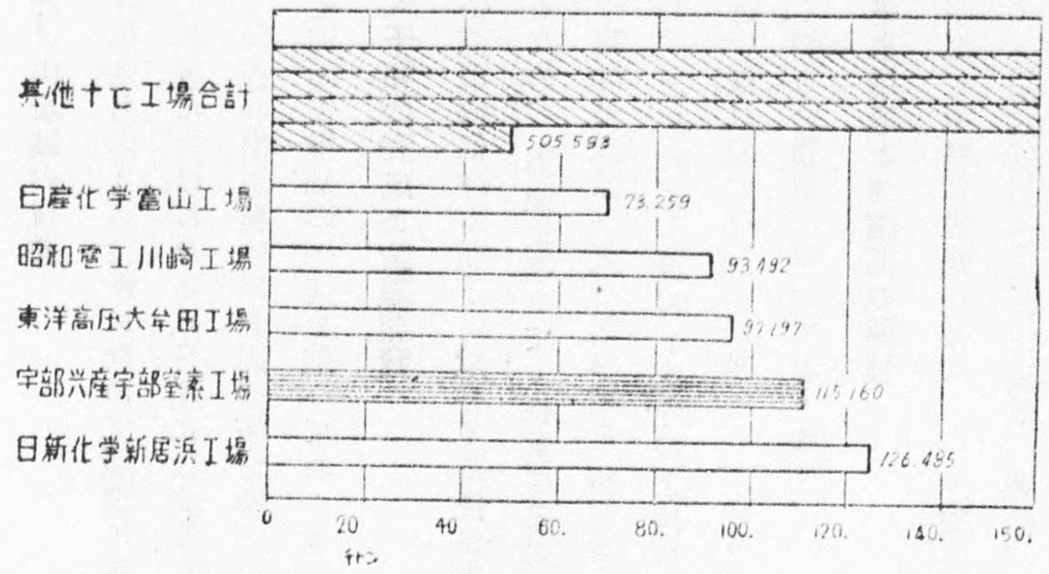
工場敷地　八三、六九二坪

建物坪數　二四、九七七坪

從業員數　四、一二五名

當工場に於ける硫安用**アンモニア**の製造方式は所謂瓦斯法であつて、戰後經濟復興に應へ萬難を排して逸早く復舊並に一部の增設工事を完成しました結果生產は向上の一途を辿り、昭和二十三年に於ては全國二十二の硫安工場中第二位の生產高を擧げました。原料炭燃料炭は傘下各炭鑛より供給を受けておりますから常に必要量を確保することが出來ます。

全國硫安工場生產高比較表　（昭和23年）



火力自家發電所（既　設）　出力　一九、〇〇〇**キロワット**

水力自家發電所（建設中）　出力　四、〇〇〇**キロワット**

山口縣營厚東川利水事業用既設**ダム**の利用による水力發電所の建設に着手し今年未完成の豫定であります。發電容量四千**キロ**、總工費一億圓でありまして、建設費も低廉であり硫安增產の鍵たる電力の確保により劃期的增產が出來ます。

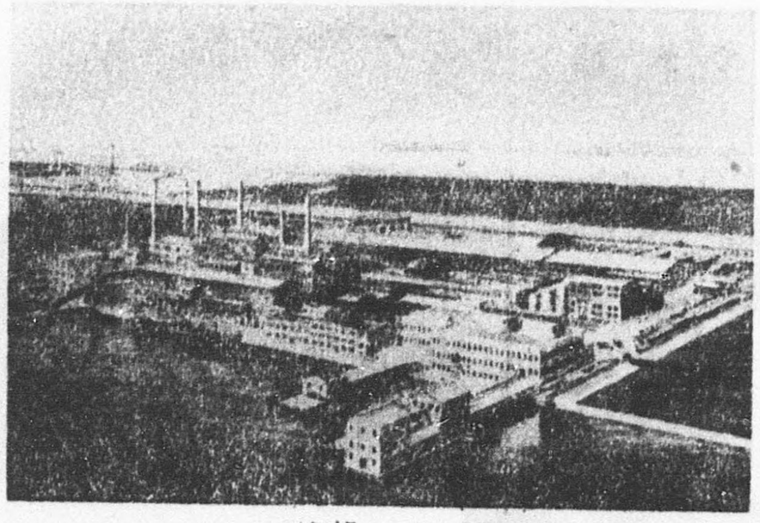
宇部セメント工場

製　品　**ポルトランドセメント、雜用セメント、スレート其の他各種セメント製品**

生產能力　年產三十四萬二千瓲

工場敷地　二五、一〇〇坪　從業員數　一、〇〇五名

建物坪數　一〇、四八六坪



（宇部セメント工場）

當工場は創立以來優良なる製品を以つて名聲を博し特に超高級**セメント**の生產に就ては本邦特異の存在であります

立地的强味は原料たる石灰石を極めて近距離にある原料採取地より入手し、石炭を傘下各炭鑛より供給を受け、又沖ノ山、東見初兩鑛より採炭の際得られる良質粘土を利用しておることです。

沖ノ山炭鑛の復舊

昨年九月の災害は幸に極めて順調に復舊し、殊に排水は豫想以上急速に行はれ來る八月迄には完全に復舊する豫定であります。現在の出炭量は災害前の半分即ち二萬噸(月)でありまして月を追ふて增加の一途を辿つております。

大干拓の完成と新鑛開發

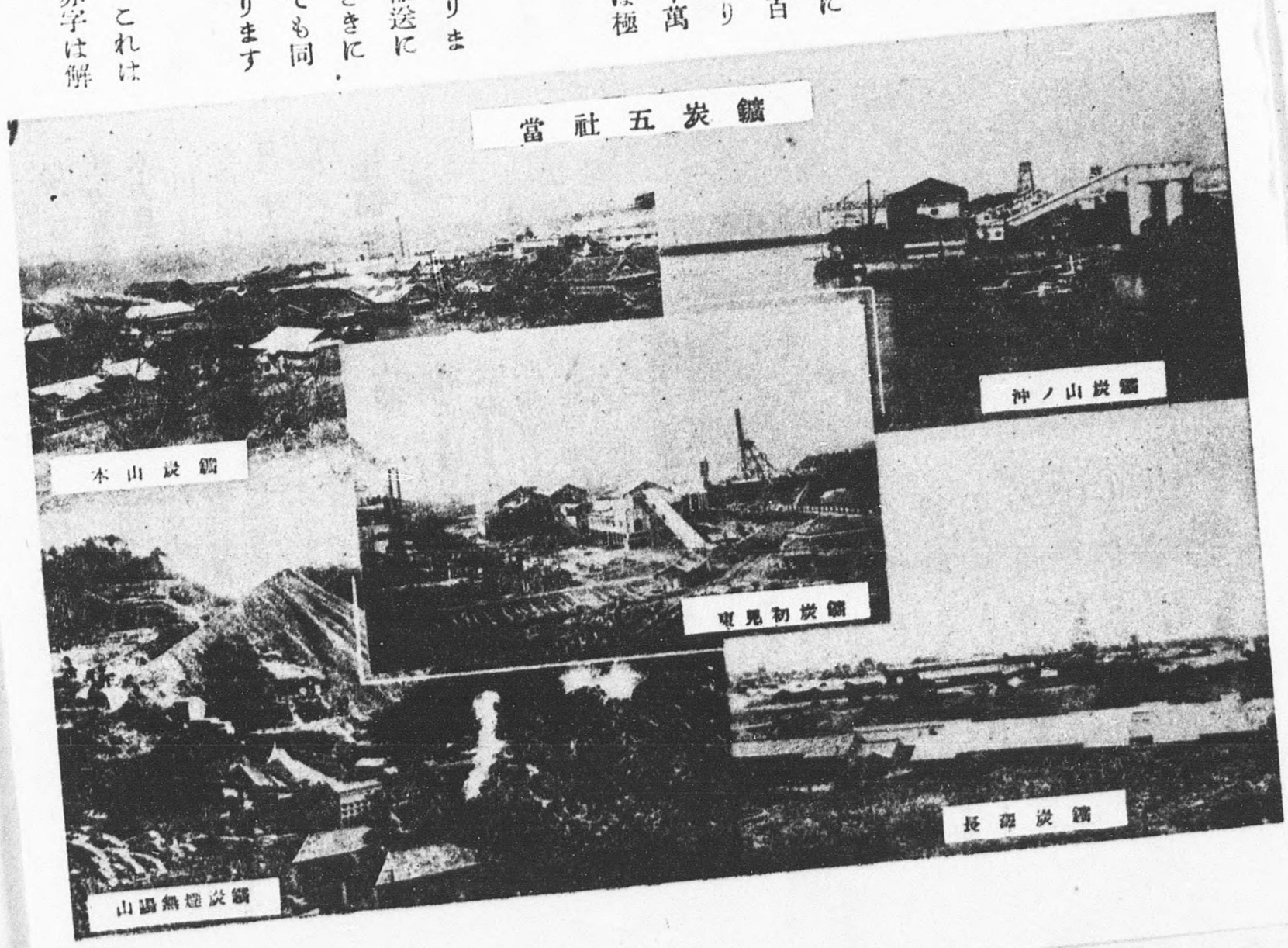
宇部市西部沖海面下に賦存する優良炭の寶庫は海底下淺部に在るため、海面を埋立て、採炭する計畫を立て、昭和十四年百五十萬坪に及ぶ一大干拓事業を起し來る五月竣工の豫定であります。これにより百五十萬坪の土地が造成されると共に一千萬噸近い優良炭の採掘が出來るのでありまして、當社の前途は極めて明るい希望に輝いております。

電車坑道と沖鑛區の開發

宇部炭田將來發展の鍵は一に沖鑛區開發にかゝつております。之が開發のためには通氣、運搬、排水並に勞務者の輸送に劃期的改善を必要としますので電車坑道掘鑿を計畫し、さきに沖ノ山炭鑛に於てはその完成を見、更に東見初炭鑛に於ても同樣な工事を進めており昭和二十六年三月完成の豫定であります

赤字補償の解決

炭鑛の赤字は全國で二百億圓と云はれておりますが、これは政府が補償することになりますので當社の炭業部門の赤字は解消する計算となります。



沖ノ山炭鑛の復舊

昨年九月の災害は幸に極めて順調に復舊し、殊に排水は豫想以上急速に行はれ來る八月迄には完全に復舊する豫定であります。現在の出炭量は災害前の半分即ち二萬噸(月)でありまして月を追ふて增加の一途を辿つております。

大干拓の完成と新鑛開發

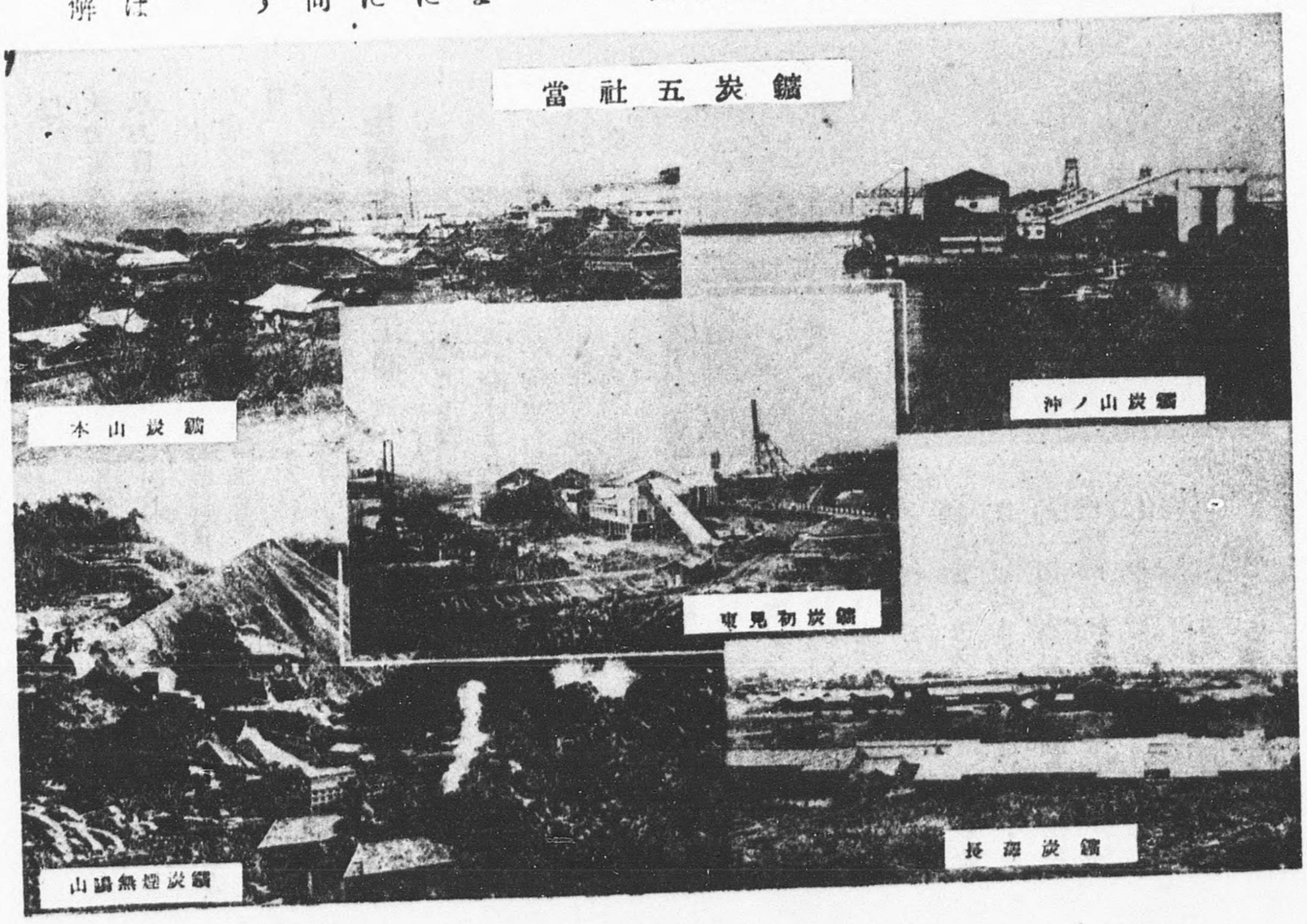
宇部市西部沖海面下に賦存する優良炭の寶庫は海底下淺部に在るため、海面を埋立てゝ採炭する計畫を立て、昭和十四年百五十萬坪に及ぶ一大干拓事業を起し來る五月竣工の豫定であります。これにより百五十萬坪の土地が造成されると共に一千萬噸近い優良炭の採掘が出來るのでありまして、當社の前途は極めて明るい希望に輝いております。

電車坑道と沖鑛區の開發

宇部炭田將來發展の鍵は一に沖鑛區開發にかゝつております。之が開發のためには通氣、運搬、排水並に勞務者の輸送に劃期的改善を必要としますので電車坑道掘鑿を計畫し、さきに沖ノ山炭鑛に於てはその完成を見、更に東見初炭鑛に於ても同樣な工事を進めており昭和二十六年三月完成の豫定であります

赤字補償の解決

炭鑛の赤字は全國で二百億圓と云はれておりますが、これは政府が補償することになりますので當社の炭業部門の赤字は解消する計算となります。



DECLASSIFIED: E.O. 12958, Sec. 3.5, NSC Memo, 11/18/98, By NARA, Date 12/31/99

113.D

COPY

Ltr, General Hqs, SCAP, AG 004.03 (29 Sep 47) ESS/IN, subj: "Surveillance Over Action Required by SCAPIN", dated 29 September 1947.

CMGR 004 2nd Ind D/WN/ltn

Headquarters, Chugoku Military Government Region, APO 317,
Kure, Honshu, 4 November 1947

TO: Commanding Officer, Yamaguchi Military Government Team,
APO 317

Your attention is invited to 1st Ind and report required by para 2 thereof. Report will be forwarded thru this headquarters.

BY ORDER OF COLONEL SNYDER:

/s/ Jerry W. Tom
/t/ JERRY W. TOM
1st Lt., AC
Adjutant

3d Ind FCW/dn

HQ YAMAGUCHI MIL GOVT TEAM, APO 317, 4 October 1948.

TO: Commanding Officer, Chugoku Military Government Region
APO 317

1. After a series of delays due to difficulties beyond the control of Ube Kosan K.K., coupled with shortages of essential materials, subject motor has been returned to Sangyo Kagaku K.K.

EUGENE J. McNAMARA
Lt. Col., Infantry
SMGO

COPY

COPY

Ltr, General Hqs, SCAP, AG 004.03 (29 Sep 47) ESS/IN, subj: "Surveillance Over Action Required by SCAPIN", dated 29 September 1947.

AG 004 (MG-Em) 1st Ind

Headquarters Eighth Army, APO 343, 30 Oct 1947

TO: Commanding Officer,
Chugoku Military Government Region, APO 317

1. Special surveillance of the action authorized by SCAPIN 4610-A, dated 29 September 1947, will include:

a. Determination of approximate date of transfer.

b. Submission by the Ube Kozan K.K. of a monthly progress report to Yamaguchi Military Government Team, concerning repair of the disabled motor.

c. Exemption of the borrowed motor from reparations inventory, and identification of same by marking "EX" thereon.

d. Compliance by the Ube Kozan K.K. with the time limits established in paragraph 3, SCAPIN 4610-A.

2. A report will be submitted this headquarters when action is completed.

BY COMMAND OF MAJOR GENERAL RYDER:

/s/ R. Schafer
/t/ R. SCHAFER
Lt. Col., AGD
Asst. Adjutant General.

Incl:
n/c

COPY

COPY

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

AG 004.03 (29 Sep 47) ESS/IN

APO 500
29 September 1947

SUBJECT: Surveillance Over Action Required by SCAPIN

TO: Commanding General, Eighth Army, APO 343

1. References are:

a. SCAP Directive No. 3 (SCAPIN 47), dated 22 September 1945.

b. Memorandum for Japanese Government from General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, AG 004.03 (29 Sep 47)ESS/IN, SCAPIN 4610-A, subject: Request for Temporary Use of Electric Motor and Accessories Necessary for Production of Fertilizer.

2. It is desired that special surveillance over the action required by reference 1b above be maintained in order to assure that the provisions contained in reference 1a above are complied with by the Japanese Government.

3. It is further desired that Eighth Army submit to General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, a report of completed action.

BY COMMAND OF GENERAL MacARTHUR:

/s/ M. Froyes
for /t/ A. J. REHE
Major, AGD
Asst Adj Gen

1 Incl
Cpy CLO 6677(EG)

COPY

COPY

JAPANESE GOVERNMENT
Central Liaison Office

TO : GENERAL HEADQUARTERS OF THE SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

FROM : Central Liaison Office, Tokyo.

SUBJECT: Request for Temporary Use of Electric Motor and Accessories necessary for Production of Fertilizer.

C.L.O. No. 6677 (EG) 25 August 1947

1. Reference:

a. SCAP Directive No. 3 (SCAPIN 47), dated 22 September 1945.

b. SCAP Memorandum AG 464.6(17 May 46)ESS/IN (SCAPIN 968, subject: "Production, Distribution and Use of Fertilizer."

2. The construction works at the Ube Kosan K.K. are being hampered by a trouble with the motor at its new air-separating plant. Investigations made for available motors in that vicinity have revealed that a motor, 1000 H.P., and its accessories, which are not being used and are in the custody of Sanyo Kagaku Co., could be advantageously used for a limited period necessary for the repair of the said disabled motor, as stated in detail in the attached letter of the Ube Chisso K.K.

3. It would be appreciated if the matter be taken up and the temporary use of the above motor and accessories be favorably considered by the General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers.

FOR THE PRESIDENT:

s/ Y. KATSUMO
for (K. Asakai)
Director of General Affairs,
Central Liaison Office.

Enclosure: A letter of Ube Kosan K.K.

COPY

COPY

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

AG 004.03 (29 Sep 47) ESS/IN
(SCAPIN 4610-A)

APO 500
29 September 1947

MEMORANDUM FOR: JAPANESE GOVERNMENT

THROUGH : Central Liaison Office, Tokyo

SUBJECT: Request for Temporary Use of Electric Motor and Accessories Necessary for Production of Fertilizer

1. References are:

a. SCAP Directive No. 3 (SCAPIN 47), dated 22 September 1945.

b. Memorandum for the Japanese Government from General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, AG 464.6 (17 May 46) ESS IN (SCAPIN 962), subject: Production, Distribution and Use of Fertilizers, dated 17 May 1946.

c. Letter, C.L.O. 6677 (EG) to General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, subject: "Request for Temporary Use of Electric Motor and Accessories necessary for Production of Fertilizer, 25 August 1947.

2. No objection is offered to the application, reference 1c, above, for transfer and temporary use by Ube Kosan K.K. of one induction motor and its accessories, now located at Sanyo Kagaku K.K.

3. Within six months, or upon completion of the repairs of the motor belonging to the Ube Kosan K.K., whichever is sooner, the motor mentioned in paragraph 2 of this memorandum, will be returned to the Sanyo Kagaku K.K.

FOR THE SUPREME COMMANDER:

FOR /s/ W. Froyes
R. M. LEVY
Colonel AGD
Adjutant General

COPY

Ltr, General Hqs, SCAP, AG 004.03 (29 Sep 47) ESS/IN, subj: "Surveillance Over Action Required by SCAPIN", dated 29 September 1947.

CMGR 004 2nd Ind D/WN/ltn

Headquarters, Chugoku Military Government Region, APO 317, Kure, Honshu, 4 November 1947

TO: Commanding Officer, Yamaguchi Military Government Team, APO 317

Your attention is invited to 1st Ind and report required by para 2 thereof. Report will be forwarded thru this headquarters.

BY ORDER OF COLONEL SNYDER:

JERRY W. TOM
1st Lt., AC
Adjutant

Ltr, General Hqs, SCAP, AG 004.03 (29 Sep 47) ESS/IN, subj: "Surveillance Over Action Required by SCAPIN", dated 29 September 1947.

AG 004 (MG-Em) 1st Ind 30 Oct 1947

Headquarters Eighth Army, APO 343

TO: Commanding Officer
Chugoku Military Government Region, APO 317

1. Special surveillance of the action authorized by SCAPIN 4610-A, dated 29 September 1947, will include:

a. Determination of approximate date of transfer.

b. Submission by the Ube Kozan K.K. of a monthly progress report to Yamaguchi Military Government Team, concerning repair of the disabled motor.

c. Exemption of the borrowed motor from reparations inventory, and identification of same by marking "EX" thereon.

d. Compliance by the Ube Kozan K.K. with the time limits established in paragraph 3, SCAPIN 4610-A.

2. A report will be submitted this headquarters when action is completed.

BY COMMAND OF MAJOR GENERAL RYDER:

/s/ R. SCHAFER
/t/ R. SCHAFER
Lt Col., AGD
Asst Adjutant General

Incl:
n/c

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

AG 004.03(29 Sep 47)ESS/IN

APO 500
29 September 1947

SUBJECT: Surveillance Over Action Required by SCAPIN

TO : Commanding General, Eighth Army, APO 343

1. References are:

a. SCAP Directive No. 3 (SCAPIN 47), dated 22 September 1945.

b. Memorandum for Japanese Government from General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, AG 004.03 (29 Sep 47)ESS/IN, SCAPIN 4610-A, subject: Request for Temporary Use of Electric Motor and Accessories Necessary for Production of Fertilizer.

2. It is desired that special surveillance over the action required by reference 1b above be maintained in order to assure that the provisions contained in reference 1a above are complied with by the Japanese Government.

3. It is further desired that Eighth Army submit to General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, a report of completed action.

BY COMMAND OF GENERAL MacARTHUR:

/s/ W. Froyes
for A.J. REHE
Major, AGD
Asst Adj Gen

1 Incl
Cpy CLO 6677(EG)

JAPANESE GOVERNMENT
Central Liaison Office

TO: GENERAL HEADQUARTERS OF THE SUPREME COMMANDER
FOR THE ALLIED POWERS

FROM: Central Liaison Office, Tokyo.

SUBJECT: Request for Temporary Use of Electric Motor and Accessories necessary for Production of Fertilizer

C.L.O. No.6677(EG) 25 August 1947

1. Reference:

a. SCAP Directive No. 3 (SCAPIN 47), dated 22 September 1945.

b. SCAP Memorandum AG 464.6(17 May 46)ESS/IN (SCAPIN 968, subject: "Production, Distribution and Use of Fertilizer."

2. The construction works at the Ube Kosan K.K. are being hampered by a trouble with the motor at its new air-separating plant. Investigations made for available motors in that vicinity have revealed that a motor, 1000 H.P., and its accessories, which are not being used and are in the custody of Sanyo Kagaku Co., could be advantageously used for a limited period necessary for the repair of the said disabled motor, as stated in detail in the attached letter of the Ube Chisso K.K.

3. It would be appreciated if the matter be taken up and the temporary use of the above motor and accessories be favorably considered by the General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers.

FOR THE PRESIDENT:

/s/ Y. KATSUMO
for (K. Asakai)
Director of General Affairs
Central Liaison Office

Enclosure: A letter of Ube Kosan K.K.

Incl.

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

APO 500
29 September 1947

AG 004.03 (29 Sep 47)ESS/IN
(SCAPIN 4610-A)

MEMORANDUM FOR: JAPANESE GOVERNMENT

THROUGH : Central Liaison Office, Tokyo

SUBJECT : Request for Temporary Use of Electric Motor and Accessories Necessary for Production of Fertilizer

1. References are:

a. SCAP Directive No.3 (SCAPIN 47), dated 22 September 1945.

b. Memorandum for the Japanese Government from General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, AG 464.6 (17 May 46) ESS IN (SCAPIN 962), subject: Production, Distribution and Use of Fertilizers, dated 17 May 1946.

c. Letter, C.L.O. 6677 (EG) to General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, subject: "Request for Temporary Use of Electric Motor and Accessories necessary for Production of Fertilizer, 25 August 1947.

2. No objection is offered to the application, reference 1c, above, for transfer and temporary use by Ube Kosan K.K. of one induction motor and its accessories, now located at Sanyo Kagaku K.K.

3. Within six months, or upon completion of the repairs of the motor belonging to the Ube Kosan K.K., whichever is sooner, the motor mentioned in paragraph 2 of this memorandum, will be returned to the Sanyo Kagaku K.K.

FOR THE SUPREME COMMANDER:

/s/ W. Froyes
For R.M. LEVY
Colonel AGD
Adjutant General

UBE CHISSO FACTORY
UBE KOHSAN CO.,LTD.
Sept 23 '48

TO:- COMMANDING OFFICER
AMERICAN MILITARY GOVERNMENT TEAM
YAMAGUCHI

SUBJECT:- Report of the return of borrowed motor

Sir,

Herewith we wish to report you that we finished to send back the 1,000 HP motor, which we could borrow in August last year through your assistance, to the Sanyoh Ka gaku Go.,Ltd. by Sept 22 '48.

We recall just at this moment that when we found out our motors in no capacity at all by the wrong design of the manufacturer just at its test-run, we were in fact at a loss to learn how could we meet with the Govt's quota s for the production of chemical fertilizer which was strictly required for the reconstruction of the devastated a griculture to moderate that stringent foodstaff situation at that time. Fortunately, however, we could obtain the abovementioned motor through your effective aid, by which we could increase the output of ammonium s ulphate by preventing the decrease of about 1,500 tons in every month and in April and Ma y '48, we could at las t produce over 10,000 tons which had been a long expected target since the end of war.

On the other hand,as our motor have, in the meantime, been repaired even though its process was beeing unexpectedly delayed by enormous difficulties in its course, now we are going to operate it from Sept. 25.

We hope hereby from the bottom of our hearts that our innermost feelings for your helpful aids you have shown us from the beginning to the end of this phase could be granted.

Sincerely yours,

K. Nakayasu

(KANICHI NAKAYASU)
Director of the Ube Chisso Factory
Ube Kosan Co., Ltd.

113.D

file

Report on the condition of our factory

January 24, 1948

The Ube Chisso Factory,

The Ube Kosan Co., Ltd.

= INDEX =

(1). General outline of the progress of this factory since its establishment. ---------- Page 1

(2). General outline of manufacturing process. ---------- Page 2

(3). The location of plants of the factory. ---------- Page 5

(4). Amount of main products in this factory since its establishment. ---------- Page 6

(5). Outline of employees and Trade Union. ---------- Page 7

(6). The condition of raw materials:

(1). Coal ---------- Page 8
(2). Electric power ---------- Page 11
(3). Pyrite ---------- Page 14
(4). Gas supply from the SANYO KAGAKU Co. Ltd. ---- Page 17

(7). General outline of recent production of our factory. ---------- Page 18

(8). Consumption unit of raw materials per ton of Ammonium Sulphate in recent-time. ---------- Page 20

1. General outline of the progress of this factory since its establishment

Though the coal produced in the Ube district was low in its quality, similar to that of Brown coal, and had been regarded as useless for industry, investigation was made to utilize it for industry since 1929. Through the investigation, however, it was found that the coal could be gasified and this factory was consequently established to utilize this coal in 1938. Since our establishment of the factory, instalment of equipments had been gradually increased and the capacity of plant became 200,000 tons of Amm. Sulphate per year.

However, due to the overusing of the equipments without making necessary repairing during the war, the main parts of our factory were conciderably damaged and the capacity of the production was greatly lowered when the war was ended. So, immediately after the end of war we had started the reconstruction of the factory against all the difficulties confronted. Now, we have completed 80% of the reconstruction works and we shall complete the reconstruction works and can produce 200,000 tons of Amm. Sulphate per year from the end of this year.

(Particulars of the progress are shown in the next sheet)

THE OUTLINE OF THE PROGRESS OF THE UBE

Date	Capital (Unit-Yen)	Progress	Amm. Sulphate
Apr., 1933	5,000,000	Established the Ube Chisso Industry Co., Ltd	
July, 1934	〃 〃	Finished the construction works of the No.1 term equipment.	50,000T/yea
Dec., 1935	7,500,000	Finished the construction works of the No.2 term equipment	50,000T/yea
Dec., 1937	25,000,000	Finished the construction works of the No.3 term equipment	100,000 〃
Total capacity of our factory			200,000T/yea
Mar., 1942	¥1,637,500 (Ube Industrial Co., Ltd.)	The Ube Kosan Co., Ltd (the Ube Industrial Co., Ltd.) was established and the Ube Chisso Industry Co., Ltd. was absorbed with the following companies; The Okinoyama Coal Mine, Ltd. The Ube Cement Mfg. Co., Ltd. The Ube Iron Works, Ltd. And afterwards, she affiliated the following companies; The Higashi-mizome Coal Mine, Ltd. The Motoyama Coal Mine, Ltd. The Sanyo Anthracite Mine, Ltd.	
After the World War II	First reconstruction funds ¥128,000,000 Second reconstruction funds ¥50,000,000 (Expectation)	Started the reconstruction works. In Jan., 1948:80% of reconstruction works was finished. By the end of this year, all the reconstruction works will be completed.	Present capac 150,000T/year (In Jan., 19

Note: By-product plants (Tar refinery, Nitric acid, and Amm. nitrate
with the construction of Amm. Sulphate plant.

DECLASSIFIED E.O. 12065 SECTION 3 (E), MAR 31

OUTLINE OF THE PROGRESS OF THE UBE CHISSO FACTORY

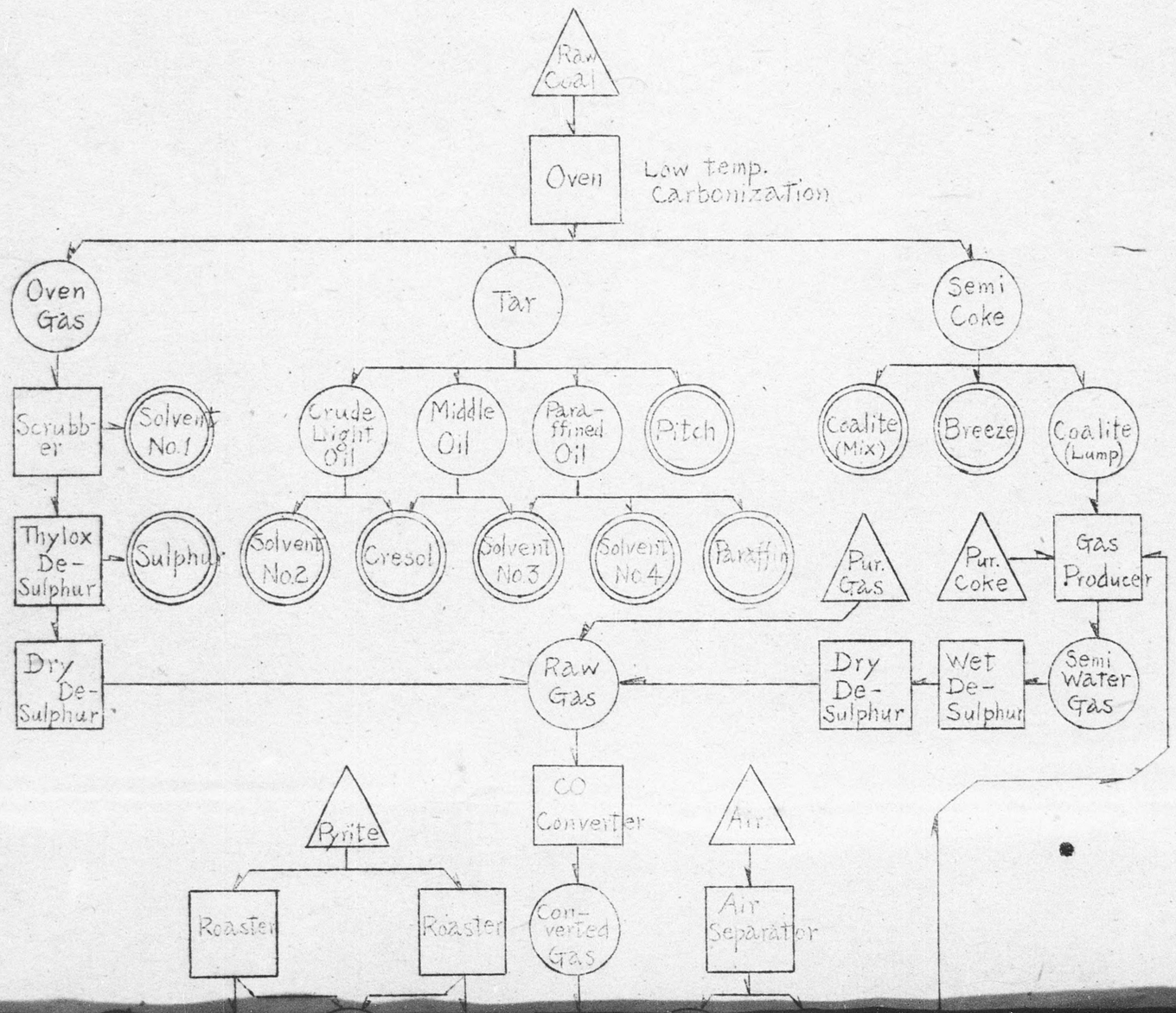
gress	Equipment Capacity		
	Amm. Sulphate	Sulphuric Acid	Electric Power
he Ube Chisso Ltd			
construction works erm equipment.	50,000T/year	90T/day (50°Be)	
construction works erm equipment	50,000T/year	180T/day (50°Be)	Boiler 3 sets Generator 2 sets 12,000KW
construction works erm equipment	100,000 "	470 " (50°Be)	Boiler 3 sets Generator 1 set 13,000KW
tory	200,000T/year	740T/day (50°Be)	Capacity of generating power 25,000KW (authorized capacity 19,000KW)
Co., Ltd (the Ube o., Ltd.) was and the Ube Chisso , Ltd. was absorbed llowing companies; ama Coal Mine, Ltd. ment Mfg. Co., Ltd. on Works, Ltd. ds, she affiliated g companies; i-mizome Coal Mine, ma Coal Mine, Ltd. Anthracite Mine, Ltd.			
reconstruction works. 48:80% of reconstruction nished. of this year, all the ion works will be	Present capacity 150,000T/year (In Jan., 1948)	Present capacity 400T/day (50°Be) (In Jan., 1948)	Present capacity 13,000KW (In Jan., 1948)

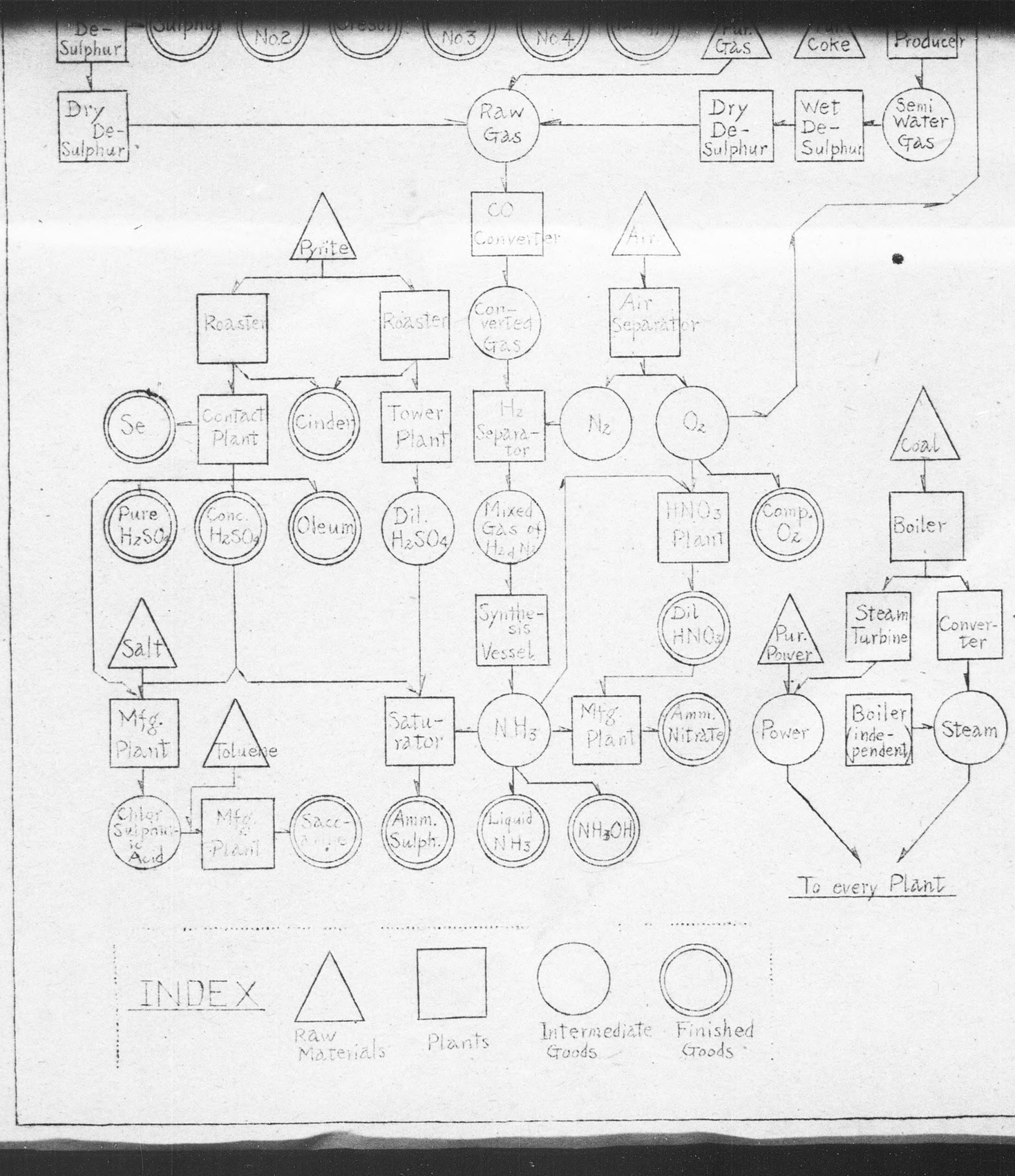
finery, Nitric acid, and Amm. nitrate plant) were installed in parallel
mm. Sulphate plant.

2. General outline of manufacturing process and

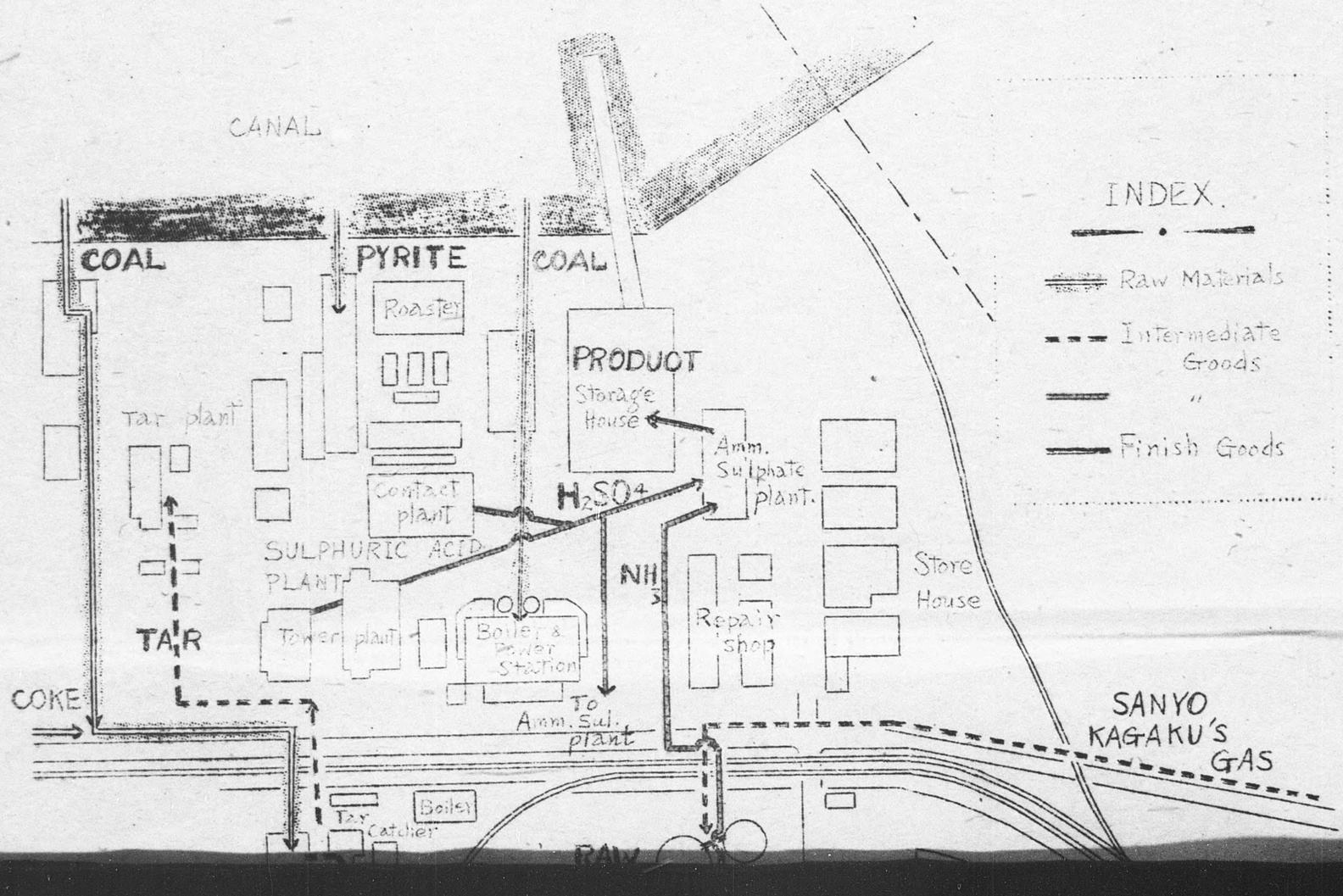
3. The location of plants of the factory (shifting courses of raw materials are also shown)are shown in the next sheets.

FLOW SHEET


Raw Coal
Oven
Low temp. Carbonization
Oven Gas
Tar
Semi Coke
Scrubber
Solvent No.1
Crude Light Oil
Middle Oil
Paraffined Oil
Pitch
Coalite (Mix)
Breeze
Coalite (Lump)
Thylox De-Sulphur
Sulphur
Solvent No.2
Cresol
Solvent No.3
Solvent No.4
Paraffin
Pur. Gas
Pur. Coke
Gas Producer
Dry De-Sulphur
Raw Gas
Dry De-Sulphur
Wet De-Sulphur
Semi Water Gas
Pyrite
CO Converter
Air
Roaster
Roaster
Converted Gas
Air Separator


De-Sulphur
No.2
No.3
No.4
Coke
Producer
Dry De-Sulphur
Raw Gas
Dry De-Sulphur
Wet De-Sulphur
Semi Water Gas
Pyrite
CO Converter
Air
Roaster
Roaster
Con-verted Gas
Air Separator
Se
Contact Plant
Cinder
Tower Plant
H2 Separa-tor
N2
O2
Coal
Pure H2SO4
Conc. H2SO4
Oleum
Dil. H2SO4
Mixed Gas of H2 & N2
HNO3 Plant
Comp. O2
Boiler
Salt
Synthe-sis Vessel
Dil HNO3
Pur. Power
Steam Turbine
Conver-ter
Mfg. Plant
Toluene
Satu-rator
NH3
Mfg. Plant
Amm. Nitrate
Power
Boiler inde-pendent
Steam
Chlor. Sulpha-ic Acid
Mfg. Plant
Amm. Sulph.
Liquid NH3
NH4OH
To every Plant
INDEX
Raw Materials
Plants
Intermediate Goods
Finished Goods

THE DIAGRAM OF UBE CHISSO FACTORY



Finish Goods

Tar plant

House

Amm. Sulphate plant.

Contact plant

H_2SO_4

SULPHURIC ACID PLANT

NH_3

Store House

Repair shop

Tower plant

Boiler & power Station

TAR

COKE

To Amm. Sul. plant

SANYO KAGAKU'S GAS

Tar Catcher

Boiler

RAW GAS

Office

Gas Oven & Producer

Dry De-sulphur

Thylox

CO Converter

GAS

Ammonia Synthesis Plant

Storage House

PRODUCT

Amm. Sulphate plant

NH_3

Nitric Acid & Amm. Nitrate Plant

REST-GAS

O_2

AIR

new constructed air separating plant

UBE HARBOUR

DECLASSIFIED E.O. 12065 SECTION 3 (E), MR

4. Amount of main products produced in this factor

Name / Unit / Month / Year	Ammonia (ton)	Amm. Sulphate (ton)	Sulphuric Acid (ton) (50°Be)	Nitric Acid (ton) 50-62%	Nitric Acid (ton) 98%
1934	3,712	13,400	11,934	—	—
1935	12,137	44,040	38,588	—	—
1936	26,408	97,412	100,021	—	—
1937	27,790	97,479	96,064	330	27
1938	39,739	164,911	210,967	7,201	978
1939	44,619	146,210	184,953	11,800	1,658
1940	47,532	154,488	190,501	?	2,034
1941	50,344	169,321	202,547	10,513	2,176
1942	47,434	153,101	184,090	9,774	2,576
1943	42,129	124,183	168,290	14,846	5,789
1944	32,130	92,325	140,948	14,554	5,630
1945	10,155	27,682	64,439	6,343	2,455
1946	12,959	44,942	67,904	312	—
1947	24,562	86,135	109,269	901	—

Note: The index number of production in case of the p

Year	Ammonia	Amm. Sulphate	Sulphuric Acid	50-62%
1945	20.2%	16.3%	31.8%	60.
1946	25.7"	26.5"	33.4"	3.
1947	48.8"	50.8"	53.8"	8.

DECLASSIFIED E.O. 12065 SECTION 3 (E)(1) MDS NO. [redacted]

ucts produced in this factory since its establishment is as follows

phuric d (ton) Be)	Nitric Acid (ton)		Amm. Nitrate (ton)	Products from the Low Temp. tar (KL)					
	62%	98%		Light Solv. No.1	Light Solv. No.2	Heavy Solv. No.1	Heavy Solv. No.2	Paraffin (ton)	Cresol (ton)
1,934	—	—	—	25					
8,588	—	—	—	72					
0,021	—	—	—	256					
96,064	330	27	130	127					
10,967	7,201	978	3,437	412		2,275	936	285	
34,953	11,800	1,658	4,636	1,170		3,346	5,004	282	
90,501	?	2,034	5,092	1,624		2,519	5,733	231	
02,547	10,513	2,176	4,786	1,478	374	3,100	6,082	265	202
34,090	9,774	2,576	3,608	1,371	945	3,473	5,022	285	242
68,290	14,846	5,789	3,827	1,075	927	4,392	3,292	194	162
40,948	14,554	5,630	3,630	1,250	1,390	4,275	4,096	146	409
64,439	6,343	2,455	1,761	345	497	1,508	2,674	37	92
67,904	312	—	151	364	243	889	2,800	3	6
09,269	901	—	567	505	453	1,508	1,925	82	156

f production in case of the production in 1941 being 100% is as follows

phate	Sulphuric Acid	62%	98%	Amm. Nitrate	Products from Low Temp. tar
%	31.8%	60.5%	1113%	36.6%	44.7%
"	33.4"	3.0"	—	3.16"	37.5%
"	53.8"	8.6"	—	11.9"	40.0%

5. Outline of employees and trade union

Number of employees of this factory at present (in Jan., 1948)

Male	3,100
Female	297
Total	3,397

The trade union in this factory was formed in February 1946 by all the employees. Since then, our union has made a very sound progress as a member of Japan Federation of Trade Union. There was not any labor trouble happened since the formation of the union. All the employees fully recognized the fact of defeat of our nation, and realized the production of Amm. Sulphate by the factory will promote the production of Rice and other food, and have exerted all their efforts for increasing the production of Amm. Sulphate. This attitude of the employees of the factory promoted the reconstruction of the plants.

6. The condition of raw material supplies.

(1) Coal

As shown in the below diagram, the total amount of coal produced in the Ube district has gradually increased in recent time, but the output of high grade coal has not been increased much. The high grade coal is produced almost in the seaside coal-mines and all these mines are now intending to exploit new mine-lot, arranging the old mine-lot. Until they can find new mine-lot, they must continue the digging of coal in the present mine-lot. Therefore, we cannot expect a sudden increase in the amounts of high grade coal in near future.

Month Year	Total output	Detail					
		Lump			Powder		
		High grade	Middle grade	Low grade	High grade	Middle grade	Low grade
Jan., 1947	133,160	3,383	18,074	38,204	2,560	3,765	67,174
Feb., "	139,738	3,827	19,834	39,683	9,217	3,652	63,525
Mar., "	156,359	3,478	22,046	47,858	3,188	4,289	75,500
Apr., "	131,962	3,765	18,546	28,495	4,118	9,609	67,429
May., "	126,453	4,155	26,249	20,203	2,619	8,132	65,095
Jun., "	140,489	4,282	27,859	33,118	2,290	8,682	64,258

the digging of coal in the present mine-lot. Therefore, we cannot expect a sudden increase in the amounts of high grade coal in near future.

Month Year	Total output	Detail					
		Lump			Powder		
		High grade	Middle grade	Low grade	High grade	Middle grade	Low grade
Jan., 1947	133,160	3,383	18,074	38,204	2,560	3,765	67,174
Feb., "	139,738	3,827	19,834	39,683	9,217	3,652	63,525
Mar., "	156,359	3,478	22,046	47,858	3,188	4,289	75,500
Apr., "	131,962	3,765	18,546	28,495	4,118	9,609	67,429
May., "	126,453	4,155	26,249	20,203	2,619	8,132	65,095
Jun., "	140,489	4,282	27,859	33,118	2,290	8,682	64,258
Jul., "	154,603	3,879	30,099	39,074	1,632	9,522	70,397
Aug., "	156,313	3,735	30,477	39,452	1,539	9,207	71,901
Sept., "	169,409	4,227	29,943	44,044	1,866	10,558	78.771
Oct., "	171,703	2,552	23,778	52,727	2,558	10,748	79,340
Nov., "	196,303	6,066	25,626	55,549	6,716	12,793	89,553
Dec., "	212,242	7,772	24,556	67,736	6,351	6,773	99,054

For our gas oven, we require the lump coal of high grade above mentioned, but in recent time the allocation of this coal for us has been only 35% to the necessary amount. So, we have been obliged to use the unsuitable coal which is even below the middle grade. The coal produced in the coal mines far from the seaside is very low in its quality (almost all is below 3,000 Cal.) and can not be utilized for industry. Further, in recent time, the difficulty of the coal transportation has increased the amount of the stock of coal and hindered the increase of the output of coal in these coal-mines.

(continued)

DECLASSIFIED E.O. 12065 SECTION 3 NND

(continued)

Whereas, the boilers of the private power plant have been especially designed so as to treat this sort of low grade coal with the method of combustion of pulverized coal, so we have always petitioned for the authorities concerned to increase the allocation of this coal for our factory.

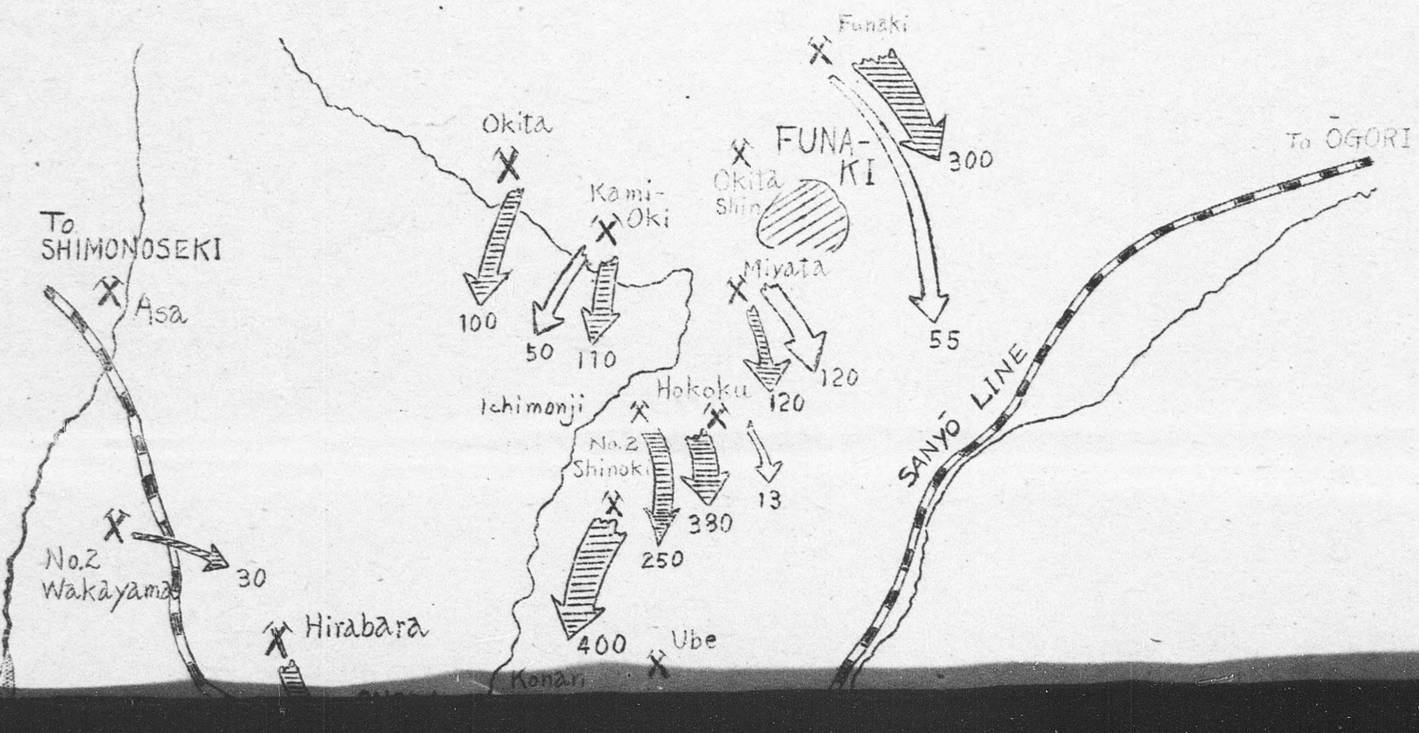
The amount of coal received from each coal-mines in recent time are shown in the attached sheet.

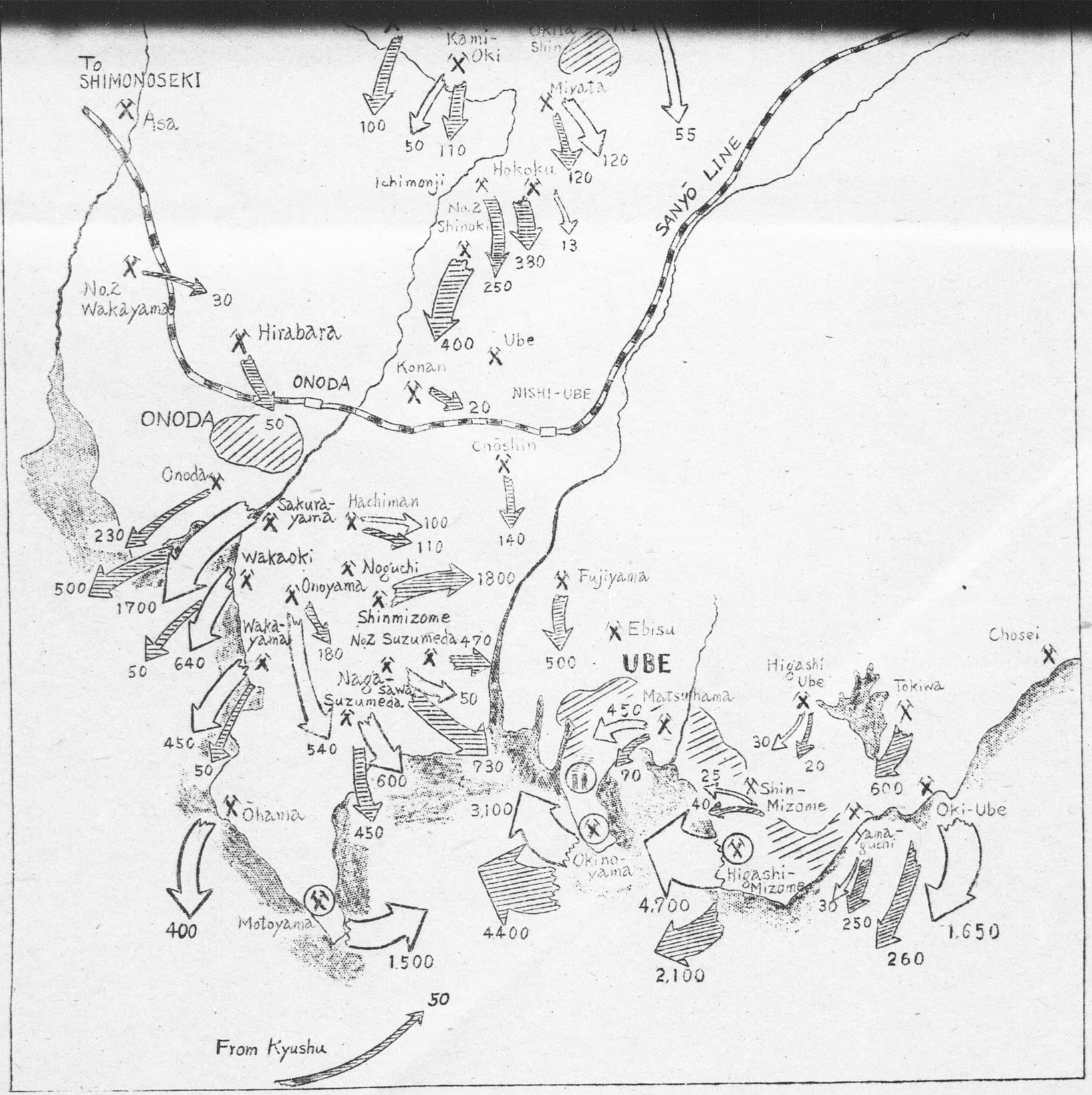
THE COAL RECEIVING DIAGRAM

※ This Diagram shows the average figure from Sep. 1947 to Dec. 1947.

INDEX

- Coal for Gas
- Coal for Boiler
- Coal Mines
- Coal Mines of UBE KOSAN Co. Ltd




To SHIMONOSEKI
Asa
Kami-Oki
Miyata
Ichimonji
Hokoku
No.2 Shinoki
No.2 Wakayama
Hirabara
ONODA
ONODA
Konan
Ube
NISHI-UBE
SANYŌ LINE
Chōshin
Onoda
Sakura-yama
Hachiman
Wakaoki
Noguchi
Onoyama
Shinmizome
No.2 Suzumeda
Waka-yama
Naga-sawa
Suzumeda
Fujiyama
Ebisu
UBE
Matsuhama
Higashi Ube
Tokiwa
Chosei
Shin-Mizome
Oki-Ube
Yama-guchi
Ōhama
Okino-yama
Higashi-Mizome
Motoyama
From Kyushu
100
50
110
55
120
120
13
380
250
400
30
20
50
230
500
1700
50
640
180
1800
470
500
50
450
540
730
450
50
600
450
3,100
70
25
40
30
20
600
400
1,500
4400
4,700
2,100
30
250
260
1,650
50

(2) Electric Power:

In these recent days, purchase of electric power is very hard so that operation of our factory is very difficult. Our factory is trying to complement the shortage in electric power supply by our operation of our own electric power generation plant. Now in our due condideration of shortage in supply since the war was over, we are especially endeavouring to complete the equipment of boiler and have now already completed 2/3 of equipment completion.

Recently, as much as supply of coal is permitted, we are generating electric power in full ability. However, supply of coal is not sufficient now and the boiler can not be fully operated and our production is now being low due to the shortage in electric power. However, as we previously explained due to the low grade of coal produced in the Ube district and difficulty in transportation of coal, utility of coal here is very low. Furthermore, in consideration of the storage of the coal, lowers grade of the coal, great amount of coal supply is required as our factory equipments are constructed to utilize lower grade produced in the Ube district. Although it is needless to say that cost of generating our electric generation plant is much higher than purchasing the electric power, in our due concideration of decrease in our production little supply of

the shortage in electric power supply by our operation of our own electric power generation plant. Now in our due condideration of shortage in supply since the war was over, we are especially endeavouring to complete the equipment of boiler and have now already completed 2/3 of equipment completion.

Recently, as much as supply of coal is permitted, we are generating electric power in full ability. However, supply of coal is not sufficient now and the boiler can not be fully operated and our production is now being low due to the shortage in electric power. However, as we previously explained due to the low grade of coal produced in the Ube district and difficulty in transportation of coal, utility of coal here is very low. Furthermore, in consideration of the storage of the coal, lowers grade of the coal, great amount of coal supply is required as our factory equipments are constructed to utilize lower grade coal produced in the Ube district. Although it is needless to say that cost of generating our electric generation plant is much higher than purchasing the electric power, in our due concideration of decrease in our production little supply of electric power, to be supplied during the dry season, it is necessary to utilize the low grade coal to operate the plant to manufacure ammonium sulphate. Although the condition of electric power purchase is now same as previously explained, the dispcsition of electric power has little improved and trouble in operation of the factory has also been decreased.

Decrease in our production in 1947 by supply of electric power by purchase and our generation plant is shown in a separated sheet attached.

AM'T OF PRIVATE POWER AND PURCHASE POWER CONSUMED IN 1947

Month	Private Power (KWH)	Purchase Power (KWH)	Total	Remarks
Jan.	1800,700	4881,980	6682,680	
Feb.	1773,660	5,794,420	7568,080	
Mar.	1687,390	8,339,180	10026,570	
Apr.	1371,600	8,811,820	10193,420	
May	2101,860	9,037,610	11139,470	
Jun.	2884,060	7865,240	10749,300	
Jul.	3543,820	8,517,150	12060,970	
Aug.	2940,900	6,149,200	9090,100	
Sep.	4115,280	6,414,560	10529,840	
Oct.	5848,060	5.834,020	11682,080	
Nov.	4763,950	3,936890	8700,840	
Dec.	4531,680	5,144.580	9676,260	

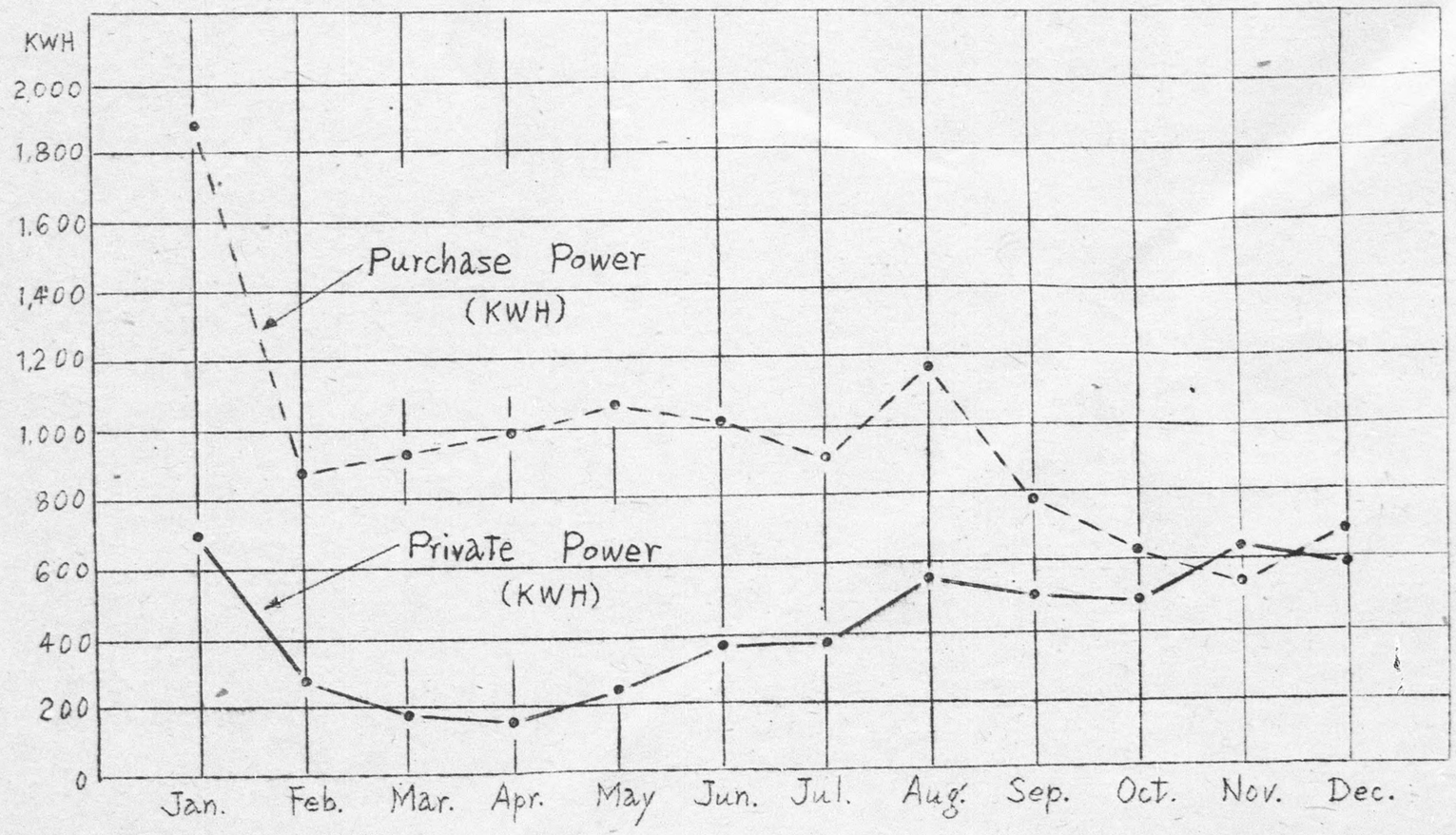
The index number of generated quanty in the power station of the Nihon Hassoden Co. Ltd. (Japanese Electric generating Co. Ltd.) in the "CHUGOKU" district, in case of the generated amount in our Power station in Dec. 1947 being "100%" ———

SANBA ---- 198%
SAKA ----- 200"
MATSUE ----27"
UBE ------ 240"
ONODA ----173"
MAEDA ----48"

Jul.	3543,820	8,517,150	12060,970
Aug.	2940,900	6,149,200	9090,100
Sep.	4115,280	6,414,560	10529,840
Oct.	5848,060	5.834,020	11682,080
Nov.	4763,950	3.936890	8700,840
Dec.	4531,680	5,144.580	9676,260

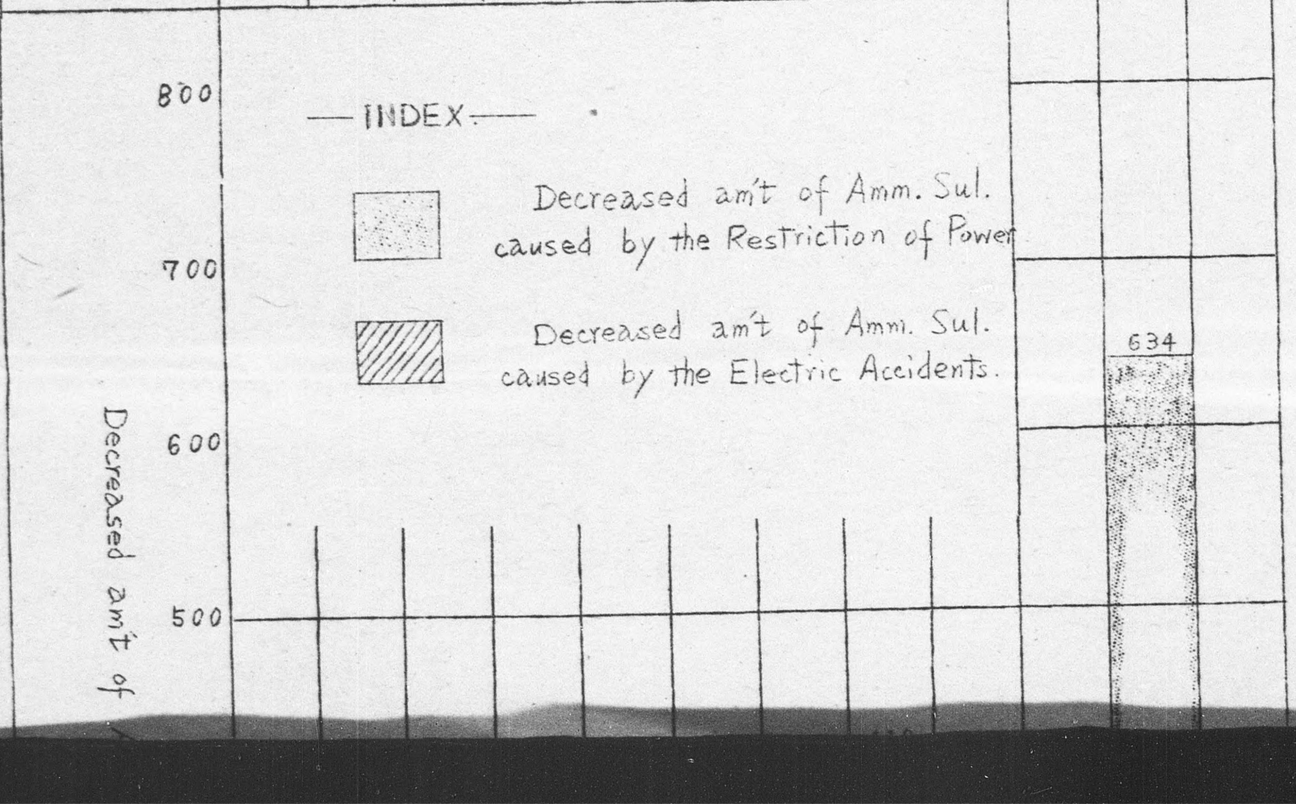
SANBA ---- 198 %
SAKA ----- 200 "
MATSUE ----- 27 "
UBE ------ 240 "
ONODA ---- 173 "
MAEDA ---- 48 "

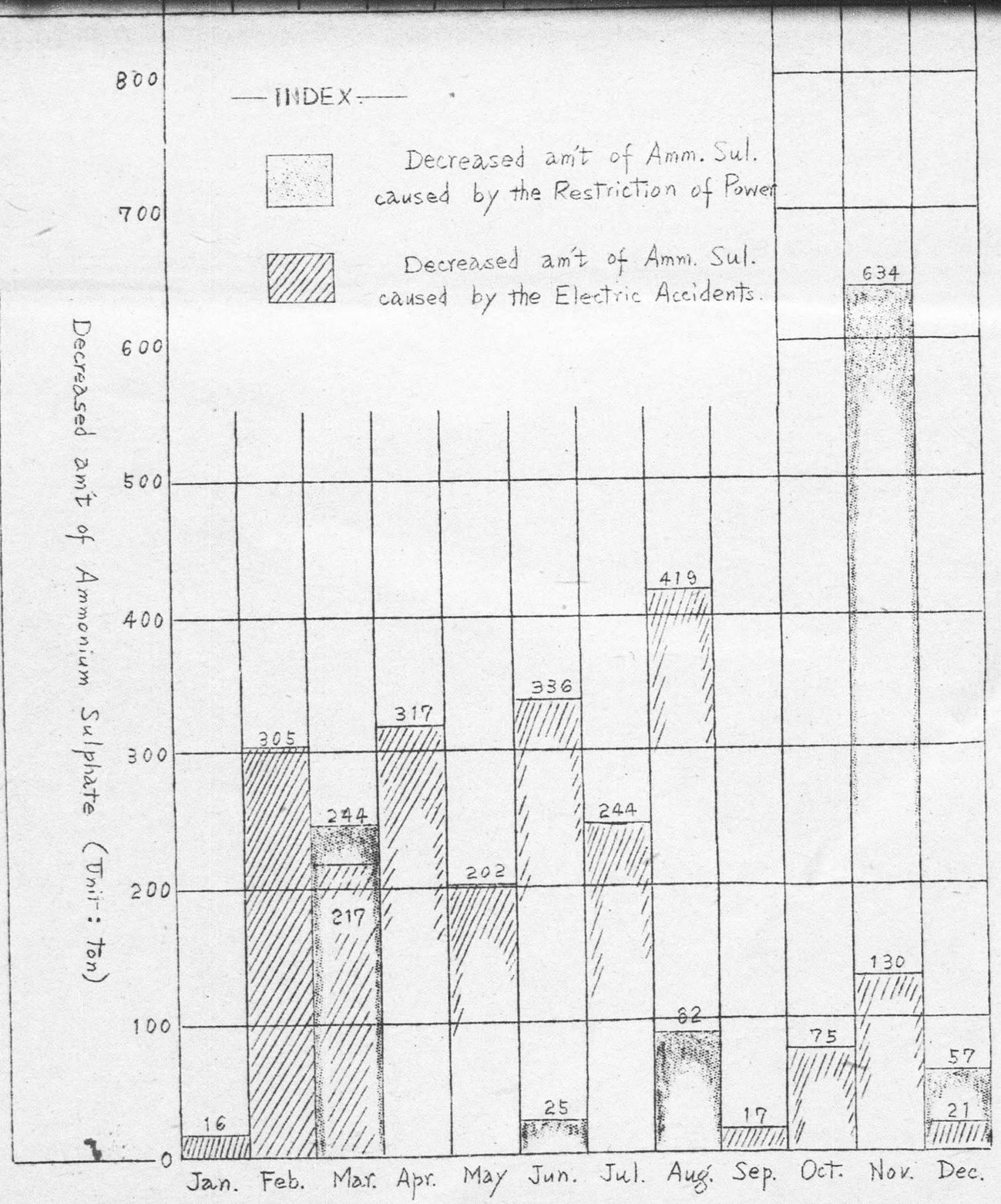
AM'T OF PRIVATE POWER & PURCHASE POWER PER TON OF AMMONIUM SUL.



DECREASED AM'T. OF AMMONIUM SUL. CAUSED BY THE RESTRICTION & ELECTRIC ACCIDENTS OF PURCHASE POWER IN 1947.

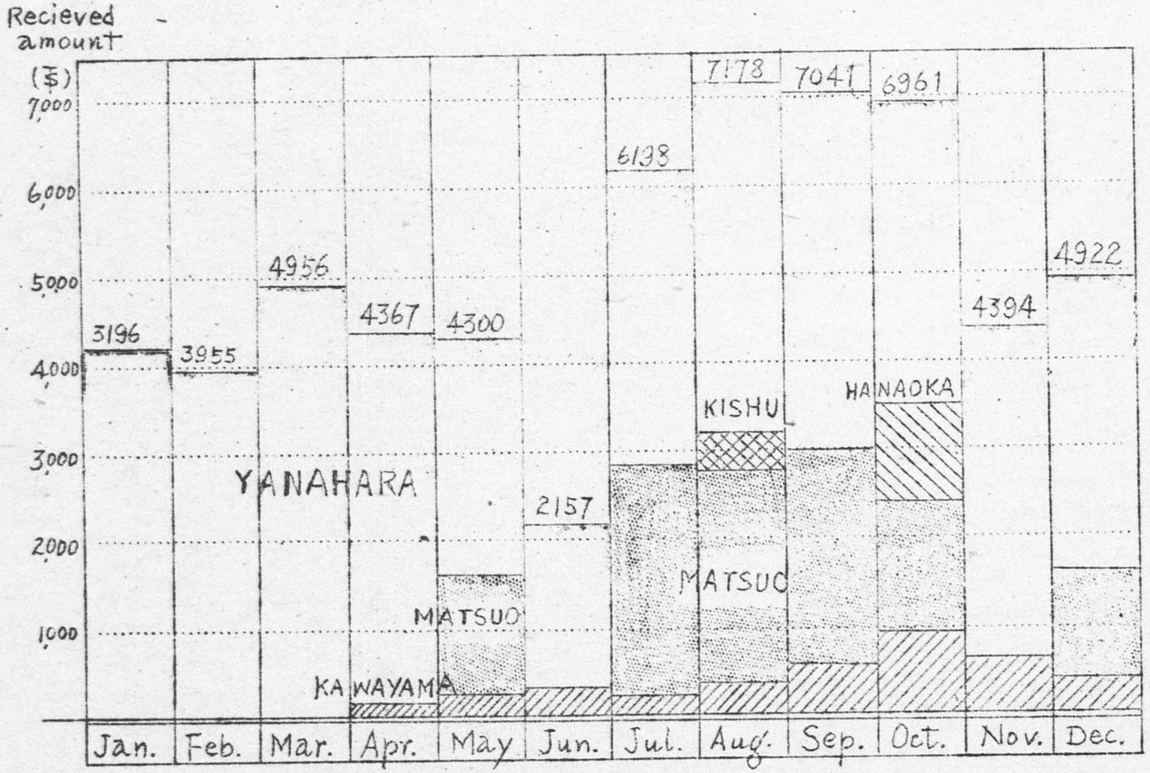
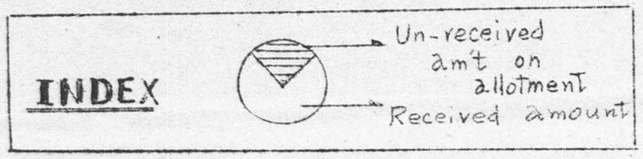
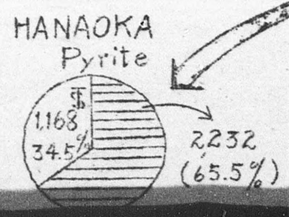
	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May.	Jun.	Jul.	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.
Decreased Am't caused by restriction of power	—	—	244	—	—	25	—	82	—	—	634	57
Decreased Am't caused by Accidents	16	305	217	317	202	336	244	419	17	75	130	21
Total	16	305	461	317	202	361	244	501	17	75	764	78




— INDEX —
Decreased am't of Amm. Sul. caused by the Restriction of Power
Decreased am't of Amm. Sul. caused by the Electric Accidents.
Decreased am't of Ammonium Sulphate (Unit: ton)
800
700
600
500
400
300
200
100
0
16
305
244
217
317
202
336
25
419
244
82
17
75
634
130
57
21
Jan.
Feb.
Mar.
Apr.
May
Jun.
Jul.
Aug.
Sep.
Oct.
Nov.
Dec.

(3) Pyrite

Most portion of Pyrite used in our factory was with Yanahara Pyrite. The particular of Pyrite supplies is shown in separate sheet attached. Supply of Pyrite to our factory was changed and about 1/2 of it we required was supplied with Matsuo and Hanaoka ores since May, 1947.

The roasters in our factory are large and the treating amount is comparatively large. When using different kinds of ores frequently the heat of roaster drops and it can not kept and lowers the rate of our factory's operation. Therefore,we wish to utilize Yanahara ore mainly if it is possible. Condition of ore supplies is shown under separate sheet attached.

THE PYRITE RECEIVING DIAGRAM IN 1947